



# BEA WebLogic Server™ およ び WebLogic Express™

## インストールガイド

バージョン 7.0  
マニュアルの改訂：2004 年 4 月 8 日  
パート番号：860-001001-011

# 著作権

Copyright © 2003 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

## 限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・イー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複製、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

## 商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Liquid Data for WebLogic、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop、および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

# 目次

## このマニュアルの内容

e-docs Web サイト .....	x
このマニュアルの印刷方法 .....	x
関連情報 .....	x
サポート情報.....	xi
表記規則 .....	xii

## 1. WebLogic Server のインストール準備

対象読者 .....	1-2
BEA WebLogic Server のインストール プログラム .....	1-2
WebLogic Express のサポート .....	1-3
インストール方法 .....	1-3
WebLogic Server の配布方法.....	1-4
WebLogic Server の Web 上での配布.....	1-4
WebLogic Server の CD-ROM での配布 .....	1-5
この他に、サービス パックとローリング パッチの Web 上での配布 .....	1-6
BEA WebLogic JRockit 7.0 について .....	1-7
インストールの前提条件 .....	1-8
システム要件 .....	1-9
一時的ストレージ領域の要件.....	1-10
Administrator 特権.....	1-11
ライセンスと暗号 .....	1-12
128 ビット暗号について .....	1-12
インストール タイプの選択.....	1-13

標準インストール	1-13
カスタム インストール	1-14
WebLogic Server インストールのディレクトリ選択	1-15
BEA ホーム ディレクトリ	1-15
BEA ホーム ディレクトリの機能について	1-17
複数の BEA ホーム ディレクトリを作成する	1-19
製品のインストールディレクトリ	1-19
冗長なインストール ログの生成	1-19
構文	1-20
アップグレードと移行に関する情報の参照先	1-20
Smart Update の概要	1-21

## 2. グラフィカルモード インストールによる WebLogic Server のインストール

始める前に	2-1
Windows プラットフォーム上でのグラフィカル モードによるインストール プログラム の開始	2-2
UNIX プラットフォーム上でのグラフィカル モードによるインストール プログラムの 開始	2-4
.bin インストール ファイルによる GUI モードインストールの開始	2-4
.jar インストール ファイルによる グラフィカルモードインストールの開始	2-5
インストール プログラムの実行	2-7
コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコン フィグレーション	2-12
コンフィグレーション オプション	2-13
次のステップ	2-14

### 3. コンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール

始める前に .....	3-1
Windows システム上でのコンソールモードインストールの開始 .....	3-2
UNIX システム上でのコンソールモードインストールの開始 .....	3-4
.bin インストール ファイルによるコンソールモードインストールの開始 ....	3-4
.jar インストール ファイルによるコンソールモードインストールの開始 .....	3-6
コンソールモードインストールの実行 .....	3-8
次のステップ .....	3-15

### 4. サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

サイレントモードインストールとは .....	4-1
始める前に .....	4-2
サイレントモードインストールの使用: 主な手順 .....	4-3
サイレントモードインストールに関する重要な注意事項 .....	4-4
サイレントモードインストール テンプレート ファイルの作成 .....	4-5
サイレントモードインストールのサンプル テンプレート ファイル .....	4-11
包括的なサンプル テンプレート ファイル .....	4-11
別個の管理サーバおよび管理対象サーバを含むドメインをコンフィグレーションす るためのサンプル テンプレート .....	4-15
管理対象サーバのクラスタをコンフィグレーションするためのサンプル テンプ レート .....	4-17
既存のドメインに管理対象サーバを追加するためのサンプル テンプレート ..	4-19
Windows システム上でのサイレントモードインストール プロセスの開始 .....	4-21
UNIX システム上でのサイレントモードインストール プロセスの開始 .....	4-22
.bin インストール ファイルによるサイレントモードインストールの開始 ...	4-22
.jar インストール ファイルによるサイレントモードインストールの開始 ....	4-23

## 5. WebLogic Server ライセンスのインストールおよび更新

WebLogic Server ライセンスについて.....	5-1
評価ライセンス.....	5-2
開発ライセンスと製品ライセンス .....	5-2
license.bea ファイルの更新.....	5-2
128 ビット暗号の有効化.....	5-4
ライセンス アップグレードに際してのご注意.....	5-5

## 6. WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチのインストール

WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチ .....	6-1
パッケージアップグレードインストーラに関する重要な注意事項.....	6-3
クラスタ環境でノード マネージャを使用する場合の重要な注意事項 .....	6-4
WebLogic Server 7.0 GA の更新に関する重要な注意事項.....	6-4
Smart Update を使用したサービス パックとローリング パッチのインストール.....	6-5
ダウンロード可能なインストーラによるサービス パックとローリング パッチのインストール .....	6-9
グラフィカル モードを使用したサービス パック アップグレードのインストール	
6-10	
コンソール モードを使用したサービス パック アップグレードのインストール	6-13
次のステップ .....	6-17

## 7. インストール後の作業の実行

WebLogic Server の Windows ショートカットについて .....	7-1
WebLogic Server のディレクトリ構造について .....	7-4
インストールされるファイルとディレクトリ .....	7-4
ドメイン ディレクトリの新しい構造 .....	7-6
サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバの起動.....	7-6

Windows システム上でのサンプル サーバの起動 .....	7-7
UNIX システム上でのサンプル サーバの起動.....	7-8
Windows システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動 ....	7-8
UNIX システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動.....	7-9
WebLogic Workshop サンプル サーバの起動 .....	7-10
Administration Console の起動 .....	7-10
使用している SDK のバージョンの判別 .....	7-11

## 8. WebLogic Server のアンインストール

アンインストール プログラム.....	8-1
グラフィカル モードでの WebLogic Server のアンインストール.....	8-2
コンソール モードでの WebLogic Server のアンインストール .....	8-4
サイレント モードでの WebLogic Server のアンインストール .....	8-7
アンインストール プログラムによるサービス パックとローリング パッチのアンインス トール .....	8-9
WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチのグラフィカル モード でのアンインストール.....	8-10
WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチのコンソール モードで のアンインストール .....	8-10
Smart Update によるサービス パックとローリング パッチのアンインストール ...	8-11
WebLogic Server の再インストール .....	8-12

## 索引





# このマニュアルの内容

このマニュアルでは、BEA WebLogic Server™ ソフトウェアを Windows システムおよび UNIX システムにインストールする方法について説明します。

このマニュアルの内容は以下のとおりです。

- 第 1 章「WebLogic Server のインストール準備」では、WebLogic Server をインストールする前に知っておく必要がある基本的な情報について説明します。
- 第 2 章「グラフィカルモードインストールによる WebLogic Server のインストール」では、Java ベースのグラフィカル ユーザインタフェース (GUI) を使用して Windows システムおよび UNIX システムに WebLogic Server をインストールする方法について説明します。
- 第 3 章「コンソールモードインストールによる WebLogic Server のインストール」では、テキストベース インタフェースを使用して Windows システムおよび UNIX システムに WebLogic Server をインストールする方法について説明します。
- 第 4 章「サイレントモードインストールによる WebLogic Server のインストール」では、インストール プロセスでテンプレートファイルを使用して、ユーザの介入なしに WebLogic Server をインストールする方法について説明します。
- 第 5 章「WebLogic Server ライセンスのインストールおよび更新」では、WebLogic Server ライセンス ファイルをインストールおよび更新する方法について説明します。
- 第 6 章「WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチのインストール」では、Smart Update を起動して、入手可能なサービス パックを確認する方法について説明します。

## このマニュアルの内容

- 第 7 章「インストール後の作業の実行」では、Windows のショートカット、WebLogic Server と共にインストールされたファイルやフォルダの詳細、および サンプル サーバ、Pet Store サーバ、Administration Console の起動方法について説明します。
- 第 8 章「WebLogic Server のアンインストール」では、WebLogic Server をグラフィカル モードおよびコンソール モードでアンインストールする方法について説明します。

## e-docs Web サイト

BEA 製品のドキュメントは、BEA の Web サイトで入手できます。BEA のホーム ページで [製品のドキュメント] をクリックするか、または WebLogic Server 製品ドキュメント ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) を直接表示してください。

## このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用すると、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 章ずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、WebLogic Server の Web サイトで入手できます。PDF を Adobe Acrobat Reader で開くと、マニュアルの全体 (または一部分) を書籍の形式で印刷できます。PDF を表示するには、WebLogic Server ドキュメントのホーム ページを開き、[ドキュメントのダウンロード] をクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader は Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) で無料で入手できます。

## 関連情報

BEA の Web サイトでは、WebLogic Server の全マニュアルを提供しています。WebLogic Server ソフトウェアをインストールするときに参考となる WebLogic Server の他のマニュアルは、次のとおりです。

- 『BEA WebLogic Server 7.0 および WebLogic Express の紹介』
- 『管理者ガイド』
- 『WebLogic Server アプリケーションの開発』

『BEA WebLogic Server 7.0 の紹介』には、BEA WebLogic Express™ ソフトウェアについての説明も含まれています。WebLogic Express は、プレゼンテーション サービス、および WebLogic Server からのデータベース アクセス サービスを備えています。

## サポート情報

BEA のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。ご質問やご意見などがあれば、電子メールで [docsupport-jp@beasys.com](mailto:docsupport-jp@beasys.com) までお送りください。寄せられた意見については、ドキュメントを作成および改訂する BEA の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、ご使用のソフトウェアの名前とバージョン、およびドキュメントのタイトルと日付をお書き添えください。本バージョンの **BEA WebLogic Server** について不明な点がある場合や、**BEA WebLogic Server** のインストールおよび動作に問題がある場合は、**BEA カスタマ サポートの Web サイト** ([support.bea.com](http://support.bea.com)) を通じて **BEA カスタマ サポート** までお問い合わせください。カスタマ サポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマ サポート カードにも記載されています。

カスタマ サポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メールアドレス、電話番号、ファクス番号
- 会社の名前と住所
- お使いの機種とコード番号
- 製品の名前とバージョン
- 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

# 表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	適用
[Ctrl] + [Tab]	複数のキーを同時に押すことを示す。
<i>斜体</i>	強調または書籍のタイトルを示す。
等幅テキスト	コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造体とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、およびファイル名とその拡張子を示す。等幅テキストはキーボードから入力するテキストも示す。 例： <pre>import java.util.Enumeration; chmod u+w * config/examples/applications .java config.xml float</pre>
<i>斜体の等幅テキスト</i>	コード内の変数を示す。 例： <pre>String <i>CustomerName</i>;</pre>
すべて大文字のテキスト	デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。 例： <pre>LPT1 BEA_HOME OR</pre>
{ }	構文の中で複数の選択肢を示す。

表記法	適用
[ ]	構文の中で任意指定の項目を示す。 例： <pre>java utils.MulticastTest -n name -a address [-p portnumber] [-t timeout] [-s send]</pre>
	構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。 例： <pre>java weblogic.deploy [list deploy undeploy update] password {application} {source}</pre>
...	コマンドラインで以下のいずれかを示す。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 引数を複数回繰り返すことができる。</li><li>■ 任意指定の引数が省略されている。</li><li>■ パラメータや値などの情報を追加入力できる。</li></ul>
.	コードサンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。 . . .

# WebLogic Server のインストール準備

BEA WebLogic Server™ は、可用性やスケーラビリティの高いセキュアなアプリケーションに対して信頼性のあるフレームワークを提供するために、J2EE 1.3 の技術、Web サービス、その他の主要なインターネット標準を実装しています。WebLogic Server には BEA WebLogic Workshop™ が含まれています。WebLogic Workshop は、WebLogic Server の能力や信頼性、スケーラビリティを自動的に活用する Web サービスを簡単に構築できるグラフィカルな開発環境です。

WebLogic Server リリース 7.0 サービス パック 2 では、Windows および Linux プラットフォーム用の BEA WebLogic JRockit™ SDK が WebLogic Server に付属しています。WebLogic JRockit SDK は、サーバサイドアプリケーション向けに開発および最適化されており、Intel アーキテクチャをサポートしています。

WebLogic Server と WebLogic Workshop は BEA WebLogic Platform™ の一部としても利用できます。WebLogic Platform の詳細については、WebLogic Platform のオンライン ドキュメントを参照してください。

WebLogic Server をインストールする前に、以下の内容に目を通してください。

- 1-2 ページの「対象読者」
- 1-2 ページの「BEA WebLogic Server のインストール プログラム」
- 1-4 ページの「WebLogic Server の配布方法」
- 1-7 ページの「BEA WebLogic JRockit 7.0 について」
- 1-8 ページの「インストールの前提条件」

- 1-13 ページの「インストール タイプの選択」
- 1-15 ページの「WebLogic Server インストールのディレクトリ選択」
- 1-19 ページの「冗長なインストール ログの生成」
- 1-20 ページの「アップグレードと移行に関する情報の参照先」
- 1-21 ページの「Smart Update の概要」

## 対象読者

このマニュアルは、**WebLogic Server** ソフトウェアの最新バージョンをインストールするシステム管理者またはアプリケーション開発者を対象としています。**Web** 技術、および **Windows** システムと **UNIX** システムの一般的な概念について読者が精通していることを前提として書かれています。

**WebLogic Server** は個別の製品 (**WebLogic Workshop** を含む) としても、**WebLogic Platform** の 1 コンポーネントとしても利用できます。**WebLogic Server** を個別の製品としてインストールする場合や、**WebLogic Platform** の **WebLogic Server** コンポーネント (**WebLogic Server** および **WebLogic Workshop** と関連するサンプル) のみをインストールする場合には、このマニュアルを使用します。このマニュアルでは **WebLogic Platform** 全体のインストールについては説明しません。他の **WebLogic Platform** コンポーネントと共に **WebLogic Server** をインストールする場合は、『**BEA WebLogic Platform のインストール**』を参照してください。

**WebLogic Server 6.1** 以前から **WebLogic Server 7.0** へアップグレードする場合は、『**BEA WebLogic Server 7.0 へのアップグレード**』を参照してください。

## BEA WebLogic Server のインストール プログラム

**BEA WebLogic Server 7.0** は、以下の配布とインストールを提供する完全なフレームワークである **BEA** インストール配布システムを使用して、配布、インストールされます。

- BEA Web サイトからのダウンロードによる BEA 製品の簡単な配布
- WebLogic Server 製品全体、または個別コンポーネントのインストールおよびアンインストール
- 製品アップグレードの取得とインストールを行うための Smart Update による簡略化されたメカニズム
- インストールプロセスの最後に起動できるコンフィグレーション ウィザードを使用して WebLogic ドメインを作成する機能。コンフィグレーション ウィザードの詳細については、『WebLogic Server ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照してください。WebLogic Platform インストールプログラムに付属しているドメイン テンプレートの詳細については、『コンフィグレーション ウィザード テンプレート リファレンス』を参照してください。

## WebLogic Express のサポート

WebLogic Server インストール プログラムは、BEA WebLogic Express™ ソリューションをインストールする場合にも使用できます。BEA WebLogic Express は、BEA が提供している初歩的な Web アプリケーション サーバです。WebLogic Express の詳細については、『BEA WebLogic Server の紹介』を参照してください。

## インストール方法

BEA インストール プログラムでは、BEA WebLogic Server ソフトウェアをインストールするモードとして以下の 3 つをサポートしています。

- グラフィカル モード

グラフィカルモードインストールは、対話型の GUI ベースで WebLogic Server をインストールする方法です。GUI モードインストールは、Windows システムでも UNIX システムでも実行できます。第 2 章「グラフィカルモードインストールによる WebLogic Server のインストール」を参照してください。

**注意：** グラフィカルモードインストールを実行するには、ソフトウェアのインストール先のマシンに付属しているコンソールが Java ベースの GUI をサポートしている必要があります。Windows システムのすべてのコンソールは Java ベースの GUI をサポートしますが、UNIX システムの場合は一部のコンソールがサポー



トしていません。グラフィカル表示をサポートできないシステムでグラフィカルモードインストールを試みると、インストールプログラムは自動的にコンソールモードインストールを開始します。

- **コンソール モード**

コンソールモードインストールは、Windows および UNIX システムにコマンドラインから **WebLogic Server** をインストールするための、対話型でテキスト ベースの方法です。第 3 章「コンソールモードインストールによる **WebLogic Server** のインストール」を参照してください。

- **サイレント モード**

サイレントモードインストールは、**WebLogic Server** をインストールするために XML プロパティ ファイルをインストール オプションの選択に使用する非対話型の方法です。サイレントモードインストールはスクリプトの一部として、またはコマンドラインから実行できます。第 4 章「サイレントモードインストールによる **WebLogic Server** のインストール」を参照してください。

# WebLogic Server の配布方法

WebLogic Server は、BEA の Web サイトと CD-ROM の両方で配布されます。

## WebLogic Server の Web 上での配布

WebLogic Server 7.0 ソフトウェアは、BEA の Web サイト (<http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html>) からダウンロードできます。

2 つのダウンロード方法が用意されています。

- **パッケージ インストーラ** — **WebLogic Server** ソフトウェア コンポーネントのすべてが含まれるスタンドアロン版のインストール プログラム (約 150MB) をダウンロードします。ソフトウェア コンポーネントは、**WebLogic Server**、**WebLogic Workshop**、およびサーバ サンプルで構成されています。

**注意：** サイレントモードインストールを使用してソフトウェアをインストールする予定がある場合は、パッケージ インストーラ オプションを使用してください。サ

イレントモード インストールは、ネット インストーラ オプションではサポートされません。

- ネット インストーラ — 完全な **BEA WebLogic Platform** をインストールするためのセットアップ ファイル (約 18MB) をダウンロードします。WebLogic Platform™ には、WebLogic Server と WebLogic Workshop の他に、BEA WebLogic Integration™ と BEA WebLogic Portal™ が含まれています。WebLogic Server と WebLogic Workshop だけをインストールすることもできます (1-14 ページの「カスタム インストール」を参照)。ダウンロードを始める前に、以下の情報を指定するようにネット インストーラ プログラムから要求されます。
  - ストレージ ディレクトリ — インストール プログラムでは、インストールするように選択した各コンポーネントのアーカイブ ファイルをシステムにダウンロードします。このアーカイブ ファイルのダウンロード先ディレクトリを指定する必要があります。
  - HTTP プロキシ — HTTP プロキシを使用してアーカイブ ファイルをダウンロードする場合は、プロキシ サーバのホスト アドレスとポート番号を指定する必要があります。

ネット インストーラでは、ダウンロードが中断した場合の標準的な再開処理をサポートしています。手動による中断や予期しないネットワークの中断など、何らかの理由によりダウンロードが中断された場合は、中断された箇所からダウンロードを再開できます。ダウンロードが完了すると、インストール プログラムでは、システムにダウンロードされたアーカイブ ファイルに対して整合性チェックを実行し、ファイルが正しくダウンロードされたことを検証します。

## WebLogic Server の CD-ROM での配布

WebLogic Server を販売代理店からお買い求めになった場合は、WebLogic Server 製品パッケージに以下のものが入っています。

- CD-ROM 5 枚
  - ディスク 1 には、Windows、Solaris、および Linux 用の、Sun Java 2 SDK が付属した BEA WebLogic Server 7.0 SP2 製品ソフトウェアが入っています。
  - ディスク 2 には、Windows および Linux 用の、JRockit Java 2 SDK が付属した BEA WebLogic Server 7.0 SP2 製品ソフトウェアが入っています。

- ディスク 3 には、HP-UX および AIX 用の、BEA WebLogic Server 7.0 SP1 製品ソフトウェアが入っています。
- ディスク 4 には、BEA WebLogic Server 7.0 オンラインドキュメントが入っています。
- 以下の印刷ドキュメント
  - 『インストールガイド』(このマニュアル)
  - 『BEA WebLogic Server 7.0 および WebLogic Express の紹介』
  - 『BEA WebLogic Server リリースノート』
  - 「BEA Software License and Limited Warranty」パンフレット
  - 「Customer Support Quick Reference and Other Important Information」カード

## この他に、サービスパックとローリングパッチの Web 上での配布

サービスパックとローリングパッチがある場合は WebLogic Server 7.0 の最新の配布キットに含まれており、1-4 ページの「WebLogic Server の配布方法」の説明のとおりに入手できます。まだ WebLogic Server 7.0 をインストールしていない場合は、最新の配布キットをインストールしてください。

WebLogic Server 7.0.0.0 をインストール済みで、BEA eSupport アカウントを持っている場合は、ソフトウェアをアップグレードするために、BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) からパッケージアップグレードインストーラをダウンロードできます。

WebLogic Server 7.0.0.1 (WebLogic Platform の一部として入手できるバージョン) 以降をインストール済みで、BEA eSupport アカウントを持っている場合は、以下のいずれかの方法でソフトウェアをアップグレードできます。

- BEA の Web サイトからソフトウェアの更新を取得およびインストールするための Smart Update 機能を使用する (推奨)。Smart Update では、対象の BEA ホームディレクトリに現在インストールされているコンポーネントの更新だけをダウンロードします。

**注意：** Smart Update によるアップグレードでは、Windows をお使いの場合には、その環境で Sun Java 2 SDK が使用されるように、Linux をお使いの場合は Sun Java

2 SDK が使用されるようになります。別の SDK を使用する場合は、適切な SDK がバンドルされている WebLogic Platform アップグレードインストーラを使用するか、SDK を変更してください。詳細については、次の URL にある『WebLogic Platform リリースノート』の「WebLogic Platform と共にバンドルされていない JVM を使用する」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/relnotes/relnotes.html#migration>

- BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) から、パッケージ アップグレードインストーラをダウンロードする。

WebLogic Server のサービスパックとローリングパッチのインストール方法については、第 6 章「WebLogic Server のサービスパックとローリングパッチのインストール」を参照してください。

BEA eSupport アカウントを持っていない場合は、BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) で登録できます。

## BEA WebLogic JRockit 7.0 について

BEA WebLogic JRockit™ は、サーバサイドアプリケーション向けに開発および最適化されており、Intel アーキテクチャをサポートしています。BEA WebLogic Server 7.0 SP2 以降では、WebLogic JRockit 7.0 SP2 SDK が WebLogic Server ソフトウェアに付属しています。

**注意：** WebLogic JRockit 7.0 は、Sun Microsystems によって動作確認されており、Java 2 Standard Edition (J2SE) バージョン 1.3.1 と互換性があります。

WebLogic Server/JRockit ソフトウェア パッケージは、

<http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> からダウンロードできます。また、BEA WebLogic Server 製品パッケージの CD-ROM にも収められています。

WebLogic Server/JRockit パッケージをインストールするには、以下の章で説明するインストール手順に従います。

- 第 2 章「グラフィカルモードインストールによる WebLogic Server のインストール」
- 第 3 章「コンソールモードインストールによる WebLogic Server のインストール」
- 第 4 章「サイレントモードインストールによる WebLogic Server のインストール」

**注意：** ネット ダウンロード インストーラを使用して、WebLogic Server/JRockit パッケージをダウンロードすることはできません。

WebLogic Server 7.0/JRockit パッケージをインストールすると、2 種類の JVM がシステムにインストールされます。サーバサイドアプリケーション向けに最適化された WebLogic JRockit JVM と、クライアントサイドアプリケーションで必要に応じて使用できるように提供された Sun Hotspot Client JVM です。WebLogic Server 7.0 SP2 には、commEnv という便利なスクリプトがインストールされています。このスクリプトを使用して、クライアント JVM またはサーバ JVM のどちらを実行すべきかを判断する環境変数を定義できます。詳細については、『BEA WebLogic Platform リリースノート』の「WebLogic Platform 7.0 (Service Pack 2) の JVM オプションを指定する」を参照してください。

Sun Java 2 SDK が付属した WebLogic Server 7.0 をインストールし、WebLogic JRockit 7.0 SDK を使用するようにインストールを変更する場合の手順については、『BEA WebLogic Platform リリースノート』の「WebLogic Platform と共にバンドルされていない JVM を使用する」を参照してください。

WebLogic JRockit の詳細については、JRockit のドキュメントを参照してください。

**注意：** WebLogic Server/JRockit パッケージを適用せず、JRockit をスタンドアロン SDK としてインストールする方法については、『BEA WebLogic JRockit™ 7.0 for Windows and Linux Installation and Migration Guide』に記載されているインストール手順を参照してください。

# インストールの前提条件

WebLogic Server をインストールする前に以下の要件を確認してください。

- 1-9 ページの「システム要件」
- 1-10 ページの「一時的ストレージ領域の要件」
- 1-11 ページの「Administrator 特権」
- 1-12 ページの「ライセンスと暗号」

## システム要件

表 1-1 に、WebLogic Server のシステム要件を示します。

表 1-1 WebLogic Server システム要件

コンポーネント	要件
動作保証されたサーバプラットフォーム	<p>動作保証された <b>WebLogic Server</b> プラットフォーム。「動作確認状況」ページを参照。このページには、推奨される <b>Java</b> 実行時環境のバージョンに加えて、オペレーティング システムのバッチ、カーネル コンフィグレーション値、パフォーマンス パックなどの必要に応じた前提条件または推奨が記載されている。</p> <p>パフォーマンス パックの詳細については、『<b>BEA WebLogic Server パフォーマンス チューニング ガイド</b>』の「<b>WebLogic Server パフォーマンス パックの使い方</b>」を参照。</p>
ハードディスクドライブ	<p><b>WebLogic Server 7.0</b> を <b>Windows</b> システムにインストールする場合 — インストール製品用に約 <b>236MB</b> * の空きストレージ領域、およびインストーラ ( ネット インストーラ または パッケージ インストーラ ) 用に一時的ストレージ領域約 <b>170MB</b> が必要。</p> <p><b>WebLogic Server 7.0</b> を <b>UNIX</b> システムにインストールする場合 — インストール製品に約 <b>196MB</b> ** の空きストレージ領域、およびインストーラ用に一時的ストレージ領域約 <b>162MB</b> が必要。</p>
メモリ	<b>Windows</b> または <b>UNIX</b> システムの場合、 <b>256MB</b> 以上の <b>RAM</b> 。 <b>512MB</b> 以上を推奨。
カラービット深度ディスプレイ	<p>グラフィカルモードインストールの場合、<b>8ビット色深度 (256色)</b>。</p> <p>コンソールモードおよびサイレントモードでインストールする場合、カラービット深度の要件はなし。</p>

表 1-1 WebLogic Server システム要件

コンポーネント	要件
Java 2 SDK	<p>WebLogic Server インストール プログラムの実行には、Java 実行時環境 (JRE) が必要になる。JRE を含む Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Windows インストール プログラムおよび一部の UNIX インストール プログラム (ファイル名が .bin で終わるプログラム) に付属している。それ以外の UNIX プラットフォームに対しては、WebLogic Server インストール プログラムに Java 2 SDK が含まれない。これらのインストール プログラムのファイル名は .jar で終わる。.jar インストール プログラムを実行するには、Java 2 SDK の適切なバージョンをシステムにインストールした上で、SDK の bin ディレクトリを PATH 変数の先頭で指定する必要がある。インストール プロセスでは、このディレクトリを指す JAVA_HOME と関連する変数が設定されるので、必ず SDK を使用すること。手順については、以下を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2-5 ページの「jar インストール ファイルによる グラフィカルモードインストールの開始」</li> <li>■ 3-6 ページの「jar インストール ファイルによるコンソールモードインストールの開始」</li> </ul>
	<p>* Java 2 SDK の 35MB およびサンプルの 36MB を含む。</p> <p>** Java 2 SDK の 50MB およびサンプルの 32MB を含む。</p>

## 一時的ストレージ領域の要件

BEA インストール プログラムは一時ディレクトリを使用して、WebLogic Server を対象システム上にインストールするために必要なファイルを抽出します。インストール プロセスでは、インストール プログラムに付属の圧縮済み Java 実行時環境 (JRE) と、一時ディレクトリに展開される JRE の解凍済みコピーを格納するために十分な空き容量が、一時ディレクトリに必要です。抽出されたファイルは、インストール プロセスの最後に一時ディレクトリから削除されます。一般的に、インストール プログラムでは、インストールされるファイルに必要な容量の約 2.5 倍の一時スペースが必要です。

インストール プログラムでは、デフォルトで以下の一時ディレクトリを使用します。

- Windows プラットフォーム —TMP システム変数が参照するディレクトリ
- UNIX プラットフォーム —/tmp ディレクトリ

**注意：** インストールプログラムを実行するのに十分な一時スペースがない場合は、代替ディレクトリを指定するか、インストールプログラムを終了するように要求されます。

一時ディレクトリが適切な空き容量を必ず持つようにするために、インストール用の一時ディレクトリとして代替ディレクトリを割り当てることもできます。その場合は、表 1-2 の指示に従ってください。

**表 1-2 一時スペースの要件を満たすための手順**

プラットフォーム	手順
Windows	<p>以下のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TMP システム変数を一時ディレクトリとして使用するディレクトリに設定する。</li> <li>■ インストールプログラムをコマンドラインから起動する場合は、コマンドラインで <code>-Djava.io.tmpdir=tmpdirpath</code> オプションを入力する。このオプションでは、<code>tmpdirpath</code> は、<b>WebLogic Server</b> インストールプログラムによって使用されるファイルを一時的に格納するために使用するディレクトリの絶対パス。</li> </ul>
UNIX	<p>インストールプログラムを起動するときに、次のオプションをコマンドラインに入力する。</p> <pre>-Djava.io.tmpdir=tmpdirpath</pre> <p><code>tmpdirpath</code> は、<b>WebLogic Server</b> インストールプログラムが使用するファイルを一時的に格納するために使用するディレクトリの絶対パス。</p>

## Administrator 特権

コンフィグレーション ウィザード ( カスタムインストールの一環として起動 ) を使ってユーザドメインを作成する場合は、サーバを **Windows** サービスとしてインストールできます。サーバを **Windows** サービスとしてインストールすると、**Windows** システムを起動するたびにサーバが自動的に起動します。サーバを **Windows** サービスとしてインストールするには、**Administrator** 特権が必要です。



詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の Windows サービスとしての設定」を参照してください。

## ライセンスと暗号

WebLogic Server ソフトウェアは有効なライセンスがなければ使用できません。WebLogic Server をインストールすると、インストール プログラムにより最大 20 のクライアント接続でアクセス可能な評価ライセンスが作成されます。評価期間を経過してご使用を継続するには、開発ライセンスまたは製品ライセンスを購入してください。WebLogic Server および他の WebLogic Platform コンポーネントで使用できるライセンスの詳細については、e-docs Web サイトのライセンスのページを参照してください。

7.0 より前のバージョンの WebLogic Server のライセンスは WebLogic Server 7.0 では動作しません。ライセンス ファイルを 7.0 の license.bea フォーマットにアップグレードする必要があります。ライセンス ファイルをアップグレードし、永続的なライセンスをインストールする手順については、第 5 章「WebLogic Server ライセンスのインストールおよび更新」を参照してください。

### 128 ビット暗号について

セキュア ソケット レイヤ (SSL) 暗号化ソフトウェアは、56 ビットおよび 128 ビットの 2 つの暗号レベルで使用可能です。SSL の 128 ビット クライアントバージョンのライセンスは、アメリカまたはカナダで有効です。適切な認証があれば、アメリカおよびカナダ以外でも 128 ビット暗号で有効なライセンスを取得できます。

WebLogic Server のライセンスには、56 ビット暗号がデフォルトで付属しています。SSL で 128 ビット暗号を有効にするには、WebLogic Server ソフトウェアをインストールする前に、license.bea ファイルで 128 ビット暗号を指定する必要があります。

128 ビット暗号ライセンスのインストール方法については、5-4 ページの「128 ビット暗号の有効化」を参照してください。

# インストール タイプの選択

WebLogic Server のインストール プログラムには、標準とカスタムの 2 種類のインストール タイプがあります。

## 標準インストール

標準インストールの結果はソフトウェアの配布方法によって異なります。

- CD-ROM またはパッケージインストーラ オプションでのダウンロード

CD-ROM から、またはパッケージインストール プログラムをダウンロードして WebLogic Server インストール プログラムを入手した場合、標準インストールでは、WebLogic Server および WebLogic Workshop プログラム ファイルと関連のサンプル ファイルがインストールされます。

- ネット インストーラ

WebLogic Server インストール プログラムのネット インストーラ版をダウンロードした場合、標準インストールでは、WebLogic Platform に含まれるすべてのコンポーネントとサンプルがインストールされます。WebLogic Platform には、WebLogic Server と WebLogic Workshop、BEA WebLogic Integration™、および BEA WebLogic Portal™ が含まれています (約 295MB)。ネット インストーラを使用する場合に WebLogic Integration と WebLogic Portal を除いて WebLogic Server をインストールするには、カスタム インストール オプションを選択する必要があります。1-14 ページの「カスタム インストール」を参照してください。

**注意：** 選択するダウンロード オプションに関係なく、コンフィグレーション ウィザードは標準インストールでは起動されません。標準インストール オプションを選択する場合、[スタート]メニューから (Windows のみ)、またはコマンドライン スクリプトで、コンフィグレーション ウィザードを手動で起動できます。2-12 ページの「コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション」を参照してください。

## カスタム インストール

カスタム インストールでは、システムにインストールするコンポーネントを指定できます。コンポーネント オプションはソフトウェアの入手方法によって異なります。

- **CD-ROM** またはパッケージインストーラ オプションでのダウンロード

CD-ROM から、またはパッケージインストール プログラムをダウンロードして **WebLogic Server** インストール プログラムを入手した場合、カスタム インストール中に以下のオプションを選択できます。

- **サーバ** — このコンポーネントは、コア **Java™ 2, Enterprise Edition (J2EE)** 機能を含む **WebLogic Server** プログラム ファイルで構成されます。
- **Workshop** — このコンポーネントは、ビジュアル開発環境と実行時環境を含む **WebLogic Workshop** プログラム ファイルで構成されます。

**注意：** **WebLogic Workshop** ビジュアル開発環境および関連する **JRE** は、**Solaris** または **HP-UX** システムにはインストールされません。

- **サーバ サンプル** — このコンポーネントには、**WebLogic Server** サンプル、**Pet Store** サーバ、サンプル アプリケーション、および **WebLogic Workshop** のサンプルが含まれています。これらのサーバとサンプル アプリケーションでは、**WebLogic Server** を使用してさまざまな **J2EE** の機能を示します。各サンプル アプリケーションを構築、コンフィグレーション、実行するためにリソースが用意されています。**Workshop** のサンプルでは、**WebLogic Workshop** を使ってエンタープライズクラスの **Web** サービスを構築する方法が示されています。サーバと **Workshop** のサンプルをインストールおよび使用するには、サーバと **Workshop** をインストールする必要があります。

- **ネット インストーラ**

**WebLogic Server** インストール プログラムのネット インストーラ版をダウンロードして、カスタム インストール オプションを選択した場合は、サーバ オプション、**WebLogic Workshop** オプション、およびサーバ サンプル オプションの他に、追加の **WebLogic Platform** コンポーネントのオプションも選択できます。追加のオプションの詳細については、このマニュアルでは説明しません。**WebLogic Platform** とその全コンポーネントのインストールの詳細については、『**BEA WebLogic Platform のインストール**』を参照してください。

**注意：** デフォルトでは、すべての **WebLogic Platform** コンポーネントが選択されます。インストールしないコンポーネントのチェック ボックスをすべてオフにする必要があります。

カスタムインストールでは、配布方法に関係なく、選択したコンポーネントがシステムにインストールされた後で、必要に応じて **BEA WebLogic Platform** コンフィグレーション ウィザードが起動されます。あらかじめコンフィグレーションされたドメイン テンプレートを使って **WebLogic** ドメインをコンフィグレーションするには、コンフィグレーション ウィザードを使用します。ドメイン テンプレートでは、対象の環境にドメインを簡単に作成できます。

# WebLogic Server インストールのディレクトリ選択

WebLogic Server のインストールのときに、以下のディレクトリの位置を指定する必要があります。

- BEA ホーム ディレクトリ
- 製品のインストール ディレクトリ

## BEA ホーム ディレクトリ

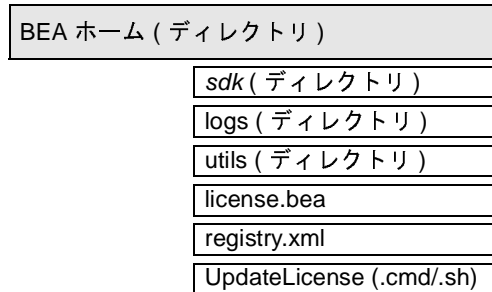
WebLogic Server をインストールする際に、**BEA** ホーム ディレクトリを指定するよう要求されます。**BEA** ホーム ディレクトリとは共通ファイル用のリポジトリのことで、同じマシンにインストールされる複数の **BEA** 製品が使用します。この理由により、**BEA** ホーム ディレクトリを、システム上にインストールされた **BEA** 製品の「中央サポート ディレクトリ」とみなすことができます。

**BEA** ホーム ディレクトリ内のファイルは、**BEA** ソフトウェアがシステム上で正しく動作するために不可欠です。これらのファイルは、以下の機能を実行します。

- インストール済み **BEA** 製品のライセンスが正しく機能するようにする
- インストール時に製品間の依存関係のチェックを容易にする

- サービスパックのインストールを容易にする

付属の SDK を含む WebLogic Server インストールプログラムによって作成されるサンプル BEA ホーム ディレクトリの構造を以下に示します。



この図は BEA ホーム ディレクトリで必須のファイルとディレクトリのみを示します。デフォルトの製品インストールディレクトリを選択すると、BEA ホーム ディレクトリの中に、weblogic700 (WebLogic Server インストール ディレクトリ) や user\_projects (ユーザが作成する WebLogic ドメイン用のフォルダ) などのディレクトリが追加されます。WebLogic Server インストール ディレクトリのデフォルトの場所は BEA ホーム ディレクトリ内ですが、BEA ホーム ディレクトリ以外の別の場所を選択できます。7-4 ページの「WebLogic Server のディレクトリ構造について」を参照してください。

**注意：** 一部の UNIX プラットフォームに対しては、WebLogic Server インストールプログラムは SDK をインストールしません。

WebLogic Server のインストール時に、既存の BEA ホーム ディレクトリを選択するか、または新しい BEA ホーム ディレクトリへのパスを入力するよう要求されます。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストールプログラムにより、自動的にディレクトリが作成されます。

**注意：** BEA ホーム ディレクトリに対しては、BEA ホーム ディレクトリ規約を使用する BEA 製品の各バージョンで 1 つのインスタンスのみのインストールが可能です。たとえば、BEA ホーム ディレクトリにインストールできる WebLogic Server 7.0 のインスタンスは 1 つのみですが、BEA ホーム ディレクトリには WebLogic Server 6.1 のインスタンスを含むことができます。

## BEA ホーム ディレクトリの機能について

表 1-3 で、BEA ホーム ディレクトリのファイルおよびディレクトリについて説明します。

**表 1-3 BEA ホーム ディレクトリの説明**

コンポーネント	説明
<code>sdk</code> ディレクトリ	<p>WebLogic Server と共にインストールされた Java 2 SDK のソフトウェアを含む。SDK は Java 実行時環境 (JRE) と、Java アプリケーションのコンパイルおよびデバッグ用ツールを提供する。オプションは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>jdk131_XX</code>—Sun Java 2 SDK のバージョン 1.3.1</li> <li>■ <code>jrockitXXX</code>—WebLogic JRockit SDK</li> </ul> <p><b>注意：</b> SDK オプションは、ハードウェア プラットフォームによって異なる。一部の UNIX プラットフォームでは、WebLogic Platform インストール プログラムに SDK が含まれていない。</p>
<code>logs</code> ディレクトリ	<p>BEA ホーム ディレクトリのインストールとアンインストールの履歴ファイルを含む。</p>
<code>utils</code> ディレクトリ	<p>BEA WebLogic Platform の全製品のインストールをサポートするユーティリティを含む。<code>utils.jar</code> ファイルには、<code>UpdateLicense</code> ユーティリティをサポートするコードが格納されている。</p>

表 1-3 BEA ホーム ディレクトリの説明

コンポーネント	説明
license.bea ファイル	<p>システム上にインストールされ、BEA ホーム ディレクトリ規約を使用する BEA WebLogic Platform の全製品のライセンス キーが入った XML 形式のライセンス ファイル。</p> <p>このライセンスの形式は WebLogic Server 7.0 で変更された。7.0 より前の license.bea ファイルを WebLogic Server 7.0 の license.bea ファイルに変換するには、5-5 ページの「WebLogic Server の旧リリースからのライセンスのアップグレード」の手順を参照すること。無期限 (永続的) ライセンスを追加したり、追加機能用にライセンス ファイルを更新したりするには、UpdateLicense ユーティリティを使って license.bea ファイルを更新する必要がある。詳細については、5-2 ページの「license.bea ファイルの更新」を参照。</p> <p><b>注意：</b> このファイルは編集しないこと。ファイルを編集すると、現在インストールされている BEA 製品で操作に関する問題が発生したり、将来の BEA 製品のインストールまたはメンテナンス アップグレードでインストールに関する問題が発生することがある。</p>
registry.xml ファイル	<p>対象システム上にインストールされている BEA 製品の永続的レコードが入ったレジストリ ファイル。このレジストリには、バージョン番号、サービス パック番号、およびインストール ディレクトリなどの製品関連の情報が格納されている。</p> <p><b>注意：</b> このファイルは編集しないこと。ファイルを編集すると、現在インストールされている BEA 製品で操作に関する問題が発生したり、将来の BEA 製品のインストールまたはメンテナンス アップグレードでインストールに関する問題が発生することがある。</p>
UpdateLicense (.cmd/.sh)	<p>新しいライセンス セクションを使って現在の license.bea ファイルを更新するコマンド ファイル (Windows) またはシェルスクリプト (UNIX)。実行すると、既存のライセンス セクションに新しいライセンス セクションが結合される。UpdateLicense ユーティリティの使い方の詳細については、5-2 ページの「license.bea ファイルの更新」を参照。</p>

## 複数の BEA ホーム ディレクトリを作成する

複数の BEA ホーム ディレクトリを作成することはできますが、できる限り避けてください。ほとんどすべての場合で、BEA ホーム ディレクトリは1つで十分です。ただし、開発環境とプロダクション環境を分けておくために、それぞれに製品スタックを入れた方がよい場合もあります。ディレクトリを2つ作成しておけば、開発環境を (BEA ホーム ディレクトリ内で) 更新しても、準備が整うまでプロダクション環境を変更せずに済みます。

## 製品のインストール ディレクトリ

製品インストール ディレクトリには、プログラム ファイルとサンプルを含む、システムにインストールするソフトウェア コンポーネントがすべて含まれます。インストール時に、製品インストール ディレクトリの選択を要求されます。デフォルトのディレクトリを受け入れると、次に示すディレクトリに WebLogic Server ソフトウェアがインストールされます。

```
c:\bea\weblogic700
```

c:\bea は BEA ホーム ディレクトリ、weblogic700 は製品インストール ディレクトリです。ただし、製品インストール ディレクトリには任意の名前とシステム内の任意の場所を指定できます。ディレクトリ名を weblogic700 としたり、ディレクトリを BEA ホーム ディレクトリの下に作成する必要はありません。

インストーラは製品インストール ディレクトリを *WL\_HOME* ディレクトリとして使用し、ソフトウェア コンポーネントはこのディレクトリの下にインストールされます。詳細については、7-4 ページの「インストールされるファイルとディレクトリ」を参照してください。

## 冗長なインストール ログの生成

コマンドラインまたはスクリプトからインストールプロセスを起動する場合は、冗長なインストール ログを生成する `-log` オプションを指定できます。インストール ログには、情報メッセージ、警告メッセージ、エラー メッセージ、および致命的メッセージなど、インストール プロセス中のイベントに関するメッセージが示されます。これは、サイレントインストールを行う場合に特に有用です。



**注意：** インストール ログ内で、いくつかの警告メッセージが表示される場合があります。しかし、致命的エラーがある場合を除き、インストール プログラムはインストールを正常に完了させます。インストール ユーザ インタフェースで、インストールが成功したか失敗したかが示されます。ユーザ インタフェースがないサイレントインストールの場合は、インストール ログに致命的エラーがあればインストールは正常に完了しなかったということです。インストール ログに致命的エラーがなければ、インストールは正常に完了しています。

## 構文

インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインまたはスクリプトに `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
serverXXX_win32.exe -log=D:\logs\wls_install.log
```

xxx は、インストールするソフトウェアのバージョンです。

パスは、ファイルへの絶対パスとする必要があります。ファイルが存在しない場合は、コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストール プログラムはログ ファイルを作成しません。

# アップグレードと移行に関する情報の参照先

インストールされている **WebLogic Server** を最新のサービス パックでアップグレードするための情報については、第 6 章「**WebLogic Server** のサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。

**WebLogic Server** のアップグレードと移行に関する補足情報については、以下のドキュメントを参照してください。

- 『BEA WebLogic Server 7.0 へのアップグレード』
- 「Pet Store アプリケーションおよびサンプル サーバのアップグレード」

# Smart Update の概要

Smart Update 機能を使用すると、WebLogic Server ソフトウェアを、サービスパック、ソフトウェアパッチ（ローリングパッチと呼ぶこともある）、およびソフトウェアの後続バージョンにすばやく簡単にアップグレードできます。

**注意：** Smart Update によるアップグレードでは、Windows をお使いの場合には、その環境で Sun Java 2 SDK が使用されるように、Linux をお使いの場合は Sun Java 2 SDK が使用されるようになります。別の SDK を使用する場合は、適切な SDK がバンドルされている WebLogic Platform アップグレードインストーラを使用するか、SDK を変更してください。詳細については、次の URL にある『WebLogic Platform リリースノート』の「WebLogic Platform と共にバンドルされていない JVM を使用する」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/relnotes/relnotes.html#migration>

Windows の [ スタート ] メニューまたはコマンドラインから Smart Update を起動すると、インストールされている製品のバージョン（現在の BEA ホームディレクトリと関連付けられている）がチェックされ、BEA の Web サイトへの接続が確立されて利用可能な更新の有無が確認できます。インストールされた製品の更新がある場合、利用可能なアップグレードのインストール方法が説明された [Smart Update] ウィンドウが開きます。アップグレードがない場合、利用可能なメンテナンスがないことを示すメッセージが表示されません。

**注意：** WebLogic Server 7.0 GA（バージョン 7.0.0.0）をインストール済みの場合は、WebLogic Server 7.0.0.1（WebLogic Platform 7.0 で入手できるバージョン）またはサービスパックにアップグレードしてからでないと、Smart Update を使用して以降のサービスパック（WebLogic Server 7.0.1.0 以降）をインストールできません。詳細については、6-4 ページの「WebLogic Server 7.0 GA の更新に関する重要な注意事項」を参照してください。

Smart Update の使い方の詳細については、第 6 章「WebLogic Server のサービスパックとローリングパッチのインストール」を参照してください。



# グラフィカルモードインストールによる WebLogic Server のインストール

以下の節では、Windows および UNIX システムでグラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) モードを使用して WebLogic Server をインストールする方法について説明します。

- 2-1 ページの「始める前に」
- 2-2 ページの「Windows プラットフォーム上でのグラフィカル モードによるインストール プログラムの開始」
- 2-4 ページの「UNIX プラットフォーム上でのグラフィカル モードによるインストール プログラムの開始」
- 2-7 ページの「インストール プログラムの実行」
- 2-12 ページの「コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション」
- 2-14 ページの「次のステップ」

## 始める前に

WebLogic Server のインストールを始める前に、以下の情報を確認してください。

- 製品のインストール先がサポートされているプラットフォームであることを確認します。サポートされているプラットフォームの詳細なリストについては、

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/certifications/certifications/index.html> を参照してください。

- 第 1 章「WebLogic Server のインストール準備」全体、特に以下の節を参照してください。
  - 1-8 ページの「インストールの前提条件」
  - 1-13 ページの「インストール タイプの選択」
  - 1-15 ページの「WebLogic Server インストールのディレクトリ選択」
- すでにインストールされている WebLogic Server と同じ場所 (BEA ホームまたは物理的な場所) に、WebLogic Server を再インストールすることはできません。第 8 章「WebLogic Server のアンインストール」で説明しているように、まず WebLogic Server をアンインストールするか、または別の場所にインストールする必要があります。ただし、WebLogic Server サンプルなどの WebLogic Platform の追加コンポーネントは、既存のコンポーネントをアンインストールしないでも、同じ場所にインストールできます。
- BEA 製品ディレクトリ (c:\bea\weblogic700 など) にインストールされるすべての WebLogic Platform コンポーネントは、同じバージョン レベルである必要があります。そのディレクトリにすでにインストールされているものより後のバージョンの追加コンポーネントをインストールしようとすると、インストール プログラムでは、インストールを続行する前に既存のコンポーネントをアップグレードするように要求するメッセージが表示されます。たとえば、WebLogic Server 7.0 サービス パック 1 をインストールしてあり、後から WebLogic Portal 7.0 サービス パック 2 をインストールしようとすると、WebLogic Portal をインストールする前に WebLogic Server をサービス パック 2 にアップグレードするよう要求されます。インストールのアップグレードの詳細については、第 6 章「WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。

# Windows プラットフォーム上でのグラフィカル モードによるインストール プログラムの開始

Windows システム上で GUI モードインストールを開始するには、次の手順を実行します。

## グラフィカルモード インストールによる WebLogic Server のインストール

1. Windows システムにログインします。
2. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、手順 3 に進みます。BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。
  - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストールファイルをダウンロードします。ダウンロード オプションの詳細については、1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」を参照してください。
  - b. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、以下のインストール ファイルをダブルクリックします。  
  
serverXXX\_win32.exe (パッケージインストーラ ファイル—WebLogic Server、WebLogic Workshop、および関連するサンプル)  
  
net\_platformXXX\_win32.exe (ネット インストーラ ファイル—WebLogic Platform)  
  
xxx は、インストールするソフトウェアのバージョン番号です。  
  
**注意：** ネット インストーラは WebLogic Platform の全部または一部をインストールします。WebLogic Platform には WebLogic Server と WebLogic Workshop が含まれます。詳細については、1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」を参照してください。  
  
インストール プログラムが WebLogic Server のインストールを開始します。
  - c. 2-7 ページの「インストール プログラムの実行」に進みます。
3. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。
  - a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
  - b. インストール プログラムが自動的に開始しない場合は、Windows エクスプローラを開いて、CD-ROM アイコンをダブルクリックします。
  - c. Windows インストール用のフォルダに移動し、serverXXX\_win32.exe をダブルクリックします。xxx は、インストールするソフトウェアのバージョン番号です。インストール プログラムが WebLogic Server のインストールを開始します。
  - d. 2-7 ページの「インストール プログラムの実行」に進みます。

# UNIX プラットフォーム上でのグラフィカル モードによるインストール プログラムの 開始

WebLogic Server インストール プログラムの実行には、Java 実行時環境 (JRE) が必要になります。JRE を含む Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Windows インストール プログラムおよび一部の UNIX インストール プログラム (ファイル名が .bin で終わるプログラム) に付属しています。それ以外の UNIX プラットフォームに対しては、WebLogic Server インストール プログラムに Java 2 SDK が含まれません。これらのインストール プログラムのファイル名は .jar で終わります。.jar インストール プログラムを実行するには、Java 2 SDK の適切なバージョンをシステムにインストールした上で、Java 2 SDK の bin ディレクトリを PATH 変数の先頭で指定する必要があります。インストール プロセスでは、このディレクトリを指す JAVA\_HOME と関連する変数が設定されるので、必ず SDK を使用してください。

**注意：** グラフィカルモードインストールを開始するには、コンソールが Java ベースの GUI をサポートしている必要があります。インストール プログラムによりシステムが Java ベース GUI をサポートできないと判定された場合、自動的にコンソールモードインストールが開始されます。詳細については、第 3 章「コンソールモードインストールによる WebLogic Server のインストール」を参照してください。

## .bin インストール ファイルによる GUI モード インストールの開始

インストール プログラム ファイルが .bin で終わる場合は、次の手順にしたがってインストール プログラムを UNIX システム上で GUI モードで開始します。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。

3. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、手順 4 に進みます。BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。

a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストール ファイルをダウンロードします。ダウンロード オプションの詳細については、1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」を参照してください。

b. コマンド シェルで、インストール プログラムのダウンロード先ディレクトリに移動し、以下のコマンドを入力してインストールを開始します。

```
chmod a+x filename  
./filename.bin
```

*filename.bin* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストール プログラムの名前です。

c. 2-7 ページの「インストール プログラムの実行」に進みます。

4. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。

a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

b. CD-ROM ディレクトリに移動し、使用しているハードウェア プラットフォーム用のインストール プログラムがあるフォルダに移動します。

c. 次のコマンドを入力して、インストールを開始します。

```
./filename.bin
```

*filename.bin* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストール プログラムの名前です。

d. 2-7 ページの「インストール プログラムの実行」に進みます。

## .jar インストール ファイルによる グラフィカルモード インストールの開始

.jar で終わるインストール ファイルによるグラフィカルモードインストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。



**注意：** Windows、Solaris、HP-UX、IBM AIX 以外のハードウェア プラットフォーム上に **WebLogic Server** をインストールする場合、そのハードウェア プラットフォームに固有のインストール手順があることもあります。インストール プログラムを実行する前に、使用するハードウェア プラットフォームが「動作確認状況」ページに記載されていることを確認してください。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. 適切な SDK の bin ディレクトリを、対象システム上の PATH 変数の先頭で指定します。次に例を示します。

```
PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
export PATH
```

`JAVA_HOME` は SDK ディレクトリへの絶対パスです。

4. 以下のいずれかを実行します。
  - 1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」の説明のとおりソフトウェアをダウンロードします。
  - CD-ROM からインストールする場合は、WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入してから CD-ROM ディレクトリに移動します。
5. インストール ファイルが含まれるディレクトリに移動し、表 2-1 で説明するインストール手順を開始します。

**表 2-1 WebLogic Server インストール プログラムを開始するコマンド**

状況	入力するコマンド
AIX 以外の UNIX プラットフォームにインストールする場合	<code>java -jar filename.jar</code>
AIX プラットフォームにインストールする場合	<code>java -classpath filename.jar com.bea.installer.BEAInstallController</code>

それぞれのコマンドで、`filename.jar` は、WebLogic Server インストール ファイルの名前 (`pj_serverXXX_generic.jar` など) です。ネットインストーラのファイル名は `net_` で始まります (`net_pj_platformXXX_generic.jar` など)。

**注意：** コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを使用し、ログ ファイルをインストール時に作成することもできます。次に例を示します。

```
java -jar filename.jar -log=/nfs/home1/logs/wls_install.log
```

詳細なインストール ログが作成されます。詳細については、1-19 ページの「冗長なインストール ログの生成」を参照してください。

6. 2-7 ページの「インストール プログラムの実行」に進みます。

# インストール プログラムの実行

インストール プログラムでは、使用しているシステムとコンフィグレーションに関する具体的な情報を入力する必要があります。

表 2-2 インストール プログラムの実行

ウィンドウ	実行するアクション
[ようこそ]	[Next] ボタンをクリックして、インストールを続行する。または、[Exit] をクリックするとインストールをいつでもキャンセルできる。
[BEA ライセンス契約]	BEA ソフトウェア使用許諾契約を読み、[Yes] をクリックして、契約書の条件に同意することを示す。インストールを続行するには、使用許諾契約に同意し、[Next] をクリックする。
[BEA ホーム ディレクトリを選択]	対象システム上にインストールされた BEA 製品の中央サポート ディレクトリとして機能する BEA ホーム ディレクトリを指定する。システム上に BEA ホーム ディレクトリがすでに存在する場合は、そのディレクトリを選択するか (推奨)、または新規の BEA ホーム ディレクトリを作成する。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストール プログラムは、自動的にディレクトリを作成する。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-15 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照。

表 2-2 インストール プログラムの実行

ウィンドウ	実行するアクション
[インストール タイプを選択]	<p data-bbox="512 289 1108 318">実行するインストール タイプのオプション ボタンを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="512 337 1233 756"> <p>■ [標準]— 標準インストールでは、配布キット内のすべてのソフトウェア コンポーネント ( サンプルを含む ) がシステムにインストールされる。サンプル ドメインはインストール時に <b>PointBase</b> データベースで使用するためあらかじめコンフィグレーションされ、インストールが完了すると、サンプルを実行できる。</p> <p>ソフトウェア コンポーネントは、以下のようにソフトウェアの配布方法によって異なる。</p> <p><b>CD-ROM またはパッケージ インストーラ :</b> <b>WebLogic Server</b> および <b>WebLogic Workshop</b> と、関連するすべてのサンプルをインストールする。</p> <p><b>ネット インストーラ :</b> <b>WebLogic Platform</b> の全コンポーネントをインストールする。 <b>WebLogic Platform</b> には、 <b>WebLogic Server</b> と <b>WebLogic Workshop</b> の他に、 <b>WebLogic Portal</b>、 <b>WebLogic Integration</b>、 および関連するすべてのサンプルが含まれる。</p> </li> <li data-bbox="512 773 1233 943"> <p><b>注意 :</b> 標準インストール オプションを選択する場合、コンフィグレーション ウィザードはインストールの一部として自動的に起動されない。ただし、インストールの完了後に、 [ スタート ] メニューから、またはコマンドライン スクリプトを使って手動で起動できる。2-12 ページの「コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション」を参照。</p> </li> <li data-bbox="512 959 1233 1049"> <p>■ [カスタム]— カスタム インストールでは、インストール ソフトウェア コンポーネントを選択する。必要に応じて、コンフィグレーション ウィザードを実行しカスタム <b>WebLogic</b> ドメインを作成できる。</p> </li> <li data-bbox="512 1065 1233 1268"> <p><b>注意 :</b> ネット インストーラ オプションを使用してソフトウェアをダウンロードし、他の <b>WebLogic Platform</b> コンポーネントを除いて <b>WebLogic Server</b> をインストールする場合は、カスタム インストール オプションを選択してから、インストールするコンポーネントのみを選択する。サーバとサーバサンプル以外のコンポーネントをインストールする場合は、『<b>BEA WebLogic Platform</b> のインストール』を参照。</p> </li> </ul> <p data-bbox="512 1276 1233 1333">インストール タイプの詳細については、1-13 ページの「インストール タイプの選択」を参照。</p> <p data-bbox="512 1341 1233 1398">標準インストール オプションを使用している場合は、[製品ディレクトリを選択] ウィンドウに進む。</p>

表 2-2 インストール プログラムの実行

ウィンドウ	実行するアクション
<p>[ コンポーネントを選択 ]</p> <p><b>注意:</b> このウィンドウは、[ インストールの種類を選択 ] ウィンドウでカスタムインストールを選択した場合にのみ表示される。</p>	<p>該当するチェック ボックスをチェックするか、またはチェックをはずし、インストールするコンポーネントを選択する。</p> <p>このパネルには、インストールできるコンポーネントすべてがツリー表示される。最初のインストールでは、すべてのコンポーネントがチェックされている。</p> <p>システムにすでにインストールされているコンポーネントのチェック ボックスはグレーで表示される。</p> <p>サーバとサーバサンプル以外のコンポーネントをインストールする場合は、『BEA WebLogic Platform のインストール』を参照。</p> <p><b>注意:</b> インストールするコンポーネントを選択または選択解除すると、インストール プログラムによりコンポーネント間の依存関係がチェックされ、選択されたコンポーネントのリストが自動的に修正される。</p>

表 2-2 インストール プログラムの実行

ウィンドウ	実行するアクション
<p>[ダウンロード オプションの指定]</p> <p><b>注意:</b> このウィンドウは、ネットインストーラを使用する場合にのみ表示される。</p>	<p>ソフトウェアのダウンロードに関する設定を以下のように指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [保存先ディレクトリ]—ソフトウェア コンポーネントのダウンロード先となるストレージディレクトリを指定する。インストール プログラムは、インストールするように選択した各コンポーネントのアーカイブ ファイルをシステムにダウンロードする。これらのファイルにはシステム上の任意の場所を選択できる。インストール用セットアップファイルまたはインストールされるソフトウェアと同じ場所に配置する必要はない。</li> <li>■ [ダウンロードしたファイルをインストーラ終了時に削除する]—インストール プログラムで、インストールの完了後に、ダウンロード済みファイルを削除する場合は、このチェックボックスを選択する。このチェックボックスを選択しない場合、ダウンロード済みファイルは、指定したストレージディレクトリに保存される。</li> <li>■ [HTTP プロキシを使用する]—ダウンロードで HTTP プロキシサーバを使用する場合は、このチェックボックスを選択する。HTTP プロキシサーバを使用するには、以下の情報を指定する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[ホスト]—プロキシサーバの名前と IP アドレスを入力する。</li> <li>[ポート]—プロキシサーバのポート番号を入力する。</li> </ul> </li> </ul>
<p>[ダウンロードのステータス]</p> <p><b>注意:</b> このウィンドウは、ネットインストーラを使用する場合にのみ表示される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [完了後、自動的にインストールを続行する]—ダウンロードの完了後にインストールを自動的に続行する場合は、このチェックボックスを選択する。このチェックボックスはデフォルトで選択されている。チェックボックスをオフにした場合、ダウンロードが完了したときにインストールを続行するには、[Next] をクリックしなければならない。</li> <li>■ [一時停止]—何らかの理由でダウンロードを中断する必要がある場合は、このボタンをクリックする。その場合、ダウンロードが中断されて、[一時停止] ボタンが [再開] ボタンに変わる。ダウンロードを続行するときは [再開] をクリックする。</li> </ul>

表 2-2 インストール プログラムの実行

ウィンドウ	実行するアクション
<p>[アーカイブ整合性チェック]</p> <p><b>注意:</b> このウィンドウは、ネットインストーラを使用する場合のみ表示される。</p>	<p>このウィンドウは、コンポーネントアーカイブファイルが正常にダウンロードされたことをインストールプログラムが検証しているときに表示される。</p> <p>ダウンロードの確認が済んだら、[Next] をクリックする。</p>
<p>[製品ディレクトリを選択]</p> <p><b>注意:</b> カスタムインストールを実行し、すでにインストールされている WebLogic Server コンポーネントが含まれる BEA ホームディレクトリを選択した場合、このウィンドウは表示されない。その場合、選択されたコンポーネントは最初のインストール時に指定された製品ディレクトリにインストールされる。</p>	<p>WebLogic Server ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定し、[Next] をクリックする。デフォルトの製品ディレクトリ weblogic700 を受け入れるか、または新しい製品ディレクトリを作成する。</p> <p>詳細および作成されるディレクトリ構造については、1-19 ページの「製品のインストールディレクトリ」を参照。</p> <p>新しいディレクトリの作成を選択した場合、必要に応じて、インストールプログラムにより、自動的にディレクトリが作成される。</p> <p>[Next] をクリックすると、インストールプログラムによって指定されたコンポーネントのシステムへのコピーが開始される。</p>
<p>[ステータス]</p>	<p>BEA 製品とサービスに関する表示情報を確認し、システムへの指定されたファイルのコピーが完了したら [Next] をクリックする。標準インストールを実行している場合、インストールは完了。</p>

表 2-2 インストール プログラムの実行

ウィンドウ	実行するアクション
<p>[ コンフィグレーション ウィザードを実行 ]</p> <p><b>注意:</b> このウィンドウは、[ インストールの種類を選択 ] ウィンドウでカスタムインストールを選択した場合にのみ表示される。</p>	<p>該当するオプションを選択し、コンフィグレーション ウィザードを実行してアプリケーション ドメインを作成するかどうか指定する。</p> <p>[ はい ] を選択した場合は、コンフィグレーション ウィザードの概略を説明したコンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーションに進む。詳細については、『<b>WebLogic Server</b> ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照。</p> <p>[ いいえ ] を選択した場合は、後で [ スタート ] メニュー (Windows のみ) またはコマンドラインからコンフィグレーション ウィザードを実行できる。</p>
<p>[ インストール完了 ]</p>	<p>[ Done ] をクリックして、インストールプログラムを終了する。</p>

## コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション

カスタム インストールを実行する場合、インストールプロセスの最後にコンフィグレーション ウィザードを実行して、**WebLogic** ドメインを作成およびコンフィグレーションできます。または、カスタムおよび標準の両方のインストール タイプで、コンフィグレーション ウィザードを [ スタート ] メニューまたはコマンドラインから実行することもできます。詳細については、『**WebLogic Server** ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照してください。

コンフィグレーション ウィザードを使って **WebLogic** のカスタム ドメインを作成し、コンフィグレーションします。ドメインは、1つの単位として管理される、相互に関連した **WebLogic Server** リソースのセットです。ドメインには、1つまたは複数の **WebLogic Server** が含まれ、**WebLogic Server** クラスタが含まれる場合もあります。

コンフィグレーション ウィザードでは、対象となる環境のドメインを作成するために、コンフィグレーション済みのドメイン テンプレートを 사용합니다。WebLogic Server 7.0 には以下のテンプレートが含まれます。

- **WLS Domain**—WebLogic Server の WebLogic ドメインを作成するための基本機能すべてを含むテンプレート。
- **WebLogic Workshop**—WebLogic Workshop 対応のドメインを作成するために使用するテンプレート。詳細については、WebLogic Workshop のドキュメントを参照してください。
- **WLS Examples**— サービスパックのインストール時に WebLogic Server サンプル ドメインを更新するために使用されるテンプレート。
- **WLS Petstore**— サービスパックのインストール時に WebLogic Server Pet Store ドメインを作成し直すために使用されるテンプレート。

追加の WebLogic Platform コンポーネントをインストールする場合は、コンフィグレーション ウィザードの起動時に追加のテンプレートが表示されます。WebLogic Platform でコンフィグレーション ウィザードを使用する手順の詳細については、『コンフィグレーション ウィザードの使い方』を参照してください。使用可能なコンフィグレーション ウィザード テンプレートの詳細については、『コンフィグレーション ウィザード テンプレート リファレンス』を参照してください。

## コンフィグレーション オプション

コンフィグレーション ウィザードの実行中に選択した、コンフィグレーション済みのドメイン テンプレートに応じて、各ドメイン情報の入力が必要とされます。以下のリストでは、入力する必要のある情報の例を示します。詳細については、『WebLogic Server ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照してください。

- サーバ タイプ (単一のスタンドアロン サーバ、管理サーバと管理対象サーバ、または管理サーバとクラスタ化された管理対象サーバ)。
- ドメインの作成先ドメイン ディレクトリ。デフォルトでは、このディレクトリは `bea_home\user_projects` に作成されます。`bea_home` は、このインストールに関するサポート情報の入った BEA ホーム ディレクトリです。このディレクトリがない場合は、コンフィグレーション ウィザードによって自動的に作成されます。

**注意：** UNIX システムでは、ドメイン名にスペースを使用しないでください。



- サーバに関するコンフィグレーション情報 ([サーバ名]、[サーバリスンアドレス]、[サーバリスンポート]、[サーバSSLリスンポート]など)。ほとんどの値のデフォルト値が示されます。

**注意：** UNIX システムでは、サーバ名にスペースを使用しないでください。

- システム ユーザ名とパスワード。WebLogic Server のユーザ名とパスワードには、JDK サポート文字セットの国際文字を含む任意の文字が使用できます。また、文字は <、>、[、および ] を除く有効な XML データ文字とする必要があります。
- サーバを Windows サービスとしてコンフィグレーションするオプション。サーバを Windows サービスとしてコンフィグレーションする場合、Windows システムを起動するたびにサーバが自動的に起動します。Windows サービスとしてサーバをインストールするには、Administrator 権限を持っている必要があります。WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールし、実行する詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の Windows サービスとしての設定」を参照してください。

**注意：** コンフィグレーション ウィザードで値を指定するときは、文字に関する XML ガイドラインに従う必要があります。すなわち、<、>、[、および ] などの XML の予約文字は使用できません。

## 次のステップ

WebLogic Server 7.0 の詳細については、以下のファイルを参照してください。

- `about_wls.html`

このファイルには、このバージョンの WebLogic Server の新機能の概要と、関連情報の参照先リストが入っています。

Windows システムでは、[スタート]メニューの [About WebLogic Server 7.0] ショートカットからこのファイルにアクセスします。Windows システムと UNIX システムのどちらでも、`WL_HOME\server\about_wls.html` にある `about_wls.html` ファイルにアクセスできます。`WL_HOME` は WebLogic Server ソフトウェアの最上位のインストールディレクトリです。

- `readme.txt`

`ABOUT_WLS.HTML` と同様な情報が含まれるテキストのみのファイル。

`WL_HOME\server\readme.txt` にある `readme.txt` ファイルにアクセスできます。

## グラフィカルモード インストールによる WebLogic Server のインストール

*WL\_HOME* は WebLogic Server ソフトウェアの最上位のインストール ディレクトリです。

# コンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール

以下の節では、コンソールモードを使用して WebLogic Server をインストールする方法について説明します。

- 3-1 ページの「始める前に」
- 3-2 ページの「Windows システム上でのコンソールモードインストールの開始」
- 3-4 ページの「UNIX システム上でのコンソールモードインストールの開始」
- 3-8 ページの「コンソールモードインストールの実行」
- 3-15 ページの「次のステップ」

## 始める前に

WebLogic Server のインストールを始める前に、以下の情報を確認してください。

- 製品のインストール先が動作保証されているプラットフォームであることを確認します。動作保証されているプラットフォームの詳細なリストについては、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/certifications/certifications/index.html> を参照してください。
- 第 1 章「WebLogic Server のインストール準備」全体、特に以下の節を参照してください。
  - 1-8 ページの「インストールの前提条件」

- 1-13 ページの「インストール タイプの選択」
- 1-15 ページの「WebLogic Server インストールのディレクトリ選択」
- すでにインストールされている WebLogic Server と同じ場所 (BEA ホームまたは物理的な場所) に、WebLogic Server を再インストールすることはできません。第 8 章「WebLogic Server のアンインストール」で説明しているように、まず WebLogic Server をアンインストールするか、または別の場所にインストールする必要があります。ただし、WebLogic Server サンプルなどの WebLogic Platform の追加コンポーネントは、既存のコンポーネントをアンインストールしないでも、同じ場所にインストールできます。
- BEA 製品ディレクトリ (/bea/weblogic700 など) にインストールされるすべての WebLogic Platform コンポーネントは、同じバージョン レベルである必要があります。そのディレクトリにすでにインストールされているものより後のバージョンの追加コンポーネントをインストールしようとする、インストール プログラムでは、インストールを続行する前に既存のコンポーネントをアップグレードするように要求するメッセージが表示されます。たとえば、WebLogic Server 7.0 サービス パック 1 をインストールしてあり、後から WebLogic Portal 7.0 サービス パック 2 をインストールしようとする、WebLogic Portal をインストールする前に WebLogic Server をサービス パック 2 にアップグレードするよう要求されます。インストールのアップグレードの詳細については、第 6 章「WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。

# Windows システム上でのコンソールモード インストールの開始

Windows システム上でコンソール モードでインストールを開始するには、次の手順を実行します。

1. Windows システムにログインします。
2. MS-DOS コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
3. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、手順 4 に進みます。BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。

- a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した **WebLogic Server** インストールファイルをダウンロードします。ダウンロード オプションの詳細については、1-4 ページの「**WebLogic Server の Web 上での配布**」を参照してください。

- b. インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のいずれかのコマンドを入力してインストール手順を開始します。

```
serverXXX_win32.exe -mode=console (パッケージインストーラ ファイル —  
WebLogic Server、WebLogic Workshop、および関連するサンプル)
```

```
net_platformXXX_win32.exe -mode=console (ネットインストーラ ファイル —  
WebLogic Platform)
```

xxx は、インストールするソフトウェアのバージョン番号です。

**注意：** デフォルトでは、ネット インストーラは **WebLogic Platform** の全部または一部をインストールします。**WebLogic Platform** には **WebLogic Server** と **WebLogic Workshop** が含まれます。詳細については、1-4 ページの「**WebLogic Server の Web 上での配布**」を参照してください。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
serverXXX_win32 -mode=console -log=d:\logs\weblogic_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストールプログラムはログ ファイルを作成しません。詳細については、1-19 ページの「冗長なインストール ログの生成」を参照してください。

インストールプログラムが **WebLogic Server** のインストールを開始します。

- c. 3-8 ページの「コンソールモードインストールの実行」に進みます。
4. CD-ROM から **WebLogic Server** をインストールする場合は、次の手順に従います。
    - a. **WebLogic Server** CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
    - b. MS-DOS コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
    - c. CD-ROM ディレクトリに移動します。
    - d. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
serverXXX_win32 -mode=console
```

xxx は、インストールするソフトウェアのバージョン番号です。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
serverXXX_win32 -mode=console -log=d:\logs\weblogic_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストールプログラムはログ ファイルを作成しません。

e. 3-8 ページの「コンソールモードインストールの実行」に進みます。

# UNIX システム上でのコンソールモード インストールの開始

WebLogic Server インストール プログラムの実行には、Java 実行時環境 (JRE) が必要になります。JRE を含む Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Windows インストール プログラムおよび一部の UNIX インストール プログラム (ファイル名が `.bin` で終わるプログラム) に付属しています。それ以外の UNIX プラットフォームに対しては、WebLogic Server インストール プログラムに Java 2 SDK が含まれません。これらのインストール プログラムのファイル名は `.jar` で終わります。`.jar` インストール プログラムを実行するには、Java 2 SDK の適切なバージョンをシステムにインストールした上で、Java 2 SDK の `bin` ディレクトリを `PATH` 変数の先頭で指定する必要があります。インストール プロセスでは、このディレクトリを指す `JAVA_HOME` と関連する変数が設定されるので、必ず SDK を使用してください。

## .bin インストール ファイルによるコンソールモードインストールの開始

`.bin` で終わるインストール ファイルによるコンソールモードインストールプロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。

2. コマンドライン シェルを開きます。
3. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、手順 4 に進みます。BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。

- a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストール ファイルをダウンロードします。ダウンロード オプションの詳細については、1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」を参照してください。
- b. インストール プログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始します。

```
chmod a+x filename.bin  
./filename.bin -mode=console
```

*filename.bin* は WebLogic Server インストール ファイルの名前です。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
./serverXXX_solaris.bin -mode=console  
-log=/nfs/homel/logs/wls_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストールプログラムはログ ファイルを作成しません。

- c. 3-8 ページの「コンソールモードインストールの実行」に進みます。
4. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合は、次の手順に従います。

- a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
- b. CD-ROM ディレクトリに移動し、使用しているハードウェア プラットフォーム用のインストール プログラムがあるフォルダに移動します。
- c. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
./filename.bin -mode=console
```

*filename.bin* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストール プログラムの名前です。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
./serverXXX_solaris.bin -mode=console  
-log=/nfs/home1/logs/wls_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストールプログラムはログ ファイルを作成しません。

d. 3-8 ページの「コンソールモードインストールの実行」に進みます。

## .jar インストール ファイルによるコンソールモードインストールの開始

.jar で終わるインストール ファイルによるコンソールモードインストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

**注意：** Windows、Solaris、HP-UX、IBM AIX 以外のハードウェア プラットフォーム上に WebLogic Server をインストールする場合、そのハードウェア プラットフォームに固有のインストール手順があることもあります。インストール プログラムを実行する前に、使用するハードウェア プラットフォームが「動作確認状況」ページに記載されていることを確認してください。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. 適切な Java 2 SDK の bin ディレクトリを、対象システム上の PATH 変数の先頭で指定します。次に例を示します。

```
PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH  
export PATH
```

JAVA\_HOME は Java 2 SDK ディレクトリへの絶対パスです。

4. 以下のいずれかを実行します。
  - 1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」の説明のとおりソフトウェアをダウンロードします。



- CD-ROM からインストールする場合は、WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入してから CD-ROM ディレクトリに移動します。
5. インストール ファイルが含まれるディレクトリに移動し、表 3-1 で説明するインストール手順を開始します。

表 3-1 WebLogic Server インストール プログラムを開始するコマンド

状況	入力するコマンド
IBM AIX、S/390、Z-Series 以外の UNIX プラットフォーム上にインストールする場合	<code>java -jar filename.jar -mode=console</code>
AIX、S/390、Z-Series のプラットフォーム上にインストールする場合	<code>java -classpath filename.jar com.bea.installer.BEAInstallController -mode=console</code>

それぞれのコマンドで、*filename.jar* は、WebLogic Server インストール ファイルの名前 (*pj\_serverXXX\_generic.jar* など) です。ネットインストーラのファイル名は *net\_* で始まります (*net\_pj\_platform700\_generic.jar* など)。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
java -jar filename.jar -mode=console
-log=/nfs/home1/logs/wls_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストールプログラムはログ ファイルを作成しません。

6. 「コンソールモードインストールの実行」に進みます。

## コンソールモード インストールの実行

コンソールモード インストール プロセスを完了するには、各セクションで選択する項目の番号を入力するか、または [Enter] を押してデフォルトを受け付け、指示に応答します。インストール プロセスを中止するには、指示に対して `exit` を入力します。選択した内容を確認したり変更したりするには、指示に対して `previous` を入力します。

**注意：** この節のサンプルのコンソール テキストとディレクトリ パス名では、UNIX のパス名の規則 ( フォワード スラッシュ ) を使用しています ( `/home1/bea/weblogic700` など )。Windows システムでパス名を入力する場合は、Windows のパス名の規則 ( バック スラッシュ ) を使用してください ( `C:\bea\weblogic700` など )。

以下の説明では、インストール プログラムの手順を示します。前の節で説明したようにインストール プログラムをコンソール モードで開始したら、この手順を使用します。

1. [ ようこそ ] プロンプトで、`next` と入力するか、[Enter] を押して、インストール プロセスを続行します。

[BEA Systems ライセンス契約] プロンプトが表示されます。

2. BEA ソフトウェア使用許諾契約を読み、契約の条件に同意するか拒否するかを、それぞれ `yes` または `no` を入力することで示します。契約書全体を見るには、[Enter] を何回か押すか、`more` を何回か入力します。`no` を入力すると、インストール プロセスは終了します。インストールを続行するには、`yes` を入力して、ライセンス契約の条件に同意することを示します。

[BEA ホーム ディレクトリの選択] プロンプトが表示されます。

3. 対象システム上にインストールされた BEA 製品の中央サポート ディレクトリとして機能する BEA ホーム ディレクトリを指定します。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-15 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照してください。

インストール プログラムでは以下のプロンプトが表示されます。

BEA ホーム ディレクトリの選択：

オプション選択：

- 1 - 新しい BEA ホームを作成する
- 2 - 既存の BEA ホームを使用する [ `/home/bea` ]

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

以下のいずれかを実行します。

- 既存の **BEA** ホーム ディレクトリを使用するには、2 または `next` と入力するか、**[Enter]** を押します。システム上に複数の **BEA** ホーム ディレクトリがある場合は、追加のプロンプトでディレクトリが表示されます。目的の **BEA** ホーム ディレクトリに関連付けられた番号を入力します。
- 新しい **BEA** ホーム ディレクトリを作成するには、1 を入力してから、**BEA** ホーム ディレクトリの絶対パス (`/home/beahome2` など) を入力します。存在しないディレクトリを指定すると、インストール プログラムによってディレクトリが作成されます。

既存の **BEA** ホーム ディレクトリを受け入れる場合でも、新しい **BEA** ホーム ディレクトリを作成する場合でも、以下のサンプルのように選択内容の確認を求められます。

```
<----- BEA Installer - WebLogic Platform 7.0.0.1 ----->
```

BEA ホーム ディレクトリの選択

- >1- はい、この **BEA** ホーム ディレクトリを使用します [/home/bea]
- 2- いいえ、**BEA** ホーム ディレクトリの選択に戻ります

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

コマンドラインで、1 を入力するか、**[Enter]** を押して、選択内容を受け入れます。受け入れない場合は、2 を入力して **[BEA ホーム ディレクトリの選択]** パネルに戻り、入力を修正できます。

**BEA** ホーム ディレクトリを選択し、選択内容を確認したら、**[インストールの種類を選択]** プロンプトが表示されます。

4. 以下のテキストのように、インストール タイプに関連付けられた番号を入力して、実行するインストールのタイプを指定します。

インストールの種類を選択

- >1| 標準インストール (プログラム ファイルおよびサンプルを含む、すべてのソフトウェア コンポーネントをインストールします)

- 2| カスタム インストール (インストールするソフトウェア コンポーネントを選択し、オプションとしてカスタム アプリケーション ドメインを作成します。詳しい知識があるユーザにお勧めします)

## コンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール

=> 選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

以下のいずれかを実行します。

- 標準インストールを選択するには、1 を入力するか、[Enter] を押します。

標準インストールでは、WebLogic Server に用意されているすべてのソフトウェアコンポーネント ( サンプルを含む ) がシステムにインストールされます。サンプルドメインはインストール時に PointBase データベースで使用するためあらかじめコンフィグレーションされ、インストールが完了すると、サンプルを実行できます。

**注意：** 標準インストール オプションを選択する場合、コンフィグレーション ウィザードはインストールの一部として自動的に起動されません。ただし、インストールの完了後に、[ スタート ] メニューから、またはコマンドラインスクリプトを使って手動で起動できます。2-12 ページの「コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション」を参照してください。

ソフトウェア コンポーネントは、以下のようにソフトウェアの配布方法によって異なります。

**CD-ROM またはパッケージインストーラ：** WebLogic Server および WebLogic Workshop と、関連するすべてのサンプルをインストールします。

**ネット インストーラ：** WebLogic Platform の全コンポーネントをインストールします。WebLogic Platform には、WebLogic Server と WebLogic Workshop の他に、WebLogic Portal、WebLogic Integration、および関連するすべてのサンプルが含まれます。

- 注意：** ネット インストーラ オプションを使用してソフトウェアをダウンロードし、他の WebLogic Platform コンポーネントを除いて WebLogic Server をインストールする場合は、カスタム インストール オプションを選択してから、インストールするコンポーネントのみを選択します。

**CD-ROM から、またはパッケージインストーラを使用してインストールしている場合は、** [ 製品ディレクトリを選択 ] プロンプトが表示されます。手順 7 に進みます。

**ネット インストーラを使用している場合は、** [ ダウンロード オプションを指定 ] プロンプトが表示されます。手順 6 に進みます。

- カスタム インストールを選択するには、2 を入力します。カスタムインストールでは、インストール ソフトウェア コンポーネントを選択します。必要に応じて、コンフィグレーション ウィザードを実行しカスタム WebLogic ドメインを作成できます。

[コンポーネントを選択] プロンプトが表示されます。

標準インストールとカスタム インストールの詳細については、1-13 ページの「インストール タイプの選択」を参照してください。

5. インストールするコンポーネントを選択します。利用できるコンポーネントが次のように表示されます。

コンポーネントを選択：

```

Release 7.0
|-----WebLogic Server  [0] x
|           |-----Server  [0.0] x
|           |-----Workshop  [0.1] x
|           |-----Server Examples  [0.2] x

```

=> 選択内容を切り替えるには、括弧内に表示される数字を正確に入力してください OR  
 [Exit][Previous][Next]> next

デフォルトでは、コンポーネントがすべて選択され、各行末に x (UNIX システム) またはチェック マーク (Windows システム) が表示されます。コンポーネントの選択を解除するには、括弧内の表示どおりにコンポーネントの数値コードをコマンドラインに入力します。たとえば、**WebLogic Server** の [サーバ サンプル] をインストールしないときは、コマンドラインに 0.2 と入力します。

システム上にインストール済みのコンポーネントがある場合は、括弧内に **Installed** と表示されます。

**注意：** ネット インストーラ オプションを使用してソフトウェアをダウンロードする場合、追加の **WebLogic Platform** コンポーネントのオプションが表示されます。**WebLogic Server** と **WebLogic Workshop** のみをインストールするには、追加の **WebLogic** コンポーネントの選択を解除します。**WebLogic Platform** の他のコンポーネントをインストールする場合は、『**BEA WebLogic Platform のインストール**』を参照してください。

コンポーネントの選択が終わったら、[Enter] を押すか、next と入力します。その場合、選択内容を確認するプロンプトが表示されます。コマンドラインで、1 を入力するか、[Enter] を押して、選択内容を確認します。または、2 を入力して [コンポーネントを選択] パネルに戻り、選択内容を修正できます。

**注意：** インストールするコンポーネントを選択または選択解除すると、インストールプログラムによりコンポーネント間の依存関係がチェックされ、選択されたコンポーネントのリストが自動的に修正されます。

CD-ROM から、またはパッケージインストーラを使用してインストールしている場合は、[製品ディレクトリを選択]プロンプトが表示されます。手順7に進みます。

ネットインストーラ(ファイル名が net\_ で始まるインストールプログラム)を使用している場合は、[ダウンロードオプションを指定]プロンプトが表示されます。

6. ソフトウェアのダウンロードに関する設定を以下のように指定します。インストールプログラムでは以下のプロンプトが表示されます。

ダウンロード オプションを指定

- 1- Modify Storage directory (none)
- 2- Modify Remove download files after installation (No)
- 3- Modify Proxy Host (none)
- 4- Modify Proxy Port (none)

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

以前に **WebLogic Server** をインストールし、インストールプロセス中にストレージディレクトリを指定したことがある場合、そのディレクトリの絶対パス名がデフォルトとして表示されます。表示されたデフォルトを受け入れるには next を入力するか、[Enter] を押します。以前のインストールでダウンロード用ストレージディレクトリを指定したことがなく、ダウンロードファイルを保存する場合は、ディレクトリを指定しないとインストールを続行できません。ストレージディレクトリを指定するか、他のオプションを変更するには、次の手順に従います。

- 1を入力して、ソフトウェアコンポーネントのダウンロード先となるストレージディレクトリを指定します。プロンプトが表示されたら、目的のディレクトリの絶対パス名を入力します。ネットインストーラを使用する場合はこのオプションが必要です。
- インストールの完了後にダウンロード済みファイルを削除する場合は、2と入力します。その場合、ダウンロードオプションが再び表示されて、[インストール後にダウンロードファイルを削除する]オプションが Yes に設定されます。このオプションのデフォルト (No) を受け入れない場合、ダウンロード済みファイルは、指定したストレージディレクトリに保存されます。
- 以下のように [Modify Host] および [Modify Port] オプションの値を指定して、ダウンロードで HTTP プロキシサーバを使用するかどうかを指定します。

ホストを指定するには、3を入力します。プロンプトで、プロキシサーバの名前と IP アドレスを入力します。

ポートを指定するには、4を入力します。プロンプトで、プロキシサーバのポート番号を入力します。

ソフトウェアのダウンロードの詳細については、1-4 ページの「WebLogic Server の Web 上での配布」を参照してください。

設定を指定したら、指定したストレージディレクトリへファイルのダウンロードが開始されます。ダウンロードが完了すると、インストールプログラムでは、コンポーネントアーカイブファイルが正常にダウンロードされたことを検証します。インストールプログラムがダウンロードの整合性を検証できない場合は、次のメッセージが表示されます。

必要なインストール アーカイブを確認できませんでした。BEA Systems からダウンロードするか、別のコンポーネントを選択してください。

検証が完了すると、[製品ディレクトリを選択]プロンプトが表示されます。

7. **WebLogic Server** ソフトウェアのインストール先ディレクトリを指定します。デフォルトの製品ディレクトリ (`bea_home/weblogic700`) を受け入れるか、または新しい製品ディレクトリを作成します。新しいディレクトリを指定した場合、インストールプログラムにより、自動的にディレクトリが作成されます。

このセクションでは以下のオプションが表示されます。

製品ディレクトリを選択：

```
Product Directory= [/home/bea/weblogic700]
```

オプション選択：

- 1 - 新規入力 製品ディレクトリ
- 2 - デフォルトにリセット

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

以下のいずれかを実行します。

- [Enter] を押して、2 または next を入力して現在の選択を受け入れます。最初のプロンプトで 2 を入力した場合には、デフォルトの製品ディレクトリ (この例では、`/home/bea/weblogic700`) を受け入れます。
- 新しい製品インストールディレクトリを入力するときは、1 を入力します。次のメッセージが表示されます。

製品ディレクトリを選択：

```
Product Directory = [/home1/bea/weblogic700]
```

新規入力 製品ディレクトリ OR [Exit][Previous][Next]>

**WebLogic Platform** ソフトウェアのインストール先のディレクトリの絶対パスを入力します。次に例を示します。

/home3/weblogic700

[Enter] を押すと、入力したパス名が製品ディレクトリとして表示されます。

[Enter] を押すか、または next を入力します。次のメッセージが表示されます。

製品ディレクトリを選択：

->1| はい、この製品ディレクトリを使用します。 [/home3/weblogic700]

2| いいえ、別の製品ディレクトリを選択します。

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

エントリが正しいかどうか確認し、次に 1 を入力するか、[Enter] を押してインストールを続行します。または、2 を入力して [製品ディレクトリを選択] パネルに戻り、エントリを修正できます。

ここで、インストール プログラムは指定したディレクトリにファイルをインストールします。

**注意：** インストールプログラムが、特に最後の段階で、長時間停止しても問題はありません。その場合もインストールプログラムは続行されています。

標準インストールを実行している場合、インストールは完了です。[Enter] を押して、インストール プログラムを終了します。カスタムインストールを実行している場合は、[コンフィグレーション ウィザードを実行] プロンプトが表示されます。

8. 該当するオプションを選択し、コンフィグレーション ウィザードを実行して **WebLogic** ドメインを作成するかどうかが指定します。以下のオプションがコンソールに表示されます。

コンフィグレーション ウィザードを実行

->1 - はい、コンフィグレーション ウィザードを実行してアプリケーション ドメインを作成します。

2 - いいえ、コンフィグレーション ウィザードをスキップします。

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

[Enter] を押すか、1 を入力してコンフィグレーション ウィザードを起動します。コンフィグレーション ウィザードをスキップするときは、2 または next を入力します。コンフィグレーション ウィザードは、インストール完了後にもう一度起動できます。

コンフィグレーション ウィザードを使って **WebLogic** のカスタム ドメインを作成し、コンフィグレーションできます。**WebLogic** ドメインは、1 つの単位として管理される、相互に関連した **WebLogic Server** リソースのセットです。ドメインには、1 つまたは複数の **WebLogic Server** が含まれ、**WebLogic Server** クラスタが含まれる場合もあります。



コンフィグレーション ウィザードの詳細については、2-12 ページの「コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション」を参照してください。

ドメインを作成するか、または 2 を入力してコンフィグレーション ウィザードをスキップしたら、インストールは完了です。

9. [Enter] を押して、インストール プログラムを終了します。

## 次のステップ

WebLogic Server 7.0 の詳細については、以下のファイルを参照してください。

- `about_wls.html`

このファイルには、このバージョンの **WebLogic Server** の新機能の概要と、関連情報の参照先リストが入っています。

`WL_HOME/server/about_wls.html` にある `about_wls.html` ファイルにアクセスできます。`WL_HOME` は **WebLogic Server** ソフトウェアの最上位のインストール ディレクトリです。

- `readme.txt`

`ABOUT_WLS.HTML` と同様な情報が含まれるテキストのみのファイル。

`WL_HOME/server/readme.txt` にある `README.TXT` ファイルにアクセスできます。

`WL_HOME` は **WebLogic Server** ソフトウェアの最上位のインストール ディレクトリです。



# サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

以下の節では、Windows および UNIX システムでサイレントモードでインストールプログラムを使用して WebLogic Server をインストールする方法について説明します。

- 4-1 ページの「サイレントモードインストールとは」
- 4-2 ページの「始める前に」
- 4-3 ページの「サイレントモードインストールの使用: 主な手順」
- 4-5 ページの「サイレントモードインストール テンプレート ファイルの作成」
- 4-11 ページの「サイレントモードインストールのサンプル テンプレート ファイル」
- 4-21 ページの「Windows システム上でのサイレントモードインストールプロセスの開始」
- 4-22 ページの「UNIX システム上でのサイレントモードインストールプロセスの開始」

## サイレントモード インストールとは

サイレントモードインストールは、いったんインストールのコンフィグレーションを設定してから、そのコンフィグレーションを使用して多数のマシンにインストールを複製する方法の 1 つです。サイレントモードでのインストール時に、インストールプログラムによって、インストールの開始前に作成される XML ファイルからコンフィグレーションの設

定を読み込みます。インストール プロセス中に、コンフィグレーション オプションは表示されません。サイレントモード インストールは、Windows システムでも UNIX システムでも利用できます。

**注意：** サイレントモード インストールを使用するということは、BEA ライセンス契約に同意したことになります。BEA ソフトウェア使用許諾契約が表示されることもなく、契約書の条件に同意することを確認する画面も表示されません。

この節の説明では、インストール プログラムを CD または Web ですすでに入手していることを前提としています。詳細については、1-4 ページの「WebLogic Server の配布方法」を参照してください。

**注意：** サイレントモード インストールでは、パッケージインストーラを使用する必要があります。サイレントモード インストールは、ネットインストーラではサポートされません。ネットインストーラ版のインストール プログラムのファイル名は net\_ で始まります (net\_platformXXX\_solaris.bin など)。サイレントモード インストールでは、ファイル名が net\_ で始まるインストール プログラムを使用しないでください。

## 始める前に

WebLogic Server のインストールを始める前に、製品のインストール先がサポートされているプラットフォームであることを確認します。サポートされているプラットフォームの詳細なリストについては、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/certifications/certifications/index.html> を参照してください。第 1 章「WebLogic Server のインストール準備」全体にも目を通してください。

**注意：** サイレントモード インストールでは、標準インストールのみがサポートされています。WebLogic Server インストール プログラムに含まれるすべてのソフトウェア コンポーネントをインストールする必要があります。標準インストールでインストールされるコンポーネントについては、1-13 ページの「インストール タイプの選択」を参照してください。

すでにインストールされているバージョンと同じ場所に、WebLogic Server を再インストールすることはできません。第 8 章「WebLogic Server のアンインストール」で説明しているように、まず WebLogic Server をアンインストールするか、または別の場所にインストールする必要があります。

# サイレントモード インストールの使用：主な手順

サイレントモードインストールプロセスには、主に2つの手順があります。

1. BEA ホーム ディレクトリ、製品ディレクトリ、コンフィグレーション ウィザード オプションなどコンフィグレーション設定の入ったテンプレート ファイルを作成します。

手順の詳細については、4-5 ページの「サイレントモードインストール テンプレート ファイルの作成」を参照してください。サンプルテンプレート ファイルについては、4-11 ページの「サイレントモードインストールのサンプルテンプレート ファイル」を参照してください。

2. サイレントモードインストールプロセスを開始し、テンプレート ファイルで指定された値を使用します。

手順の詳細については、4-21 ページの「Windows システム上でのサイレントモードインストール プロセスの開始」と 4-22 ページの「UNIX システム上でのサイレントモードインストール プロセスの開始」を参照してください。

サイレントモードインストールでは、標準のインストールと同じ時間がかかります。サイレントモードインストール中に、インストールが始まったことを示す初期インストールプログラム ウィンドウが一瞬表示されます。これ以外には、インストールが進行中であること、正常に完了したこと、またはエラーが発生したことを示すメッセージは表示されません。

**注意：** サイレントモードインストール時に、インストールプログラムは `silent.xml` ファイル内のエントリを検証しません。`silent.xml` ファイルにエラーがあると、インストールに失敗します。

サイレントモードインストールでは、パッケージインストーラを使用する必要があります。サイレントモードインストールは、ネットインストーラではサポートされません。ネットインストーラ版のインストールプログラムのファイル名は `net_` で始まります (`net_platformXXX_solaris.bin` など)。サイレントモードインストールでは、ファイル名が `net_` で始まるインストールプログラムを使用しないでください。

サイレントモード インストールでは、標準のインストールと同じ一時スペースと一時的ストレージディレクトリが必要になります。詳細については、1-10 ページの「一時的ストレージ領域の要件」を参照してください。インストールプログラムでは、一時ディレクトリに十分なスペースがない場合でもメッセージは表示されません。

# サイレントモード インストールに関する重要な注意事項

WebLogic Server をサイレント モードでインストールする場合には、以下の事項に注意する必要があります。

- サイレントモードインストールでは、パッケージインストーラを使用する必要があります。サイレントモードインストールは、ネット インストーラではサポートされません。ネット インストーラ版のインストール プログラムのファイル名は net\_ で始まります (net\_platformXXX\_solaris.bin など)。XXX は、インストールするソフトウェアのバージョン番号です。サイレントモードインストールでは、ファイル名が net\_ で始まるインストール プログラムを使用しないでください。
- サイレントモードインストールでは、標準インストールのみがサポートされています。WebLogic Server のすべてのコンポーネントをインストールする必要があります。標準インストールでインストールされるコンポーネントについては、1-13 ページの「インストール タイプの選択」を参照してください。
- サイレントモードインストールでは、標準のインストールと同じ一時ディスク スペースと一時的ストレージディレクトリが必要になります。詳細については、1-10 ページの「一時的ストレージ領域の要件」を参照してください。インストール プログラムでは、一時ディレクトリに十分なスペースがない場合でもメッセージは表示されません。
- サイレントモードインストールでは、標準のインストールと同じ時間がかかります。サイレントモードインストールの最初に、インストールが始まったことを示す初期インストール プログラム ウィンドウまたはメッセージが一瞬表示されます。これ以外には、インストールが進行中であることを示すメッセージも正常に完了したことを示すメッセージも表示されません。
- silent.xml ファイルに不正な入力があると、インストールに失敗する場合があります。失敗の原因の判別に利用できるように、インストールの開始時にログ ファイルを作成しておくことをお勧めします。

- XML 定義(<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>) は、silent.xml テンプレート ファイルの先頭になければなりません。XML 定義の前には、スペースも改行も入れないでください。

# サイレントモード インストール テンプレート ファイルの作成

サイレント モードで WebLogic Server をインストールするときは、XML ファイル (silent.xml) がインストール オプションの選択に使用されます。サイレント モードでインストール プログラムを実行する前に、インストール オプションの入った silent.xml ファイルを作成する必要があります。

**注意：** サイレントモードインストール時に、インストール プログラムは silent.xml ファイル内のエントリを検証しません。silent.xml ファイルにエラーがあると、インストールに失敗します。

サイレントモードインストール プロセスで使用するテンプレート ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. サンプルのサイレントモードインストール テンプレート ファイルを、サポートされているブラウザで表示します。サンプル テンプレートは次の場所にあります。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/install/instsil.html#template>

サンプル テンプレートはこの章の後半にも記載されています。4-11 ページの「サイレントモードインストールのサンプル テンプレート ファイル」を参照してください。

2. テンプレート ファイルの内容をコピーして、WebLogic Server インストーラが入っているディレクトリ内に、silent.xml という名前のテキスト ファイルとして保存します。

**注意：** XML 定義(<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>) は、テンプレート ファイルの先頭になければなりません。XML 定義の前には、スペースも改行も入れないでください。

3. silent.xml ファイルで、表 4-1 に示したキーワードの値を必要なコンフィギュレーションに合わせて変更します。

**注意：** 値を変更するときは、文字に関する XML ガイドラインに従う必要があります。すなわち、<、>、[、および ] などの XML の予約文字は使用できません。

**表 4-1 サイレントモード インストール テンプレートの値**

データ値名	入力する値
BEAHOME	<p>任意の BEA ホーム ディレクトリの絶対パス名。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-15 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照。</p> <p><b>注意：</b> ソフトウェアのインストール前に BEA ホーム ディレクトリを作成しておくことはできない (サイレントインストールの場合のみ)。</p>
USER_INSTALL_DIR	<p>WebLogic Platform ソフトウェアのインストール先ディレクトリの絶対パス名。詳細については、1-19 ページの「製品のインストールディレクトリ」を参照。</p>
RUN_DOMAIN_WIZARD	<p>インストールの一部としてコンフィグレーション ウィザードを実行し、ドメインを作成する場合は true、コンフィグレーション ウィザードを省略する場合は false。コンフィグレーション ウィザードの実行を選択したときは、この表の以下の行に記載された該当のデータ値を指定する必要がある。コンフィグレーション ウィザードの詳細については、『WebLogic Server ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照。</p>
<p>残りの値はコンフィグレーション ウィザードのオプションに適用される。</p>	
domain.directory	<p>ドメインディレクトリの絶対パス。ドメインディレクトリはドメインと同じ名前をつける必要がある。</p> <p><b>注意：</b> UNIX システムでは、ドメインディレクトリのパスにスペースを入れないこと。</p>
C_domainName	<p>作成するドメインの名前。この名前は domain.directory に指定したディレクトリ名と一致する必要がある。</p> <p><b>注意：</b> UNIX システムでは、ドメイン名にスペースを入れないこと。</p>



表 4-1 サイレントモード インストール テンプレートの値

データ値名	入力する値
C_serverName	<p>コンフィグレーションするサーバの名前。スタンドアロンサーバのサーバ名としておよび管理対象サーバとクラスタサーバを含むドメインの管理サーバとして使用される。</p> <p><b>注意：</b> サーバ名にスペースを入れないこと。</p>
C_username	<p>サーバを起動し、<b>Administration Console</b> にアクセスする管理ユーザ名。スペースや <b>XML</b> の予約文字は使用しない。</p>
C_password	<p>管理ユーザのパスワード。8 文字以上 20 文字以下のパスワードを入力する。スペースや <b>XML</b> の予約文字は使用しない。</p>
C_serverListenAddress	<p>サーバのシステム IP アドレスまたは DNS 名。localhost とサーバ IP アドレスを使用してサーバと <b>Administration Console</b> にアクセスするには、<b>C_serverListenAddress</b> を空白のままにする。</p>
C_serverListenPort=	<p>管理サーバ専用の <b>TCP/IP</b> ポート番号。サーバが接続をリスンするポートをこの番号で指定する。通常は 7001。ポート番号は 1 から 65535 までの任意の整数を使用できる。</p>
C_serverSSLListenPort=	<p>管理サーバ専用のセキュアリスンポート番号。セキュアリスンポート番号は、セキュアソケットレイヤ (<b>SSL</b>) プロトコルに基づくセキュア <b>Web</b> 接続で使用される。通常は 7002。ポート番号は 1 から 65535 までの任意の整数を使用できるが、<b>C_serverListenPort</b> と同じポートにはできない。</p>
ClusterName	<p>作成するクラスタの名前。クラスタを作成する場合にのみ適用。</p> <p><b>注意：</b> クラスタ名にスペースを入れないこと。</p>
ClusterPort	<p>クラスタサーバと通信するために管理サーバによって使用されるマルチキャストポート。通常は 7777。クラスタを作成する場合にのみ適用。</p>

表 4-1 サイレントモード インストール テンプレートの値

データ値名	入力する値
ClusterMCAddr	クラスタ サーバと通信するために管理サーバによって使用されるマルチキャスト IP アドレス。通常は 237.0.0.1。有効なマルチキャストアドレスは 237、238、または 239 で始まる。クラスタを作成する場合にのみ適用。
ADMIN_HOST_NAME_OR_IP	管理サーバの名前または IP アドレス。管理対象サーバをコンフィグレーションするときに使用。
ADMIN_LISTEN_PORT	管理サーバがリスンするポート。管理対象サーバをコンフィグレーションするときに使用。
MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN	管理サーバに登録されるマシン名またはサーバ名。管理対象サーバをコンフィグレーションするときに使用。
SERVER-RUN-AS	コンフィグレーション ウィザードによって作成されるサーバ コンフィグレーションを決定する。Single Server (Standalone Server)、Admin Server with Managed Server(s)、Admin Server with Clustered Managed Server(s)、または Managed Server (with owning Admin Server configuration)。
selectedJar	ドメインの作成およびサーバのコンフィグレーションのためコンフィグレーション ウィザードによって使用される JAR テンプレート ファイルの絶対パス。
INSTALL_NT_SERVICE (Windows システムのみ)	<p>Windows サービスとしてコンフィグレーションされたサーバをインストールするには <b>yes</b>、Windows サービスとしてコンフィグレーションされたサーバをインストールしない場合は <b>no</b>。</p> <p><b>注意：</b> このデータ値のペアは、選択したテンプレートが、サーバの Windows サービスとしてのインストールをサポートしている場合にのみ使用される。それ以外の場合、この値は無視される。 この値は UNIX システムでは無視される。</p>

表 4-1 サイレントモード インストール テンプレートの値

データ値名	入力する値
INSTALL_WINDOWS_STAR TUP_MENU	Windows [ スタート ] メニューにサーバを起動するためのオプションを追加する場合は <b>yes</b> 。[ スタート ] メニュー オプションをスキップする場合は <b>no</b> ( デフォルト値 )。  <b>注意：</b> このデータ値のペアは、選択したテンプレートが [ スタート ] メニュー オプションのインストールをサポートしている場合にのみ使用される。それ以外の場合、この値は無視される。 この値は <b>UNIX</b> システムでは無視される。
DB_EMAIL_HOST	デフォルトの電子メール サーバまたは <b>SMTP</b> サーバ。  <b>注意：</b> このデータ値のペアは、選択したテンプレートが <b>WebLogic Integration</b> 機能をサポートしている場合にのみ使用される。それ以外の場合、この値は無視される。
DB_EMAIL_ADDRESS	<b>WebLogic Integration</b> のワークフロー インスタンスによる電子メールの送信元アドレス。  <b>注意：</b> このデータ値のペアは、選択したテンプレートが <b>WebLogic Integration</b> 機能をサポートしている場合にのみ使用される。それ以外の場合、この値は無視される。

表 4-1 サイレントモード インストール テンプレートの値

データ値名	入力する値
managedServers データグループ	<p>ドメイン内の管理対象サーバグループのコンフィグレーションを決定する。このデータグループは、<b>SERVER-RUN-AS</b> の値として「Admin Server with Managed Server(s)」を選択する場合にのみ適用される。</p> <p>コンフィグレーション内の管理対象サーバごとに、以下の項目を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• managedServerRegName— 管理サーバに登録されたサーバの名前。英数字のみ、スペースは不可。</li> <li>• managedServerHostIP— サーバをインストールするマシンの IP アドレスまたは DNS 名。</li> <li>• managedServerListenPort— サーバのリスンポート。</li> <li>• managedServerSSLListenPort— サーバのセキュアリスンポート。</li> </ul>
clusterServers データグループ	<p>ドメイン内のクラスタ化された管理対象サーバグループのコンフィグレーションを決定する。このデータグループは、<b>SERVER-RUN-AS</b> に「Admin Server with Clustered Managed Server(s)」を選択する場合にのみ適用される。</p> <p>クラスタ内のサーバごとに、以下の項目を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• clusterServerRegName— 管理サーバに登録されたサーバの名前。英数字のみ、スペースは不可。</li> <li>• clusterServerHostIP— サーバをインストールするマシンの IP アドレスまたは DNS 名。</li> <li>• clusterServerListenPort— サーバのリスンポート。</li> <li>• clusterServerSSLListenPort— サーバのセキュアリスンポート。</li> </ul>

コンフィグレーション ウィザードの機能と選択できるオプションの詳細については、『WebLogic Server ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照してください。

# サイレントモード インストールのサンプル テンプレート ファイル

この節では、サイレント インストール時のさまざまなドメイン コンフィグレーションに使用できるテンプレート ファイルのサンプルを示します。

- 包括的なサンプル テンプレート ファイル
- 別個の管理サーバおよび管理対象サーバを含むドメインをコンフィグレーションするためのサンプル テンプレート
- 管理対象サーバのクラスタをコンフィグレーションするためのサンプル テンプレート
- 既存のドメインに管理対象サーバを追加するためのサンプル テンプレート

この節にあるファイルをコピーし、必要なコンフィグレーションに合わせて変更することができます。また、後半の 3 つのテンプレート間の相違 (太字の強調箇所) を調べて、どのパラメータ設定がコンフィグレーションのどの側面を指定しているのかを学習することもできます。

## 包括的なサンプル テンプレート ファイル

コードリスト 4-1 のサンプル テンプレート ファイルでは、サイレントインストール テンプレート ファイルの構造と、使用可能なオプションのすべてが示されています。表 4-1 に従って次のテンプレート テキストを変更し、それを `silent.xml` という名前のファイルとして保存すると、サイレント モードで WebLogic Server をインストールするときにテンプレート ファイルとして使用できます。

### コード リスト 4-1 包括的なサンプル テンプレート ファイル

---

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<domain-template-descriptor>

<input-fields>
  <data-value name="BEAHOME"                value="C:\bea" />
```

## サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

```
<data-value name="USER_INSTALL_DIR" value="C:\bea\weblogic700" />
<data-value name="RUN_DOMAIN_WIZARD" value="false" />

<!-- 以下の値はコンフィグレーション ウィザードが、ドメインを作成しコンフィグレーションするために使用 -->

<data-value name="domain.directory" value="C:\bea\user_domains\mydomain" />
<data-value name="C_domainName" value="mydomain" />
<data-value name="C_serverName" value="myserver" />
<data-value name="C_username" value="system" />
<data-value name="C_password" value="weblogic" />
<data-value name="C_serverListenAddress" value=" " />
<data-value name="C_serverListenPort" value="7001" />
<data-value name="C_serverSSLListenPort" value="7002" />
<data-value name="ClusterName" value="mycluster" />
<data-value name="ClusterPort" value="7777" />

<!-- 次の ClusterMCAddr の値は、クラス D の IP アドレスでなければならない -->
<data-value name="ClusterMCAddr" value="237.0.0.1" />
<data-value name="ADMIN_HOST_NAME_OR_IP" value="adminserver" />
<data-value name="ADMIN_LISTEN_PORT" value="7001" />
<data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN" value="ms1" />

<!-- SERVER-RUN-AS の値がコンフィグレーション ウィザードの作成するサーバのコンフィグレーションを決定する。
以下の行で示すとおり 4 つのオプションがある。
使用しない 3 つのオプションはコメントアウトする -->

<data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Single Server (Standalone
Server)" />
<!-- <data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Admin Server with Managed
Server(s)" /> -->
<!-- <data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Admin Server with Clustered
Managed Server(s)" /> -->
<!-- <data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Managed Server (with owning Admin
Server configuration)" /> -->

<!-- selectedJar の値によって、コンフィグレーション ウィザードがドメインの作成とサーバのコンフィグレーションに使用するテンプレートが決定される -->

<data-value name="selectedJar"
value="C:\bea\weblogic700\common\templates\domains\wls.jar" />

<!-- 以下の 4 つのデータ値は、上記で指定したコンフィグレーション ウィザード テンプレート内で
選択されているオプションによって異なる。
関連するオプションがテンプレートで選択されていない場合、以下の 4 つのデータ値は無視される -->
```

## サイレントモード インストールのサンプル テンプレート ファイル

```
<data-value name="INSTALL_NT_SERVICE"           value="no" />
<data-value name="INSTALL_WINDOWS_STARTUP_MENU" value="no" />
<data-value name="DB_EMAIL_HOST"                 value="myserver" />
<data-value name="DB_EMAIL_ADDRESS"             value="name@bea.com" />
```

<!-- managedServers データ グループは、ドメイン内の管理対象サーバ グループのコンフィグレーションを決定する。

このデータ グループは SERVER-RUN-AS の値として「Admin Server with Managed Server(s)」を選択した場合にのみ適用される。

このデータ グループを使用するには、該当する行のコメントを解除する -->

```
<!-- <data-group name="managedServers"> -->
<!-- <data-element> -->
<!-- <data-value name="managedServerRegName" value="managed1" /> -->
```

<!-- 次の値は IP アドレスまたは DNS 名のいずれかになる -->

```
<!-- <data-value name="managedServerHostIP" value="host1" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerListenPort" value="1001" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="1002" /> -->
<!-- </data-element> -->
<!-- <data-element> -->
<!-- <data-value name="managedServerRegName" value="managed2" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerHostIP" value="host2" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerListenPort" value="2001" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="2002" /> -->
<!-- </data-element> -->
<!-- <data-element> -->
<!-- <data-value name="managedServerRegName" value="managed3" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerHostIP" value="host3" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerListenPort" value="3001" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="3002" /> -->
<!-- </data-element> -->
<!-- <data-element> -->
<!-- <data-value name="managedServerRegName" value="managed4" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerHostIP" value="host4" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerListenPort" value="4001" /> -->
<!-- <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="4002" /> -->
<!-- </data-element> -->
<!-- </data-group> -->
```

<!-- clusterServers データ グループはドメイン内のクラスタ化された管理対象サーバ グループのコンフィグレーションを決定する。

このデータ グループが適用されるのは、

## サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

「Admin Server with Clustered Managed Server(s)」を

SERVER-RUN-AS の値として選択する場合のみ。このデータ グループを使用するには、該当する行すべてのコメントを解除する -->

```
<!--      <data-group name="clusterServers"> -->
<!--      <data-element> -->
<!--      <data-value name="clusterServerRegName"    value="cluster1" /> -->
<!-- 次の値は IP アドレスまたは DNS 名のいずれかになる -->
<!--      <data-value name="clusterServerHostIP"     value="host1"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerListenPort" value="1001"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerSSLListenPort" value="1002" /> -->
<!--      </data-element> -->
<!--      <data-element> -->
<!--      <data-value name="clusterServerRegName"    value="cluster2" /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerHostIP"     value="host2"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerListenPort" value="2002"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerSSLListenPort" value="2003" /> -->
<!--      </data-element> -->
<!--      <data-element> -->
<!--      <data-value name="clusterServerRegName"    value="cluster3" /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerHostIP"     value="host3"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerListenPort" value="3003"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerSSLListenPort" value="3004" /> -->

<!--      </data-element> -->
<!--      <data-element> -->
<!--      <data-value name="clusterServerRegName"    value="cluster4" /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerHostIP"     value="host4"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerListenPort" value="4004"    /> -->
<!--      <data-value name="clusterServerSSLListenPort" value="4005" /> -->
<!--      </data-element> -->
<!--      </data-group> -->

</input-fields>

</domain-template-descriptor>
```

---



## 別個の管理サーバおよび管理対象サーバを含むドメインをコンフィグレーションするためのサンプル テンプレート

次のサンプル テンプレートは、1つの管理サーバと1つまたは複数の管理対象サーバで構成されるドメインをサイレント インストール時にコンフィグレーションする場合に使用できます。太字で強調されている文字列は、コンフィグレーションの定義において重要な意味を持ちます。これらの文字列の設定を、他のサンプル テンプレート ファイルの対応する文字列の設定と比較してください。

表 4-1 に従って次のテンプレートを変更し、それを `silent.xml` という名前のファイルとして保存できます。その後、**WebLogic Server** をサイレント モードでインストールするときに、この新しいファイルをテンプレートとして使用できます。

### コード リスト 4-2 別個の管理サーバと管理対象サーバを含むドメインのコンフィグレーション

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<domain-template-descriptor>

<input-fields>
  <data-value name="BEAHOME" value="C:\bea\user_domains\mydomain" />
  <data-value name="USER_INSTALL_DIR"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\weblogic700" />
  <data-value name="RUN_DOMAIN_WIZARD" value="true" />

<!-- 以下の値はコンフィグレーション ウィザードが、ドメインを作成しコンフィグレーションする
ために使用 -->

  <data-value name="domain.directory"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\user_domains\d1" />
  <data-value name="C_domainName" value="d1" />
  <data-value name="C_serverName" value="admin" />
  <data-value name="C_username" value="system" />
  <data-value name="C_password" value="weblogic" />
  <data-value name="C_serverListenAddress" value="" />
  <data-value name="C_serverListenPort" value="8001" />
  <data-value name="C_serverSSLListenPort" value="8002" />
```

## サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

```
<!-- 次の ClusterMCAddr の値は、クラス D の IP アドレスでなければならない -->
  <data-value name="ClusterMCAddr" value="237.0.0.1" />
  <data-value name="ADMIN_HOST_NAME_OR_IP" value="adminserver" />
  <data-value name="ADMIN_LISTEN_PORT" value="9999" />
  <data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN" value="mmss1"
/>
  <data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN" value="mmss2"
/>

<!-- SERVER-RUN-AS の値がコンフィグレーション ウィザードの作成するサーバのコンフィグレーションを決定する。
以下の行で示すとおり 4 つのオプションがある。
使用しない 3 つのオプションはコメントアウトする -->

<data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Admin Server with Managed Server(s)"
/>
  <data-group name="managedServers">
    <data-element>
      <data-value name="managedServerRegName" value="ms1" />
      <data-value name="managedServerHostIP" value="host1" />
      <data-value name="managedServerListenPort" value="1001" />
      <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="1002" />
    </data-element>

    <data-element>
      <data-value name="managedServerRegName" value="ms2" />
      <data-value name="managedServerHostIP" value="host2" />
      <data-value name="managedServerListenPort" value="2001" />
      <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="2002" />
    </data-element>
  </data-group>

  <!-- selectedJar の値によって、コンフィグレーション ウィザードがドメインの作成とサーバのコンフィグレーションに使用するテンプレートが決定される -->

  <data-value name="selectedJar" value="C:\bea\user_domains\mydomain\
weblogic700\common\templates\domains\wls.jar" />
</input-fields>

</domain-template-descriptor>
```

---

## 管理対象サーバのクラスタをコンフィグレーションするためのサンプル テンプレート

次のサンプル テンプレートは、1つの管理サーバと管理対象サーバのクラスタで構成されるドメインをサイレント インストール時にコンフィグレーションする場合に使用できます。太字で強調されている文字列は、コンフィグレーションの定義において重要な意味を持ちます。これらの文字列の設定を、他のサンプル テンプレート ファイルの対応する文字列の設定と比較してください。

表 4-1 に従って次のテンプレートを変更し、それを `silent.xml` という名前のファイルとして保存できます。その後、**WebLogic Server** をサイレント モードでインストールするときに、この新しいファイルをテンプレートとして使用できます。

### コード リスト 4-3 管理サーバとクラスタ化された管理対象サーバを含むドメインのコンフィグレーション

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<domain-template-descriptor>

<input-fields>
  <data-value name="BEAHOME" value="C:\bea\user_domains\mydomain" />
  <data-value name="USER_INSTALL_DIR"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\weblogic700" />
  <data-value name="RUN_DOMAIN_WIZARD" value="true" />

<!-- 以下の値はコンフィグレーション ウィザードが、ドメインを作成しコンフィグレーションするた
めに使用 -->
  <data-value name="domain.directory"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\user_domains\myCluster" />
  <data-value name="C_domainName" value="myCluster" />
  <data-value name="C_serverName" value="admin" />
  <data-value name="C_username" value="system" />
  <data-value name="C_password" value="weblogic" />
  <data-value name="C_serverListenAddress" value="localhost" />
  <data-value name="C_serverListenPort" value="8001" />
  <data-value name="C_serverSSLListenPort" value="8002" />
  <data-value name="ClusterName" value="mycluster" />
  <data-value name="ClusterPort" value="7777" />

<!-- 次の ClusterMCAddr の値は、クラス D の IP アドレスでなければならない -->
  <data-value name="ClusterMCAddr" value="237.0.0.1" />
```

## サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

```
<data-value name="ADMIN_HOST_NAME_OR_IP" value="admin" />
<data-value name="ADMIN_LISTEN_PORT" value="8001" />
<data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN" value="cs1" />
<data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN" value="cs2" />
```

<!-- SERVER-RUN-AS の値がコンフィグレーション ウィザードの作成するサーバのコンフィグレーションを決定する。  
以下の行で示すとおり 4 つのオプションがある。  
使用しない 3 つのオプションはコメントアウトする -->

```
<data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Admin Server with Clustered
Managed Server(s)" />
```

```
<data-group name="clusterServers"
  <data-element>
    <data-value name="clusterServerRegName" value="cs1" />
    <data-value name="clusterServerHostIP" value="host1" />
    <data-value name="clusterServerListenPort" value="1001" />
    <data-value name="clusterServerSSLListenPort" value="1002" />
  </data-element>

  <data-element>
    <data-value name="clusterServerRegName" value="cs2" />
    <data-value name="clusterServerHostIP" value="host2" />
    <data-value name="clusterServerListenPort" value="2001" />
    <data-value name="clusterServerSSLListenPort" value="2002" />
  </data-element>
</data-group>
```

- <!-- selectedJar の値によって、コンフィグレーション ウィザードがドメインの作成とサーバのコンフィグレーションに使用するテンプレートが決定される -->

```
<data-value name="selectedJar"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\weblogic700\common\
templates\domains\wls.jar" />
</input-fields>

</domain-template-descriptor>
```

---

## 既存のドメインに管理対象サーバを追加するためのサンプル テンプレート

次のサンプル テンプレートは、既存のドメインに管理対象サーバを追加する場合に使用できます。太字で強調されている文字列は、コンフィグレーションの定義において重要な意味を持ちます。これらの文字列の設定を、他のサンプル テンプレート ファイルの対応する文字列の設定と比較してください。

表 4-1 に従って次のテンプレートを変更し、それを `silent.xml` という名前のファイルとして保存できます。その後、**WebLogic Server** をサイレント モードでインストールするときに、この新しいファイルをテンプレートとして使用できます。

### コード リスト 4-4 既存のドメインに管理対象サーバを追加するためのテンプレート

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<domain-template-descriptor>

<input-fields>
    <data-value name="BEAHOME" value="C:\bea\user_domains\mydomain" />
    <data-value name="USER_INSTALL_DIR"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\weblogic700" />
    <data-value name="RUN_DOMAIN_WIZARD" value="true" />

<!-- 以下の値はコンフィグレーション ウィザードが、ドメインを作成しコンフィグレーションするため
に使用 -->
    <data-value name="domain.directory"
value="C:\bea\user_domains\mydomain\user_domains\d2" />
    <data-value name="C_domainName" value="d2" />
    <data-value name="C_serverName" value="admin" />
    <data-value name="C_username" value="system" />
    <data-value name="C_password" value="weblogic" />
    <data-value name="C_serverListenAddress" value="" />
    <data-value name="C_serverListenPort" value="8001" />
    <data-value name="C_serverSSLListenPort" value="8002" />

<!-- 次の ClusterMCAddr の値は、クラス D の IP アドレスでなければならない -->
    <data-value name="ClusterMCAddr" value="237.0.0.1" />
    <data-value name="ADMIN_HOST_NAME_OR_IP" value="adminserver" />
    <data-value name="ADMIN_LISTEN_PORT" value="9999" />
    <data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN"
value="mmssl" />
```

## サイレントモード インストールによる WebLogic Server のインストール

```
<data-value name="MANAGED_SERVER_REGISTERED_NAME_IN_ADMIN"
value="mmss2" />
```

<!-- SERVER-RUN-AS の値がコンフィグレーション ウィザードの作成するサーバのコンフィグレーションを決定する。  
以下の行で示すとおり 4 つのオプションがある。  
使用しない 3 つのオプションはコメントアウトする -->

```
<data-value name="SERVER-RUN-AS" value="Managed Server (with owning
Admin Server
configuration)" />
```

```
<data-group name="managedServers">
  <data-element>
    <data-value name="managedServerRegName" value="ms1" />
    <data-value name="managedServerHostIP" value="host1" />
    <data-value name="managedServerListenPort" value="1001" />
    <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="1002" />
  </data-element>

  <data-element>
    <data-value name="managedServerRegName" value="ms2" />
    <data-value name="managedServerHostIP" value="host2" />
    <data-value name="managedServerListenPort" value="2001" />
    <data-value name="managedServerSSLListenPort" value="2002" />
  </data-element>
</data-group>
```

<!-- selectedJar の値によって、コンフィグレーション ウィザードがドメインの作成とサーバのコンフィグレーションに使用するテンプレートが決定される -->

```
<data-value name="selectedJar" value="C:\bea\user_domains\mydomain
\weblogic700\common\templates\domains\wls.jar" />
</input-fields>
</domain-template-descriptor>
```

---

# Windows システム上でのサイレントモード インストール プロセスの開始

Windows システム上でサイレントモードインストールを開始するには、次の手順を実行します。

1. Windows システムにログインします。

WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールするには、Administrator 権限を持っている必要があります。WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールする詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の Windows サービスとしての設定」を参照してください。

2. MS-DOS コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
3. インストール ファイルが含まれるディレクトリに移動し、`silent.xml` テンプレート ファイルの絶対パス名を指定することに注意して次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
filename.exe -mode=silent -silent_xml=path_to_silent.xml
```

*filename* は WebLogic Server インストール ファイル名、*path\_to\_silent.xml* は `silent.xml` テンプレート ファイルへの絶対パスです。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
serverXXX_win32.exe -mode=silent -silent_xml=D:\silent.xml  
-log=D:\logs\wls_install.log
```

xxx は、インストールするソフトウェアのバージョンです。

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストールプログラムはログ ファイルを作成しません。詳細については、1-19 ページの「冗長なインストール ログの生成」を参照してください。

# UNIX システム上でのサイレントモード インストール プロセスの開始

WebLogic Server インストール プログラムの実行には、Java 実行時環境 (JRE) が必要になります。JRE を含む Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Windows インストール プログラムおよび一部の UNIX インストール プログラム (ファイル名が `.bin` で終わるプログラム) に付属しています。それ以外の UNIX プラットフォームに対しては、WebLogic Server インストール プログラムに Java 2 SDK が含まれません。これらのインストール プログラムのファイル名は `.jar` で終わります。`.jar` インストール プログラムを実行するには、Java 2 SDK の適切なバージョンをシステムにインストールした上で、Java 2 SDK の `bin` ディレクトリを `PATH` 変数の先頭で指定する必要があります。インストール プロセスでは、このディレクトリを指す `JAVA_HOME` と関連する変数が設定されるので、必ず SDK を使用してください。

## .bin インストール ファイルによるサイレントモード インストールの開始

**注意：** サイレントモードインストール時に、インストール プログラムは `silent.xml` ファイル内のエントリを検証しません。`silent.xml` ファイルにエラーがあると、インストールに失敗します。

`.bin` で終わるインストール ファイルによるサイレントモードインストールプロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. インストール ファイルが含まれるディレクトリに移動し、`silent.xml` テンプレート ファイルの絶対パス名を指定することに注意して次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
chmod a+x filename
./filename -mode=silent -silent_xml=/path_to_silent.xml
```



*filename* は WebLogic Server インストール ファイル名、*path\_to\_silent.xml* は *silent.xml* テンプレート ファイルへの絶対パスです。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
serverXXX_solaris.bin -mode=silent -silent_xml=/home/silent.xml  
-log=/logs/wls_install.log
```

XXX は、インストールするソフトウェアのバージョンです。

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストール プログラムはログ ファイルを作成しません。

## .jar インストール ファイルによるサイレントモード インストールの開始

**注意：** サイレントモード インストール時に、インストール プログラムは *silent.xml* ファイル内のエントリを検証しません。*silent.xml* ファイルにエラーがあると、インストールに失敗します。

.jar で終わるインストール ファイルによるサイレントモード インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. 適切な SDK の bin ディレクトリを、対象システム上の PATH 変数の先頭で指定します。次に例を示します。

```
PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH  
export PATH
```

*JAVA\_HOME* は SDK ディレクトリへの絶対パスです。

4. インストール ファイルが含まれるディレクトリに移動して、表 4-2 に示すインストール手順を開始します。silent.xml テンプレート ファイルの絶対パス名を指定することに注意してください。

**表 4-2 サイレント モードで WebLogic Server のインストールを開始するコマンド**

状況	入力するコマンド
AIX 以外の UNIX プラットフォームにインストールする場合	<pre>java -jar filename.jar -mode=silent -silent_xml=/path_to_silent.xml</pre>
AIX プラットフォームにインストールする場合	<pre>java -classpath filename.jar com.bea.installer.BEAInstallController -mode=silent -silent_xml=/path_to_silent.xml</pre>

すべてのコマンドで、*filename.jar* は WebLogic Server のインストール ファイル名 (*pj\_server700\_generic.jar* など)、*path\_to\_silent.xml* は silent.xml テンプレート ファイルへの絶対パスです。

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
java -jar filename.jar -mode=silent -silent_xml=/home/silent.xml  
-log=/logs/wls_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストール プログラムはログ ファイルを作成しません。



# WebLogic Server ライセンス のインストールおよび更新

WebLogic Server を実行するには、有効な製品ライセンスが必要です。以下の節では、WebLogic Server ライセンスの取得方法、インストール方法、および更新方法について説明します。

- 5-1 ページの「WebLogic Server ライセンスについて」
- 5-2 ページの「license.bea ファイルの更新」
- 5-4 ページの「128 ビット暗号の有効化」
- 5-5 ページの「ライセンスアップグレードに際してのご注意」

## WebLogic Server ライセンスについて

WebLogic Server 7.0 は、license.bea という XML 形式のライセンスファイルを使用します。BEA ホームディレクトリに保存されるこのライセンスファイルは、対象システムでインストールされているすべての BEA WebLogic 製品で使用します。BEA ホームディレクトリの詳細については、1-15 ページの「BEA ホームディレクトリ」を参照してください。

すべての WebLogic Platform コンポーネントで使用できるライセンスの詳細については、e-docs Web サイトのライセンスのページを参照してください。

## 評価ライセンス

初めて BEA WebLogic 製品をダウンロードし、インストールする場合、インストールプログラムによって評価ライセンスがインストールされ、すぐに製品を使用開始できます。それ以後、配布キットの一部として license.bea ファイルを含む BEA 製品をダウンロードおよびインストールすると、インストールプログラムによって、新しい製品の評価ライセンスが license.bea ファイルに自動的に追加されますが、評価期間は延長されません。

評価期間を超えて WebLogic Server を使用するには、評価期間の延長について、または開発ライセンスか製品ライセンスの購入について販売担当者にお問い合わせください。

WebLogic Server のすべての評価用製品は、1 サーバマシン上での使用をライセンスの対象としており、そのサーバで最大 20 までの接続が可能です。

## 開発ライセンスと製品ライセンス

WebLogic Server の開発ライセンスまたは製品ライセンスを購入すると、WebLogic Server と共にインストールされている評価ライセンスと置き換えるためのライセンスを電子メールで受け取ります。WebLogic Server ソフトウェアをインストールして開発ライセンスまたは製品ライセンスを受け取ったら、そのライセンスファイルを使用して既存の license.bea ファイルを更新しなければなりません。5-2 ページの「license.bea ファイルの更新」を参照してください。

## license.bea ファイルの更新

以下のいずれかの条件に該当する場合には、license.bea ファイルを更新する必要があります。

- WebLogic Server の評価期間の延長を申し込み、その許可を受けた場合。
- BEA WebLogic ソフトウェアを追加購入した場合。
- 新製品を含む新しい配布キットを取得した場合。
- WebLogic Server の以前のリリースの無期限ライセンスファイルを持っており、BEA Web サイトから WebLogic Server 7.0 をダウンロードした後で WebLogic Server 7.0 の

## WebLogic Server ライセンスのインストールおよび更新

ライセンスにアップグレードする場合。ライセンスを **WebLogic Server 7.0** のライセンスに変換する必要があります。詳しくは、5-5 ページの「ライセンス アップグレードに際してのご注意」を参照してください。

- **WebLogic Server 6.0** より前のバージョン (5.1 以前) で使用されていた `WebLogicLicense.XML` ファイルまたは `WebLogicLicense.class` ファイルのいずれかを持っている場合。これらのライセンス ファイルを `license.bea` ファイルに変換する必要があります。手順については、『**BEA WebLogic Server 7.0** へのアップグレード』の「**WebLogic Server** ライセンス ファイルのアップグレード」を参照してください。

これらの場合のいずれかに該当するときには、ライセンス更新ファイルを電子メールの添付ファイルとして受け取ることになります。次の手順を実行して、`license.bea` ファイルを更新します。

**注意：** 128 ビット暗号を有効にするには、**WebLogic Server** ソフトウェアをインストールする前に、`license.bea` ファイルで 128 ビット暗号を指定する必要があります。詳細については、5-4 ページの「128 ビット暗号の有効化」を参照してください。

1. 電子メールで受け取ったライセンス更新ファイルを、`license.bea` 以外の名前で対象の **BEA** ホーム ディレクトリに保存します。たとえば、ファイルを `platform_license.bea` として保存します。このファイルは、手順 4 で `license_update_file` として使用します。

**警告：** 既存の `license.bea` ファイルを上書きしたり名前を変更したりしないでください。

2. コマンドプロンプト ウィンドウまたはコマンド シェルを開き、対象の **BEA** ホーム ディレクトリに移動します。
3. まだ含まれていない場合は、以下のコマンドを入力して、`PATH` 変数に **Java 2 SDK** を追加します。

– **Windows** システムの場合

```
set PATH=BEA_HOME\sdk\bin;%PATH%
```

– **UNIX** システムの場合

```
PATH=BEA_HOME/sdk/bin:$PATH  
export PATH
```

これらのコマンドの `sdk` は、このインストールで使用する **Java 2 SDK** のディレクトリ名です。たとえば、`jdk131_06` や、`jrocket70sp2_131` のようになります。

4. 以下のいずれかのコマンドを入力して、ライセンス更新ファイルを既存のライセンスに結合します。

- Windows システムの場合

```
UpdateLicense license_update_file
```

- UNIX システムの場合

```
sh UpdateLicense.sh license_update_file
```

`license_update_file` は、手順 1 でライセンス更新ファイルを保存したときの名前です。

5. 更新した `license.bea` ファイルのコピーを、**WebLogic Integration** およびアプリケーション インストール ディレクトリ以外の安全な場所に保存します。

ライセンス ファイルを他人が使用することはできませんが、このファイルを悪意あるまたは偶然による改ざんから保護された場所に保存する必要があります。

## 128 ビット暗号の有効化

**WebLogic Server** では、56 ビットおよび 128 ビットの 2 つのレベルのセキュア ソケット レイヤ (SSL) 暗号を利用できます。評価ライセンスでは、56 ビット暗号のみが有効ですが、開発ライセンスまたは製品ライセンスを購入すれば、56 ビットまたは 128 ビットの暗号が有効になります。

つまり、インストール プログラムは、**WebLogic Server** のインストールで 128 ビット暗号を有効にする前に、`license.bea` ファイルで 128 ビット暗号ライセンスを見つける必要があります。`license.bea` ファイルに **WebLogic Server** ライセンスがなかった場合や、`license.bea` ファイルに **WebLogic Server** に対する 56 ビット暗号ライセンスのみがあった場合、インストーラは、**WebLogic Server** のインストールに 56 ビット SSL プラグインを含めます。`license.bea` ファイルに **WebLogic Server** の 128 ビット暗号ライセンスがあった場合、インストーラは、**WebLogic Server** のインストールに 56 ビットおよび 128 ビットの両方の SSL プラグインを含めます。

**注意：** 米国の輸出管理法により、インストールの前に 128 ビットライセンスが使用可能になっている必要があります。米国の法律によって、**BEA** は、適切なライセンスを持たないマシンへの 128 ビット対応コードのインストールを許可されていません。128 ビット暗号ライセンスを持たずに **WebLogic Server** をすでにインストールしていて、128 ビット暗号を希望する場合は、ソフトウェアをアンインストールし、**BEA** ホーム ディレクトリに **WebLogic Server** の 128 ビット暗号ライセンスを格納してから、**WebLogic Server** を再インストールする必要があります。

## WebLogic Server ライセンスのインストールおよび更新

128 ビット暗号用の **WebLogic Server** のインストールで新しい **BEA** ホーム ディレクトリを作成する場合は、次の手順を実行します。

1. **WebLogic Server** の 128 ビット暗号ライセンスを取得します。  
詳細については、「**BEA Sales**」(<http://www.bea.com/contact>) までお問い合わせください。
2. **BEA** ホーム ディレクトリとして使用する新しいディレクトリを作成し、その新ディレクトリに 128 ビット暗号ライセンスを配置します。ライセンス ファイルの名前は `license.bea` にする必要があります。
3. **WebLogic Server** ソフトウェアをインストールします。  
手順については、以下のいずれかのインストール手順を参照してください。
  - 2-1 ページの「グラフィカルモードインストールによる **WebLogic Server** のインストール」
  - 3-1 ページの「コンソールモードインストールによる **WebLogic Server** のインストール」
  - 4-1 ページの「サイレントモードインストールによる **WebLogic Server** のインストール」

# ライセンス アップグレードに際してのご注意

ライセンス アップグレードは、お客様が製品を購入された販売元にご依頼ください。

お客様が「**日本 BEA システムズ販売パートナー**」から **WebLogic Server** をご購入された場合は、販売パートナーへお問い合わせ、ご依頼ください。弊社販売パートナーがライセンスのアップグレードを行い、新しいライセンスファイルをお届けいたします。

お客様が**日本 BEA システムズ (株)** から直接 **WebLogic Server** をご購入された場合は、**日本 BEA システムズ** の営業担当者へご依頼ください。日本 **BEA システムズ** よりアップグレードされたライセンスファイルをお届けいたします。



# WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチの インストール

Smart Update またはダウンロード可能なアップグレードインストーラのいずれかの方法を使用して、インストールされている **WebLogic Server 7.0** をアップグレードできます。以下の節では、ソフトウェアの両方のアップグレード方法について説明します。

- 6-1 ページの「WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチ」
- 6-4 ページの「WebLogic Server 7.0 GA の更新に関する重要な注意事項」
- 6-5 ページの「Smart Update を使用したサービス パックとローリング パッチのインストール」
- 6-9 ページの「ダウンロード可能なインストーラによるサービス パックとローリング パッチのインストール」
- 6-17 ページの「次のステップ」

## WebLogic Server のサービス パックと ローリング パッチ

BEA は WebLogic Server のサービス パックまたはローリング パッチを定期的にリリースします。サービス パックとは、既知の問題に対する解決策やその他の製品機能の拡張が含まれた既存リリースの更新版です。通常、サービス パックでは、インストールされている

WebLogic Server を置き換えるのではなく、変更と追加を行います。ローリング パッチとは、サービス パックによる更新がリリースされるまでの間に、バグの修正を提供するものです。

**注意：** サービス パックとローリング パッチによる更新は、登録済みのサポート カスタマに対して、パスワード保護された Web サイトからのみ提供されます。更新をダウンロードするには、BEA カスタマ サポートの Web サイトにログインする必要があります。eSupport アカウントを持っていない場合は、<http://support.bea.com> で登録できます。

サービス パックとローリング パッチは以下の方法を使用してインストールできます。

- BEA の Web サイトからソフトウェアの更新を検索、ダウンロード、およびインストールするための **Smart Update** を使用する。Smart Update では、対象の BEA ホームディレクトリに現在インストールされているソフトウェア コンポーネントの更新だけをダウンロードします。手順については、6-5 ページの「Smart Update を使用したサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。

**注意：** Smart Update によるアップグレードでは、Windows をお使いの場合には、その環境で Sun Java 2 SDK が使用されるように、Linux をお使いの場合は Sun Java 2 SDK が使用されるようになります。別の SDK を使用する場合は、適切な SDK がバンドルされている WebLogic Platform アップグレードインストーラを使用するか、SDK を変更してください。詳細については、次の URL にある『WebLogic Platform リリースノート』の「WebLogic Platform と共にバンドルされていない JVM を使用する」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/relnotes/relnotes.html#migration>

- BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) から、パッケージアップグレードインストーラをダウンロードする。アップグレードインストールプログラムでは、インストールのグラフィカル モードとコンソール モードがサポートされています。手順については、6-9 ページの「ダウンロード可能なインストーラによるサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。

Smart Update でもパッケージアップグレードインストーラでも、現在のインストールの環境状態やアップグレード時に追加されたファイルに関する情報が含まれたバックアップファイルが作成されます。このバックアップ ファイルは、インストール中にエラーが発生した場合や、アップグレードインストールをアンインストールしたり、元の状態に戻したりする場合に、システム状態を復元するために使用されます。WebLogic Platform の通常

のアップグレードインストール、つまり、すべての **WebLogic Platform** コンポーネント製品がインストールされている場合のアップグレードインストールでは、バックアップ ファイルに最低でも **250MB** のディスク スペースが必要になります。

## パッケージアップグレード インストーラに関する重要な注意事項

以下に、パッケージアップグレード インストーラに関する重要な注意事項を示します。

- アップグレード インストーラでは、**WebLogic Platform** インストールプログラムによってインストールされたファイルのみが更新される。
- パッケージアップグレード インストーラは、現在インストールされている **JVM** を、パッケージアップグレード インストーラにバンドルされている **JVM** で置き換える。たとえば、**Sun JVM** が使用されている状態で、**WebLogic JRockit JVM** にバンドルされたパッケージアップグレード インストーラを使用してアップグレードすると、**WebLogic JRockit JVM** が使用されるようになります。
- **WebLogic Platform** にバンドルされていた **JVM** を使用して、新しい **JVM** の場所を参照するようにスクリプトを編集してある場合、スクリプトを編集して元の **JVM** 値を復元しない限り、アップグレード インストーラは編集されたすべてのスクリプトを適切に更新しない。

将来の手作業による編集を避けるために、非バンドル **JVM** は、バンドルされている **JVM** のディレクトリ構造に合わせて名前を変更することをお勧めします。詳細については、次の URL にある『**WebLogic Platform** リリース ノート』の「**WebLogic Platform** と共にバンドルされていない **JVM** を使用する」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs81/relnotes/relnotes.html#migration>

- アップグレード インストーラは、ユーザが作成したファイルや、コンフィグレーション ウィザードを使用して作成したディレクトリ (デフォルトでは `user_projects`) を更新しない。
- 一時的なパッチはサービス パック間で互換性がない。一時的なパッチをインストールして、パッチを参照するようクラスパスを更新した場合は、クラスパスからパッチへの参照を削除しなければならないこともあります。

## クラスタ環境でノード マネージャを使用する場合の重要な注意事項

クラスタ環境のサーバをノード マネージャで管理している場合は、アップグレードの前に、ノード マネージャが動作しているすべてのマシン上で以下のディレクトリとファイルをバックアップしてください。

**Windows:**

```
WL_HOME\common\nodemanager  
WL_HOME\server\bin\startNodeManager.cmd
```

**UNIX:**

```
WL_HOME/common/nodemanager  
WL_HOME/server/bin/startNodeManager.sh
```

上記のパス名で、*WL\_HOME* は WebLogic Platform のルートディレクトリです (c:\bea\weblogic700 など)。

アップグレードが完了したら、上記のファイルを復元してください。

ノード マネージャの詳細については、『WebLogic Server ドメイン管理』の「ノード マネージャによるサーバの可用性の管理」を参照してください。

[http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/admin\\_domain/nodemgr.html](http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/admin_domain/nodemgr.html)

## WebLogic Server 7.0 GA の更新に関する重要な注意事項

スタンドアロンの WebLogic Server 7.0 GA リリース (バージョン 7.0.0.0) をインストール済みで、WebLogic Platform 7.0 で入手できるバージョン (WebLogic Server バージョン 7.0.0.1) にアップグレードしていない場合は、Smart Update を使用してサービス パックをインストールすることはできません。代わりに、BEA Customer Support Web サイト (<http://support.bea.com>) からダウンロードできるパッケージアップグレードインストーラを使用できます。手順については、6-9 ページの「ダウンロード可能なインストーラによるサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。サービス パックのインストール後は、Smart Update を使用して以降のサービス パックをインストールできます。

インストールされている **WebLogic Server** のバージョンを確認するには、`BEA_HOME\logs\log.txt` (UNIX の場合は `BEA_HOME/logs/log.txt`) をテキスト エディタで開き、ログ ファイルの最後のエントリを参照します。ログ ファイルの各行は、現在の **BEA** ホームのインストール イベント (インストールまたはアンインストール) を表しています。ログ ファイルのエントリで、インストール済みのバージョンが **WebLogic Platform 7.0 SP0** 以前と示されている場合、**Smart Update** を使用することはできません。ログ ファイルのエントリで、インストール済みのバージョンが **WebLogic Platform 7.0.0.1** 以降と示されている場合は、**Smart Update** を使用してサービス パック 1 (7.0.1.0) およびそれ以降のサービス パックをインストールできます。

**注意：** **WebLogic Server** と **WebLogic Platform** では、同じインストール フレームワークを使用します。従って、インストール ログのエントリでは、「**WebLogic Platform**」という語を使用して **WebLogic Server** または **WebLogic Platform** の両方のインストールを表します。

# Smart Update を使用したサービス パックとローリング パッチのインストール

**注意：** **Smart Update** によるアップグレードでは、**Windows** をお使いの場合には、その環境で **Sun Java 2 SDK** が使用されるように、**Linux** をお使いの場合は **Sun Java 2 SDK** が使用されるようになります。別の **SDK** を使用する場合は、適切な **SDK** がバンドルされている **WebLogic Platform** アップグレードインストーラを使用するか、**SDK** を変更してください。詳細については、次の URL にある『**WebLogic Platform** リリース ノート』の「**WebLogic Platform** と共にバンドルされていない **JVM** を使用する」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/relnotes/relnotes.html#migration>

**Smart Update** 機能を使用すると、利用可能なソフトウェアの更新がないか定期的にチェックすることができます。**Smart Update** を開始すると、インストールされている製品のバージョン (現在の **BEA** ホーム ディレクトリと関連付けられている) がチェックされ、**BEA** の **Web** サイトへの接続が確立されてサービス パックの有無が確認できます。[**Smart Update**] ウィンドウには以下の 3 つのパネルがあります。

- [インストール済みの製品]—[Smart Update] ウィンドウの左ペイン。対象の BEA ホーム ディレクトリにインストールされている製品の製品情報とリリース情報を表示するツリーがあります。
- [オプションのアップグレード]—右上のペイン。インストール済みの製品で利用できるサービス パックとローリング パッチがある場合は一覧表示されます。
- [オプションのダウングレード]—右下のペイン。現在のインストールから戻すことのできる製品のバージョンがある場合は一覧表示されます。Smart Update によるメンテナンス アップグレードのアンインストールの詳細については、8-11 ページの「Smart Update によるサービス パックとローリング パッチのアンインストール」を参照してください。

**注意：** Smart Update では、現在の BEA ホーム ディレクトリと関連付けられた製品の有無だけをチェックします。システム上に複数の BEA ホーム ディレクトリがある場合は、各ディレクトリごとに Smart Update を実行し、利用可能なサービス パックをインストールする必要があります。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-15 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照してください。

Smart Update を使用してサービス パックまたはローリング パッチをインストールするには、次の手順に従います。

1. 実行中のサーバをすべて停止します。サービス パックまたはローリング パッチの「ホットインストール」はサポートされていません。
2. 表 6-1 の説明のとおり Smart Update を起動します。

表 6-1 Smart Update の起動

Smart Update を起動するプラットフォーム	実行する手順
Windows	<p>[ スタート ] メニューから起動する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [ スタート   プログラム   BEA WebLogic Platform 7.0   Smart Update ] を選択する。</li> </ul> <p>MS-DOS コマンドプロンプト ウィンドウから起動する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>BEA_HOME</i>/utils ディレクトリに移動する。 <i>BEA_HOME</i> は、インストールされている WebLogic Server の BEA ホーム ディレクトリ。</li> <li>2. プロンプトで次のコマンドを入力する。 bsu.cmd</li> </ol> <p>[BEA Smart Update] ウィンドウが表示される。</p>
UNIX	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. UNIX システムにログインする。</li> <li>2. コマンド シェルを開き、<i>BEA_HOME</i>/utils ディレクトリに移動する。</li> <li>3. 次のコマンドを入力する。 bsu.sh</li> </ol> <p>[BEA Smart Update] ウィンドウが表示される。</p>
注意: UNIX システム上で Smart Update を実行するには、コンソールが Java ベースの GUI をサポートしている必要がある。	

3. [Smart Update] ウィンドウの左ペインで、更新する製品のリリースを選択します。  
利用可能なサービス パックまたはローリング パッチがある場合は、ウィンドウの [ オプションのアップグレード ] セクションに表示されます。
4. [ オプションのアップグレード ] ペインで、インストールするサービス パックまたはローリング パッチを選択して、[OK] をクリックします。  
[Enter BEA eSupport Identification] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 有効なユーザ名とパスワードを選択して、[Verify] をクリックします。

**注意：** Smart Update を使用してサービス パックまたはローリング パッチをインストールするには、有効な eSupport アカウントを持っている必要があります。アカウントは <http://support.bea.com> で登録できます。

BEA インストール プログラムの [ ようこそ ] ウィンドウが表示されます。

6. [Next] をクリックしてインストールを続行します。[Exit] をクリックすると、インストールをいつでもキャンセルできます。

[Downloading Archive Information] ウィンドウが短く表示され、続いて [ダウンロード オプションの指定] ウィンドウが表示されます。

7. ソフトウェアのダウンロードに関する設定を以下のように指定します。
  - ソフトウェア アップグレードのソース ファイルをダウンロードするストレージ ディレクトリを指定します。
  - ダウンロードしたファイルをインストールの完了後に削除するかどうかを、該当するチェック ボックスを選択して指定します。このチェック ボックスを選択しない場合、ダウンロード済みファイルは、指定するストレージ ディレクトリに保存されます。
  - ダウンロードに HTTP プロキシ サーバを使用するかどうかを、該当するチェック ボックスを選択して指定します。HTTP プロキシ サーバを使用するには、以下の情報を指定する必要があります。

[ ホスト ]— プロキシ サーバの名前と IP アドレスを入力します。

[ ポート ]— プロキシ サーバのポート番号を入力します。

8. [Next] をクリックします。

[Archive Download] ウィンドウが表示されます。

9. ダウンロードが完了したら自動的にインストールを開始するかどうかを、該当するチェック ボックスを選択または選択解除して指定します。このチェックボックスはデフォルトで選択されています。チェック ボックスをオフにした場合、ダウンロードが完了したときにインストールを開始するには、[Next] をクリックする必要があります。

ダウンロードが完了すると、[アーカイブ整合性チェック] ウィンドウが表示され、ダウンロードしたアップグレード アーカイブ ファイルの整合性が検証されます。

アーカイブの検証が完了すると、[製品ディレクトリを確認] ウィンドウが表示され、BEA ホーム ディレクトリへのパスと、WebLogic Server ソフトウェアが更新される製品ディレクトリへのパスが示されます。

10. [Next] をクリックして、アップグレードのインストールに進みます。



ステータス ウィンドウに、インストールの進行状況が表示されます。

11. [インストール完了] ウィンドウで [Done] をクリックします。

[Smart Update] ウィンドウが表示されます。[インストール済みの製品] ペインに、アップグレードされたリリース レベルが表示されます。

# ダウンロード可能なインストーラによる サービス パックとローリング パッチのイン ストール

WebLogic Server のサービス パックまたはローリング パッチが利用できる場合、BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) からそのリリースをダウンロードできます。

**注意：** サービス パックとローリング パッチによる更新は、登録済みのサポート カスタマ だけが利用できます。ダウンロード サイトはパスワードで保護されています。更新をダウンロードするには、eSupport のユーザ名とパスワードを使用してログインする必要があります。eSupport アカウントを持っていない場合は、BEA カスタマ サポートの Web サイトで登録できます。

それぞれのリリースには、インストール用の WebLogic Server (WebLogic Workshop を含む) の更新ファイルとサーバ サンプルを含む専用のインストール プログラムが用意されています。ただし、アップグレード インストール プログラムは、システムにすでにインストールされているコンポーネントだけをアップグレードします。たとえば、サーバ サンプル コンポーネントを除いて WebLogic Server コンポーネントをインストールしている場合、アップグレード インストーラはサーバ ソフトウェアをアップグレードしますが、サーバ サンプルはインストールしません。アップグレード インストーラを使用して追加のコンポーネントをインストールすることはできません。追加のコンポーネントをインストールするには、1-4 ページの「WebLogic Server の配布方法」で説明するように、ネット インストーラまたはパッケージ インストーラを使用する必要があります。

アップグレード インストール プログラムは、UNIX および Windows プラットフォームの両方で、以下のモードで実行できます。

- グラフィカル モード。手順については、6-10 ページの「グラフィカル モードを使用したサービス パック アップグレードのインストール」を参照してください。
- コンソール モード。手順については、6-13 ページの「コンソール モードを使用したサービス パック アップグレードのインストール」を参照してください。

**注意：** グラフィカルモードインストールを開始するには、コンソールが Java ベースの GUI をサポートしている必要があります。インストールプログラムによりシステムが Java ベース GUI をサポートできないと判定された場合、自動的にコンソールモードインストールが開始されます。

アップグレード インストーラはサイレントモードインストールをサポートしていません。

WebLogic Server インストール プログラムの実行には、Java 実行時環境 (JRE) が必要になります。JRE を含む Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Windows インストール プログラムおよび一部の UNIX インストール プログラム (ファイル名が .bin で終わるプログラム) に付属しています。それ以外の UNIX プラットフォームに対しては、WebLogic Server インストール プログラムに Java 2 SDK が含まれません。これらのインストール プログラムのファイル名は .jar で終わります。.jar インストール プログラムを実行するには、Java 2 SDK の適切なバージョンをシステムにインストールした上で、Java 2 SDK の bin ディレクトリを PATH 変数の先頭で指定する必要があります。インストール プロセスでは、このディレクトリを指す JAVA\_HOME と関連する変数が設定されるので、必ず SDK を使用してください。

## グラフィカル モードを使用したサービス パック アップグレードのインストール

サービス パックまたはローリング パッチを、UNIX および Windows システム上にグラフィカル モードでダウンロードおよびインストールするには、次の手順に従います。

1. BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) から、プラットフォーム固有のサービス パック アップグレード インストーラをダウンロードします。

**注意：** サービス パックまたはローリング パッチをダウンロードするには、eSupport のユーザ名とパスワードを使用してログインする必要があります。eSupport アカウントを持っていない場合は、BEA カスタマ サポートの Web サイトで登録できます。

2. 実行中のサーバをすべて停止します。サービス パックまたはローリング パッチの「ホット インストール」はサポートされていません。
3. 表 6-2 の説明のとおりアップグレード インストーラを起動します。

**表 6-2 グラフィカル モードでのアップグレード インストーラの起動**

アップグレード インストーラを起動するプラットフォーム	実行する手順
Windows	<ol style="list-style-type: none"><li>1. インストール プログラムをダウンロードしたディレクトリに移動して、<i>filename.exe</i> をダブルクリックする。<i>filename.exe</i> は、BEA カスタマ サポートの Web サイトからダウンロードしたインストール ファイルの名前 (<i>serverXXX_upgrade_win32.exe</i> など)。インストール プログラムがアップグレードのインストールを開始する。</li><li>2. この表の下の手順 4 に進む。</li></ol>

表 6-2 グラフィカル モードでのアップグレード インストーラの起動

アップグレード インストーラを起動するプラットフォーム	実行する手順
UNIX	<p>ファイル名が <b>.bin</b> で終わるインストーラの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始する。  <pre>chmod a+x filename.bin</pre> <pre>./filename.bin</pre> <p><i>filename.bin</i> は、BEA カスタマ サポートの Web サイトからダウンロードしたアップグレード インストール プログラムの名前 (serverXXX_upgrade_solaris.bin など)。                      インストール プログラムがアップグレードのインストールを開始する。</p> </li> <li>2. この表の下の手順 4 に進む。</li> </ol>
	<p>ファイル名が <b>.jar</b> で終わるインストーラの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な SDK の bin ディレクトリを、対象システム上の PATH 変数の先頭で指定する。次に例を示す。  <pre>PATH=JAVA_HOME/bin:\$PATH</pre> <pre>export PATH</pre> <p>JAVA_HOME は Java 2 SDK ディレクトリへの絶対パス。</p> </li> <li>2. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール プログラムを呼び出す。  <pre>java -jar filename.jar</pre> <p><i>filename.jar</i> は、BEA カスタマ サポートの Web サイトからダウンロードしたアップグレード インストール プログラムの名前 (pj_serverXXX_upgrade_generic.jar など)。                      インストール プログラムがアップグレードのインストールを開始する。</p> </li> <li>3. この表の下の手順 4 に進む。</li> </ol>

4. [ ようこそ ] ウィンドウのテキストを確認してから [Next] をクリックします。  
 [BEA ホーム ディレクトリの選択] ウィンドウが表示されます。  
**注意:** [Exit] をクリックすると、インストールをいつでもキャンセルできます。

5. アップグレードするリリースの **WebLogic Server** を含む **BEA** ホーム ディレクトリを選択して、**[Next]** をクリックします。

[製品ディレクトリを確認] ウィンドウが表示され、**BEA** ホーム ディレクトリへのパスと、更新される **WebLogic Server** ソフトウェアのディレクトリへのパスが示されます。

6. **[Next]** をクリックします。

アップグレードのインストール中に、進行状況を表すウィンドウが表示されます。インストールが終了すると、**[インストール完了]** ウィンドウが表示されます。

7. **[インストール完了]** ウィンドウで **[Done]** をクリックして、インストールプログラムを終了します。

## コンソール モードを使用したサービス パック アップグレードのインストール

サービス パックまたはローリング パッチを、UNIX および Windows システム上にコンソール モードで (コマンドラインから) ダウンロードおよびインストールするには、次の手順に従います。

**注意：** この節のサンプルのコンソール テキストとディレクトリ パス名では、UNIX のパス名の規則 (フォワード スラッシュ) を使用しています (/home1/bea/weblogic700 など)。Windows システムでパス名を入力する場合は、Windows のパス名の規則 (バック スラッシュ) を使用してください (c:\bea\weblogic700 など)。

1. **BEA** カスタマ サポートの **Web** サイト (<http://support.bea.com>) から、プラットフォーム固有のサービス パック アップグレード インストーラをダウンロードします。

**注意：** サービス パックまたはローリング パッチをダウンロードするには、**eSupport** のユーザ名とパスワードを使用してログインする必要があります。**eSupport** アカウントを持っていない場合は、**BEA** カスタマ サポートの **Web** サイトで登録できます。

2. 実行中のサーバをすべて停止します。サービス パックまたはローリング パッチの「ホットインストール」はサポートされていません。
3. 表 6-3 の説明のとおりアップグレード インストーラを起動します。

表 6-3 コンソール モードでのアップグレード インストーラの起動

アップグレード インストーラを起動するプラットフォーム	実行する手順
Windows	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. MS-DOS コマンドプロンプト ウィンドウを開く。</li> <li>2. インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始する。  <code>filename.exe -mode=console</code>  <code>filename.exe</code> は、BEA カスタマ サポートの Web サイトからダウンロードしたインストールファイルの名前 (serverXXX_upgrade_win32.exe など)。                      アップグレード インストーラが WebLogic Server メンテナンス リリースのインストールを開始する。</li> <li>3. この表の下の手順 4 に進む。</li> </ol>

表 6-3 コンソール モードでのアップグレード インストーラの起動

アップグレードイン ストーラを起動するブ ラットフォーム	実行する手順
UNIX	<p>ファイル名が <b>.bin</b> で終わるインストーラの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始する。  <pre>chmod a+x filename.bin ./filename.bin -mode=console</pre> <p><i>filename.bin</i> は、BEA カスタマ サポートの Web サイトからダウンロードしたアップグレード インストール プログラムの名前 (<i>serverXXX_upgrade_solaris.bin</i> など)。                      インストール プログラムがアップグレードのインストールを開始する。</p> </li> <li>2. この表の下の手順 4 に進む。</li> </ol>
	<p>ファイル名が <b>.jar</b> で終わるインストーラの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な SDK の bin ディレクトリを、対象システム上の PATH 変数の先頭で指定する。次に例を示す。  <pre>PATH=JAVA_HOME/bin:\$PATH export PATH</pre> <p><i>JAVA_HOME</i> は Java 2 SDK ディレクトリへの絶対パス。</p> </li> <li>2. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール プログラムを呼び出す。  <pre>java -jar filename.jar -mode=console</pre> <p><i>filename.jar</i> は、BEA カスタマ サポートの Web サイトからダウンロードしたアップグレード インストール プログラムの名前 (<i>pj_serverXXX_upgrade_generic.jar</i> など)。                      インストール プログラムがアップグレードのインストールを開始する。</p> </li> <li>3. この表の下の手順 4 に進む。</li> </ol>

**注意：** インストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。

次に例を示します。

## WebLogic Server のサービス パックとローリング パッチのインストール

```
serverXXX_upgrade_solaris.bin -mode=console  
-log=/home/bea/logs/server_install.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストール プログラムはログ ファイルを作成しません。

4. [ ようこそ ] プロンプトで、next と入力するか、[Enter] を押して、インストール プロセスを続行します。

[BEA ホーム ディレクトリの選択] プロンプトが表示されます。

5. 更新する **WebLogic Server** インストールに関連付けられている **BEA** ホーム ディレクトリを選択します。現在のマシンに **WebLogic Server** が 1 つだけインストールされている場合は、**BEA** ホーム ディレクトリは 1 つだけ表示されます。**BEA** ホーム ディレクトリの詳細については、1-15 ページの「**BEA** ホーム ディレクトリ」を参照してください。

インストール プログラムでは以下のプロンプトが表示されます。

BEA ホーム ディレクトリの選択：

```
->1| /nfs/home/user1/bea1  
   2| /nfs/home/user1/bea2
```

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

[Enter] を押して、選択されている **BEA** ホーム ディレクトリを使用するか、選択する **BEA** ホーム ディレクトリの番号を入力します。

選択されている **BEA** ホーム ディレクトリを受け入れる場合でも、別の **BEA** ホーム ディレクトリを選択する場合でも、以下の例のように選択内容の確認を求められます。

BEA ホーム ディレクトリの選択：

```
->1- はい、この BEA ホーム ディレクトリを使用します [/nfs/home/user1/bea1]  
   2- いいえ、BEA ホーム ディレクトリの選択に戻ります
```

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

選択内容を受け入れるには、1 を入力するか、[Enter] を押します。受け入れない場合は、2 を入力して [BEA ホーム ディレクトリの選択] パネルに戻り、入力を修正できます。

[製品ディレクトリを確認] パネルが表示されます。



6. [製品ディレクトリを確認] パネルでは、**WebLogic Server** ソフトウェアが更新されるフォルダが表示されます。次に例を示します。

製品ディレクトリを確認：

```
製品のインストール ディレクトリ : [/nfs/home/user1/bea1/weblogic700]
```

```
//nfs/home/user1/bea1/weblogic700 内のファイルが 7.0.2.0 メンテナンス レベルにアップグレードされます。
```

```
Enter [Exit][Previous][Next]>
```

[Enter] を押すか、または next を入力して続行します。

7. 製品ディレクトリを確認すると、インストールプログラムでは、それまでのインストールから特定のファイルのバックアップ コピーを作成し、次にそのファイルの新しいバージョンをインストールします。

インストールが完了すると、以下のプロンプトが表示されます。

```
[インストール完了]
```

```
WebLogic Platform 7.0.2.0 の
```

```
/nfs/home/user1/bea1/weblogic700 へのインストールが正常に完了しました。
```

続行するには、どれかキーを押してください。または [Exit]>。

8. いずれかのキーを押して、インストールプログラムを終了します。

## 次のステップ

インストールされている **WebLogic Server 7.0** をアップグレードしたら、場合に応じてユーザ ドメインをアップグレードする必要があります。コンフィグレーション ウィザードと **WebLogic Platform 7.0 GA** ソフトウェアまたは現在のサービス パックより古いサービス パックで入手できるテンプレートを使用してユーザ ドメインを作成した場合は、現在のサービス パックで使用するためにドメインを更新しなければならないことがあります。アップグレードの手順については、『**BEA WebLogic Platform リリースノート**』の「コンフィグレーション ウィザードを使用して作成されたドメインを移行する」を参照してください。



# インストール後の作業の実行

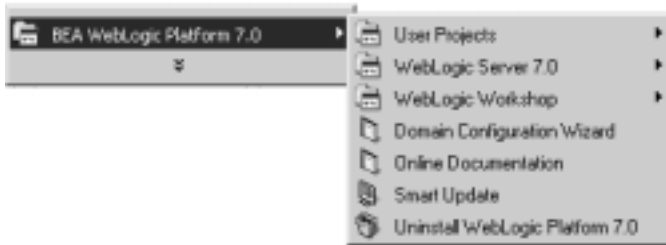
以下の節では、WebLogic Server のインストール後に実行する作業について説明します。

- 7-1 ページの「WebLogic Server の Windows ショートカットについて」
- 7-4 ページの「WebLogic Server のディレクトリ構造について」
- 7-6 ページの「サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバの起動」
- 7-10 ページの「Administration Console の起動」
- 7-11 ページの「使用している SDK のバージョンの判別」

## WebLogic Server の Windows ショートカットについて

Windows システムに WebLogic Server をインストールすると、インストールプログラムによりショートカットファイルが自動的に [スタート] メニューに作成されます。[スタート] メニューのオプションは、インストール時に選択するオプションによって異なります。WebLogic Platform 7.0 フォルダ ([スタート | プログラム | WebLogic Platform 7.0]) には、図 7-1 で示すようなショートカットファイルが含まれます。

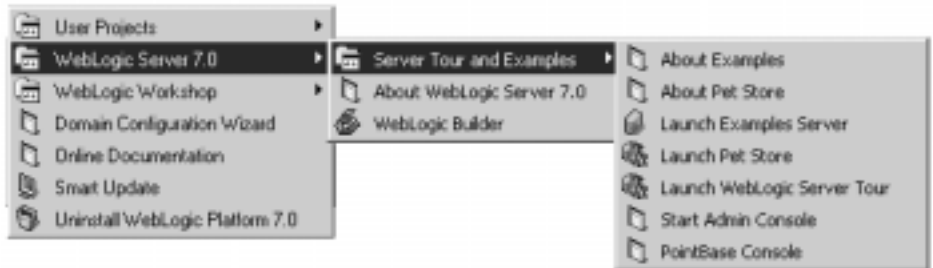
図 7-1 BEA WebLogic Platform [ スタート ] メニュー



- [User Projects]— コンフィグレーション ウィザードを使って作成し、[ スタート ] メニュー オプションを作成するように選択した各ドメインのフォルダが含まれます。これらのフォルダのショートカットを使用して各ドメインのサーバを起動します。
- [WebLogic Server 7.0]— サンプル サーバおよび Pet Store サーバ、WebLogic Server に関する初歩的なドキュメントなどを起動するためのショートカット。図 7-2 を参照してください。
- [WebLogic Workshop]—WebLogic Workshop とサンプルを起動するためのショートカット。WebLogic Workshop の使い方については、WebLogic Workshop のドキュメントを参照してください。
- [Domain Configuration Wizard]—WebLogic ドメインとサーバを作成し、コンフィグレーションするためのコンフィグレーション ウィザードを起動します。『WebLogic Server ドメイン管理』の「コンフィグレーション ウィザードを使用した新しいドメインの作成」を参照してください。
- [Online Documentation]—WebLogic Platform のオンライン ドキュメント。WebLogic Server は WebLogic Platform のコンポーネントです。
- [Smart Update]— インストール済み BEA 製品をチェックし、入手可能なソフトウェアの更新をインストールするための Smart Update を実行します。6-1 ページの「WebLogic Server のサービスパックとローリング パッチ」を参照してください。
- [Uninstall WebLogic Platform 7.0]—WebLogic Platform の個別コンポーネントまたは WebLogic Platform のすべてをアンインストールするためのアンインストールプログラムを起動します。

図 7-2 に、WebLogic Server 7.0 メニューのオプションを示します ([ スタート | プログラム | WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Server 7.0])。

図 7-2 WebLogic Server 7.0 [ スタート ] メニュー



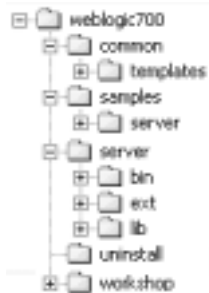
- [Server Tour and Examples]—以下のショートカットが含まれます。
  - [About Examples]—「WebLogic Server サンプル コード ガイド」を Web ブラウザで開きます。
  - [About Pet Store]—Pet Store サンプル アプリケーションを実行するための説明を Web ブラウザで開きます。
  - [Launch Examples Server]— サンプル サーバを起動し、WebLogic Server にインストールされたサンプル アプリケーションを実行します。
  - [Launch Pet Store]—Pet Store サーバを起動して Pet Store サンプル アプリケーションを実行します。
  - [Launch WebLogic Server Tour]—WebLogic Server ツアーを Pet Store サーバで起動します。WebLogic Server ツアーは WebLogic Server の機能の理解を早める手助けをします。
  - [Start Admin Console]— サンプル サーバまたは Pet Store サーバの WebLogic Server Administration Console を Web ブラウザで開きます。
  - [PointBase Console]—PointBase Administration Console を開きます。サンプル ドメインおよび Pet Store ドメインでは、PointBase リレーショナル データベース管理システムの評価版が使用されます。
- [About WebLogic Server 7.0]—「About WebLogic Server 7.0」を Web ブラウザで開きます。このドキュメントには WebLogic Server に関する重要な情報が含まれています。
- [WebLogic Builder] —J2EE アプリケーション モジュールをアセンブルし、そのデプロイメント記述子を作成、編集し WebLogic Server にデプロイするためのグラフィカル ツールである WebLogic Builder を起動します。WebLogic Builder の詳細については、『WebLogic Builder Online Help』を参照してください。

# WebLogic Server のディレクトリ構造について

WebLogic Server 7.0 には、WebLogic Server の新しいディレクトリ構造、および WebLogic Server 上で動作するアプリケーション用の新しい格納場所が用意されています。ディレクトリ構造が新しくなったことで、柔軟性が高まり、アプリケーション開発のベストプラクティスが促進されます。

## インストールされるファイルとディレクトリ

WebLogic Server をインストールするときに、BEA ホーム ディレクトリと製品インストールディレクトリを選択するか、作成する必要があります。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-15 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照してください。標準インストールの場合、インストーラにより WebLogic Platform ソフトウェア用に次のディレクトリ構造が作成されますが、このディレクトリ構造は BEA ホーム ディレクトリの内部または外部のどちらに置くこともできます。



各ディレクトリの内容について以下の表で説明します。

ディレクトリ	内容
weblogic700	WebLogic Platform のすべてのコンポーネントが共有するファイル用のフォルダおよびインストールされた WebLogic Platform の各コンポーネント用の個別フォルダ。
common	コンフィグレーション ウィザードがドメインを作成するときに使用するテンプレートである jar ファイルなど、WebLogic Platform コンポーネントによって共有されるファイル。コンフィグレーション ウィザードによってこのフォルダの内容が読み込まれ、ディレクトリにある jar ファイルによるテンプレート オプションが表示される。コンフィグレーション ウィザードの使い方の詳細については、2-12 ページの「コンフィグレーション ウィザードによるドメイン、サーバ、およびクラスタのコンフィグレーション」を参照。
samples	WebLogic 製品を使ってアプリケーションを開発する方法をわかりやすく示すためのサンプル コード、リソース、およびコンフィグレーション済みドメイン。サンプルはシステムにインストールされたコンポーネント別に構成される。samples フォルダ内に各 WebLogic Platform コンポーネント専用のフォルダがある。samples フォルダ内の server フォルダには、ドメイン examples および petstore、サンプル アプリケーション examples と petstore のソースコード、評価ソフトウェア PointBase が含まれる。
server	WebLogic Server のプログラム ファイル。
uninstall	WebLogic Server ソフトウェアをアンインストールするために必要なコード。
workshop	WebLogic Workshop アプリケーション ファイル、ドキュメント ファイル、および WebLogic Workshop サンプル ドメインをサポートするためのファイル。

## ドメイン ディレクトリの新しい構造

以前のリリースの **WebLogic Server** では、ドメインはインストールされた **WebLogic Server** のディレクトリ構造内に各ドメインのアプリケーション コードと共に作成されました。**WebLogic Server 7.0** では、任意の場所の独自のディレクトリ構造に、ドメインを作成することをお勧めします。ドメイン内のスクリプトとアプリケーションは、**WebLogic Server** インストールと **JDK** にアクセスできなければなりません。

この新しいディレクトリ構造によって、アプリケーション コードの格納時およびサーバ システムのコンフィグレーション時の柔軟性が高まります。また、アプリケーション開発のベスト プラクティスも促進されます。つまり、アプリケーション コードはアプリケーション サーバ コードと一緒に格納しないでください。

ドメインとドメイン ディレクトリの詳細については、『**WebLogic Server ドメイン管理**』の「**WebLogic Server ドメインの概要**」を参照してください。

## サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバの起動

**WebLogic Server** と共に任意でインストールされるサンプルは、**WebLogic Server** と **WebLogic Workshop** を使用したさまざまな機能を例示します。**WebLogic Server** サンプルのソース ファイルと **Javadoc** ファイルは、`SAMPLES_HOME\server\src\examples` および `SAMPLES_HOME\server\src\petstore` にインストールされます。サンプル サーバおよびサンプル アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、`SAMPLES_HOME\server\src\examples\examples.html` ファイルを参照してください。**WebLogic Workshop** の **Samples** プロジェクト ソース ファイルは `SAMPLES_HOME\workshop\applications\samples` にインストールされます。**WebLogic Workshop** の **Samples** プロジェクトの詳細については、**WebLogic Workshop** のドキュメントを参照してください。

以下の節では、**Windows** または **UNIX** システム上でサンプル サーバ、**Pet Store** サーバ、および **cgServer** (**WebLogic Workshop** の **Samples** プロジェクト用) を起動する手順について説明します。

- 7-7 ページの「**Windows** システム上でのサンプル サーバの起動」



## サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバの起動

- 7-8 ページの「UNIX システム上でのサンプル サーバの起動」
- 7-8 ページの「Windows システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動」
- 7-9 ページの「UNIX システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動」
- 7-10 ページの「WebLogic Workshop サンプル サーバの起動」

**注意：** サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバは、いずれもポート 7001 を非セキュア リスン ポートとして、ポート 7002 をセキュア リスン ポートとして使用するようコンフィグレーションされているため、これらのサーバをインストール状態のままでは同時に起動できません。同時に実行するには、Administration Console オンライン ヘルプの「リスン ポートの設定」で説明されているように、リスン ポートを再コンフィグレーションする必要があります。

## Windows システム上でのサンプル サーバの起動

Windows システム上でサンプル サーバを起動するには、次の手順に従います。

- [ スタート | プログラム | WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Server 7.0 | Server Tour and Examples | Launch Examples Server ] を選択します。

サーバが起動した後、Web ブラウザが自動的に開きます。[Administration Console に移動] テキストリンクをクリックするか、ブラウザ ウィンドウで

`http://hostname:7001/console` の URL を入力し、Administration Console を起動します。

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の起動と停止」を参照してください。

**注意：** サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバは、いずれもポート 7001 を非セキュア リスン ポートとして、ポート 7002 をセキュア リスン ポートとして使用するようコンフィグレーションされているため、これらのサーバをインストール状態のままでは同時に起動できません。同時に実行するには、Administration Console オンライン ヘルプの「リスン ポートの設定」で説明されているように、リスン ポートを再コンフィグレーションする必要があります。

## UNIX システム上でのサンプル サーバの起動

UNIX システム上でサンプル サーバを起動するには、次の手順に従います。

1. コマンド シェルで、次のディレクトリに移動します。

```
SAMPLES_HOME/server/config/examples
```

ここで、*SAMPLES\_HOME* は、*bea/weblogic700/samples* など、WebLogic Platform の全サンプルの場所を表します。

2. 次のコマンドを入力します。

```
startExamplesServer.sh
```

*startExamplesServer.sh* スクリプトにより、サンプル サーバの正しい *CLASSPATH* 変数が設定され、コンフィグレーションが

*SAMPLES\_HOME/server/config/examples/config.xml* ファイルにロードされます。

サーバの起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の起動と停止」を参照してください。

**注意：** サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバは、いずれもポート 7001 を非セキュア リスン ポートとして、ポート 7002 をセキュア リスン ポートとして使用するようコンフィグレーションされているため、これらのサーバをインストール状態のままでは同時に起動できません。同時に実行するには、Administration Console オンライン ヘルプの「リスン ポートの設定」で説明されているように、リスン ポートを再コンフィグレーションする必要があります。

## Windows システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動

WebLogic Server Pet Store Demo で提供される Pet Store サーバは Pet Store アプリケーションを実行して、J2EE プラットフォームおよび WebLogic Server の機能を例示します。サーバが起動したら、ブラウザが自動的に起動して、サーバ上で実行中の WebLogic Server Pet Store Demo が表示されます。Pet Store サーバおよび Pet Store アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、*WL\_HOME\samples\server\src\petstore\petstore.html* ファイルを参照してください。

## サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバの起動

Windows システム上で Pet Store サーバを起動するには、次の手順に従います。

- [スタート | プログラム | WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Server 7.0 | Server Tour and Examples | Launch Pet Store] を選択します。

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の起動と停止」を参照してください。

**注意：** サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバは、いずれもポート 7001 を非セキュア リスン ポートとして、ポート 7002 をセキュア リスン ポートとして使用するようコンフィグレーションされているため、これらのサーバをインストール状態のままでは同時に起動できません。同時に実行するには、Administration Console オンライン ヘルプの「リスン ポートの設定」で説明されているように、リスン ポートを再コンフィグレーションする必要があります。

## UNIX システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動

WebLogic Server Pet Store Demo で提供される Pet Store サーバは Pet Store アプリケーションを実行して、J2EE プラットフォームおよび WebLogic Server の機能を例示します。サーバが起動したら、ブラウザが自動的に起動して、サーバ上で実行中の WebLogic Server Pet Store Demo が表示されます。Pet Store サーバおよび Pet Store アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、[SAMPLES\\_HOME/server/src/petStore/petstore.html](SAMPLES_HOME/server/src/petStore/petstore.html) ファイルを参照してください。

UNIX システム上で Pet Store サーバを起動するには、次の手順に従います。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
SAMPLES_HOME/server/src/petStore
```

ここで、*SAMPLES\_HOME* は、*bea/weblogic700/samples* など、WebLogic Platform の全サンプルの場所を表します。

2. 次のコマンドを入力します。

```
startPetStore.sh
```

*startPetStore.sh* スクリプトによって、Pet Store サーバの適切な *CLASSPATH* 変数が設定され、コンフィグレーションが

*SAMPLES\_HOME/server/config/petstore/config.xml* ファイルにロードされます。

サーバの起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server の起動と停止」を参照してください。

**注意：** サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバは、いずれもポート 7001 を非セキュア リスン ポートとして、ポート 7002 をセキュア リスン ポートとして使用するようコンフィグレーションされているため、これらのサーバをインストール状態のままでは同時に起動できません。同時に実行するには、Administration Console オンライン ヘルプの「リスン ポートの設定」で説明されているように、リスン ポートを再コンフィグレーションする必要があります。

## WebLogic Workshop サンプル サーバの起動

WebLogic Workshop は Samples というプロジェクトと共にインストールされます。Samples プロジェクトには、WebLogic Workshop Web サービスの特定の機能を例示する多数のサンプル Web サービスが用意されています。Samples プロジェクトをサポートするために、WebLogic Workshop は、コンフィグレーション済みですぐに実行できる Workshop ドメインと共にインストールされます。

Windows システム上で Workshop サンプル サーバを起動するには、次の手順に従います。

- [ スタート | プログラム | WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Workshop | WebLogic Workshop Examples | Start Examples Server ] を選択します。

**注意：** サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバは、いずれもポート 7001 を非セキュア リスン ポートとして、ポート 7002 をセキュア リスン ポートとして使用するようコンフィグレーションされているため、これらのサーバをインストール状態のままでは同時に起動できません。同時に実行するには、Administration Console オンライン ヘルプの「リスン ポートの設定」で説明されているように、リスン ポートを再コンフィグレーションする必要があります。

## Administration Console の起動

Administration Console は、WebLogic Server の Web ベースの管理ツールです。サーバの Administration Console にアクセスする前に、サーバを起動する必要があります。

**注意：** WebLogic Server の各サーバの起動方法については、7-6 ページの「サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバの起動」を参照してください。Administration Console の詳細については、『管理者ガイド』を参照してください。

Administration Console を起動するには、次の手順に従います。

1. サポートされているブラウザで、次の URL にアクセスします。

```
http://hostname:port/console
```

各値の説明は次のとおりです。

- *hostname* は、WebLogic Server ソフトウェアをインストールしたマシンの名前または IP アドレスです。
  - *port* は管理するサーバのリスン ポートです。WebLogic Server のデフォルトの非セキュア リスン ポートは 7001 です。サンプル サーバ、Pet Store サーバ、および Workshop サンプル サーバでは、非セキュア リスン ポートはデフォルトで 7001 にコンフィグレーションされています。
2. Administration Console では、ユーザ名とパスワードが要求されます。管理するサーバのユーザ名とパスワードを入力します。サンプル サーバと Pet Store サーバでは、weblogic (ユーザ名とパスワード) がデフォルトの管理ユーザです。Workshop サンプル サーバでは、installadministrator (ユーザ名とパスワード) がデフォルトの管理ユーザです。

## 使用している SDK のバージョンの判別

使用している SDK のバージョンを判別する方法には、コマンドラインを使用する方法と、サーバ用に作成されたログ ファイルの内容を調べる方法の 2 種類があります。7-12 ページの表 7-1 「SDK のバージョンの判別」では、それぞれの方法における手順を示します。

表 7-1 SDK のバージョンの判別

SDK の判別方法	実行する手順
コマンドラインの使用	<ol style="list-style-type: none"> <li> <p>コマンドプロンプト ウィンドウを開き、次のディレクトリに移動する。</p> <p><code>WL_HOME\server\bin</code> (Windows)</p> <p><code>WL_HOME/server/bin</code> (UNIX)</p> <p><code>WL_HOME</code> は <b>WebLogic Platform</b> のインストール ディレクトリを表す。</p> </li> <li> <p>プロンプトで次のコマンドを入力し、環境の設定を確認する。</p> <p><code>setWLSenv.cmd</code> (Windows)</p> <p><code>setWLSenv.sh</code> (UNIX)</p> </li> <li> <p>プロンプトで次のコマンドを入力する。</p> <p><code>java -version</code></p> <p><b>WebLogic JRockit</b> を使用している場合は、「<b>BEA WebLogic JRockit(R) Virtual Machine</b>」と出力に表示される。</p> </li> </ol>
サーバログファイルの使用	<ol style="list-style-type: none"> <li> <p>テキスト エディタで、ドメインのサーバログファイルを開く。</p> <p>サーバログファイルの場所は固定されていない。一部のドメインでは、ログファイル名は <code>weblogic.log</code> となり、<code>domain_name\logs</code> ディレクトリにある。<code>domain_name</code> は、コンフィグレーションウィザードを使用してドメインを作成したときに指定したドメイン名またはサンプル ドメイン名のいずれかになる。</p> <p>たとえば、  <code>C:\bea\user_projects\mydomain\logs\weblogic.log</code> など。</p> <p>サーバログファイルの詳細については、『<b>管理者ガイド</b>』の「ログメッセージを使用した <b>WebLogic Server</b> の管理」を参照。</p> <p><b>注意：</b> サーバログファイルは、サーバが最初に起動したときに作成される。</p> </li> <li> <p>ログファイルで以下の値を検索する。</p> <p><code>java.vm.version</code></p> <p><code>java.vm.vendor</code></p> <p>ログファイル内のこれらのエントリには、<b>JVM</b> のビルドバージョンおよび <b>JVM</b> ベンダ (<b>Sun Microsystems Inc.</b>、<b>BEA Systems, Inc.</b> など) が示される。</p> </li> </ol>



## インストール後の作業の実行



# WebLogic Server のアンインストール

以下の節では、**WebLogic Server** をアンインストールするためのプラットフォーム別の手順について説明します。

- 8-1 ページの「アンインストールプログラム」
- 8-9 ページの「アンインストールプログラムによるサービスパックとローリングパッチのアンインストール」
- 8-11 ページの「Smart Update によるサービスパックとローリングパッチのアンインストール」
- 8-12 ページの「WebLogic Server の再インストール」

## アンインストール プログラム

Windows および UNIX システムの両方で、グラフィカル モード、コンソール モード、またはサイレント モードを使用して **WebLogic Server** をアンインストールできます。グラフィカル モードのアンインストールプログラムを実行するには、コンソールが **Java** ベースの **GUI** をサポートしている必要があります。アンインストールプログラムによりシステムが **Java** ベース **GUI** をサポートできないと判定した場合、自動的にコンソール モードのアンインストールが開始されます。

アンインストールの対象は **WebLogic Server** のサンプルのみ、または **WebLogic Server** 全体とします。**WebLogic Server** をアンインストールしても、インストールと関連付けられた **BEA** ホーム ディレクトリや **SDK** は削除されません。**WebLogic Server** 全体の削除を指定した場合、以下のいずれかの条件に該当する場合を除き、アンインストールプログラムによって、インストールに関連付けられている **WebLogic Server** 製品ディレクトリも削除されます。

- 製品ディレクトリに、ユーザが作成したコンフィグレーションまたはアプリケーションファイルがある場合。アンインストールプログラムによって、ユーザが作成したコンフィグレーションまたはアプリケーションファイル、またはドメインが削除されることはありません。
- インストール全体をアンインストールしなかった場合。個別のコンポーネントをアンインストールした場合、そのコンポーネントのインストールディレクトリだけが削除されて、他のコンポーネントのインストールディレクトリは影響を受けません。
- 製品ディレクトリ構造内、特に `uninstaller` ディレクトリ内からアンインストールが呼び出された場合。

サービスパックまたはローリングパッチをインストールしてある場合、アンインストールプログラムを使用して、以前のサービスパックに戻すことができます。8-2 ページの「グラフィカルモードでの **WebLogic Server** のアンインストール」を参照してください。

**注意：** 他の **WebLogic Platform** コンポーネントと共に **WebLogic Server** をインストールした場合の、**WebLogic Platform** コンポーネントのアンインストールについては、『**BEA WebLogic Platform** のインストール』を参照してください。

## グラフィカルモードでの **WebLogic Server** のアンインストール

**WebLogic Server** または **WebLogic Server** のサンプルをグラフィカルインタフェースを使用してアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 実行中のサーバをすべて停止します。**Windows** サービスとしてコンフィグレーションしたサーバがある場合は、ソフトウェアをアンインストールする前にサービスを停止する必要があります。
2. 表 8-1 の説明のとおりアンインストールプログラムを起動します。

表 8-1 グラフィカル モードでのアンインストール プログラムの起動

アンインストール プログラムを起動するプラットフォーム	実行する手順
Windows	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows の [ スタート ] メニューで、 [ スタート   プログラム   BEA WebLogic Platform 7.0   Uninstall WebLogic Platform 7.0 ] を選択する。</li> </ul> <p>WebLogic Platform アンインストーラの [ ようこそ ] ウィンドウが表示される。この表の下の手順 3 に進む。</p>
UNIX	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンド シェルを開き、次のディレクトリに移動する。 <code>WL_HOME/uninstall</code> ここで、<code>WL_HOME</code> は WebLogic Server がインストールされたディレクトリを表す。</li> <li>2. プロンプトで <code>uninstall.sh</code> と入力する。 WebLogic Platform アンインストーラの [ ようこそ ] ウィンドウが表示される。</li> </ol> <p><b>注意：</b> グラフィカル ユーザ インタフェースがサポートされる場合、アンインストール プログラムはグラフィカル モードで起動する。グラフィカル ユーザ インタフェースがサポートされていない場合、アンインストール プログラムはコンソール モードで起動する。手順については、8-4 ページの「コンソール モードでの WebLogic Server のアンインストール」を参照。</p>

3. [Next] をクリックして、アンインストール プログラムを起動します。

以下のいずれかのウィンドウが表示されます。

- [ コンポーネントを選択 ] ウィンドウ — 手順 4 に進みます。
- [ Select Uninstall Type ] ウィンドウ — サービス パックまたはローリング パッチをインストールしてある場合は、システムのインストールを以前のサービス パックに戻すことができます。または、WebLogic Server を完全にアンインストールできます。WebLogic Server をアンインストールするには、[Uninstall WebLogic Server] を選択

して、次の手順に進みます。サービス パックまたはローリング パッチをアンインストールする場合は、8-10 ページの「WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチのグラフィカル モードでのアンインストール」を参照してください。

4. 該当するチェック ボックスをチェックするか、またはチェックをはずしてアンインストールするコンポーネントを選択し、[Next] をクリックします。デフォルトでは、インストールされたコンポーネントがすべて選択されており、削除対象です。
5. [WebLogic Platform 7.0.1.0 をアンインストールしています] ウィンドウで [Done] をクリックし、アンインストール プログラムを終了します。

## コンソール モードでの WebLogic Server のアンインストール

WebLogic Server または WebLogic Server のサンプルをコマンドライン インタフェースを使用してアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 実行中のサーバをすべて停止します。Windows サービスとしてコンフィグレーションしたサーバがある場合は、ソフトウェアをアンインストールする前にサービスを停止する必要があります。
2. 表 8-2 の説明のとおりアンインストール プログラムを起動します。

表 8-2 コンソール モードでのアンインストール プログラムの起動

アンインストール プログラムを起動するプラットフォーム	実行する手順
Windows	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. MS-DOS コマンドプロンプト ウィンドウを開いて、次のディレクトリに移動する。 <code>WL_HOME\uninstall</code> <code>WL_HOME</code> は、WebLogic Server をインストールしたディレクトリ (通常は <code>C:\bea\weblogic700</code>) を表す。</li> <li>2. プロンプトで次のコマンドを入力する。 <code>uninstall -mode=console</code> ウェルカム テキストが表示される。</li> </ol>
UNIX	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンドシェルを開き、次のディレクトリに移動する。 <code>WL_HOME/uninstall</code> ここで、<code>WL_HOME</code> は WebLogic Server がインストールされたディレクトリを表す。</li> <li>2. プロンプトで、次のコマンドを入力する。 <code>sh uninstall.sh -mode=console</code> ウェルカム テキストが表示される。</li> </ol>

3. [Enter] を押すか、`next` と入力して、アンインストール プログラムの次のパネルに進みます。

以下のいずれかのパネルが表示されます。

- [コンポーネントを選択] パネル — 手順 4 に進みます。
- [Uninstall Options] ウィンドウ — サービスパックまたはローリング パッチをインストールしてある場合は、システムのインストールを以前のサービスパックに戻すことができます。または、WebLogic Server を完全にアンインストールできます。WebLogic Server をアンインストールするには、プロンプトで 1 を入力してから [Enter] を押して、次の手順に進みます。サービスパックまたはローリング パッチをアンインストールする場合は、8-10 ページの「WebLogic Server サービスパック

## WebLogic Server のアンインストール

またはローリング パッチのコンソール モードでのアンインストール」を参照してください。

4. アンインストールするコンポーネントを選択します。インストールされているコンポーネントが次のように表示されます。

コンポーネントを選択：

```
Release 7.0
+----WebLogic Server  [0] v
    +----Server  [0.0] v
    +----Workshop  [0.1] v
    +----Server Examples  [0.2] v
```

選択内容を切り替えるには、括弧内に表示される数字を正確に入力してください OR  
[Exit][Previous][Next]> next

デフォルトでは、インストールされたコンポーネントがすべて選択されており、削除対象です。

システムにインストールされたコンポーネントを残すには、括弧内の表示のとおりオプションの数値コードをコマンドラインに入力します。たとえば、**0.0** と入力するとサーバの選択が解除され、システムにインストールされたままになります。

アンインストール プログラムでは依存関係チェックが行われ、アンインストールするコンポーネントを選択したかどうかを確認されます。選択したコンポーネントに依存する他のすべてのコンポーネントもアンインストールするように選択されます。たとえば、サーバ コンポーネントをアンインストールするように選択した場合、アンインストーラは **Workshop** コンポーネントとサーバ サンプルのコンポーネントもアンインストールします。

5. [Enter] を押すか、または next を入力します。

以下のテキストが表示されて、選択内容の確認を求められます。

コンポーネントを選択：

```
->1- はい、これらの選択したコンポーネントを使用します
    2- いいえ、コンポーネントの選択に戻ります
```

選択するインデックス番号を入力してください OR [Exit][Previous][Next]>

6. [Enter] を押すか、または next を入力してアンインストール プロセスを続行します。
7. アンインストール プロセスが完了したら、[Enter] を押すか done と入力してアンインストールを完了し、アンインストール プログラムを終了します。

# サイレント モードでの WebLogic Server のアンインストール

サイレント モードで WebLogic Server をアンインストールすると、WebLogic Server のすべてのインストールがアンインストールされます。以前のサービス パックに戻したり、WebLogic Platform の個々のコンポーネントをアンインストールしたりする場合には、サイレント モードでのアンインストールは使用できません。

サイレント モードでアンインストール プログラムを実行した場合も、GUI モードおよびコンソール モードで実行した場合と同様に、以下のファイルおよびディレクトリが残されます。

- BEA ホーム ディレクトリ (logs および utils サブディレクトリを含む)
- Java 2 JDK (WebLogic Server と共にインストールした場合)
- ドメイン ディレクトリ (user\_projects 内のディレクトリを含む)
- WebLogic Server のインストール後に作成または変更されたその他のファイル

これらのファイルは手動で削除できます。

サイレント モードでのアンインストールを使用して WebLogic Server を手動でアンインストールすることもできますが、サイレント モードはスクリプトでの使用を想定したものです。スクリプトで使用する場合は、表 8-3 の手順を行ってください。

WebLogic Server または WebLogic Server のサンプルをコマンドライン インタフェースを使用してアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 実行中のサーバをすべて停止します。Windows サービスとしてコンフィグレーションしたサーバがある場合は、ソフトウェアをアンインストールする前にサービスを停止する必要があります。
2. 表 8-3 の説明のとおりアンインストール プログラムを起動します。

表 8-3 サイレント モードでのアンインストール プログラムの起動

アンインストール プログラムを起動するプラットフォーム	実行する手順
Windows	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. MS-DOS コマンドプロンプト ウィンドウを開いて、次のディレクトリに移動する。 <code>WL_HOME\uninstall</code> <code>WL_HOME</code> は、WebLogic Server をインストールしたディレクトリ (通常は <code>C:\bea\weblogic700</code>) を表す。</li> <li>2. プロンプトで次のコマンドを入力する。 <code>uninstall -mode=silent</code></li> </ol>
UNIX	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンドシェルを開き、次のディレクトリに移動する。 <code>WL_HOME/uninstall</code> ここで、<code>WL_HOME</code> は WebLogic Server がインストールされたディレクトリを表す。</li> <li>2. プロンプトで、次のコマンドを入力する。 <code>sh uninstall.sh -mode=silent</code></li> </ol>

**注意：** サイレント モードでアンインストール プログラムを実行した場合、アンインストールが進行中であること、正常に完了したこと、またはエラーが発生したことを示すメッセージは表示されません。

サイレント モードでのアンインストール中に冗長なログ ファイルを作成するには、コマンドラインで `-log=/full_path_to_log_file` オプションを含めます。次に例を示します。

```
uninstall -mode=silent -log=d:\logs\weblogic_uninstall.log
```

パスではファイルを指定する必要があります。コマンドを実行する前に、パス内のすべてのフォルダが存在していなければなりません。見つからない場合、インストール プログラムはログ ファイルを作成しません。



# アンインストール プログラムによるサービス パックとローリング パッチのアンインストール

サービス パックまたはローリング パッチをインストールしてある場合、以下のように、システムのインストールを以前のバージョンに戻すことができます。

- システムで、前のサービス パックのインストールに戻すことができます。たとえば、**WebLogic Server 7.0** をインストールし、その後サービス パック **1 (SP1)** をインストールした場合は、**WebLogic Server 7.0** に戻すことができます。システムに **WebLogic Server 7.0 SP1** をインストールし、その後 **WebLogic Server 7.0 SP2** (利用可能な場合) にアップグレードした場合は、**WebLogic Server 7.0 SP1** にだけ戻すことができ、**WebLogic Server 7.0** に戻すことはできません。
- ローリング パッチ アップグレードは、そのローリング パッチの基になる、前のサービス パックに戻すことができます。ローリング パッチは累積的なものです。特定のサービス パックに基づき、各ローリング パッチはそれより前のすべてのローリング パッチに置き換えられます。たとえば、**WebLogic Server 7.0 SP1** をインストールし、その後ローリング パッチ **1** および **2 (RP1** および **RP2)** をインストールした場合は、**WebLogic Server 7.0 SP1** に戻すことができます。以前のローリング パッチに戻すことはできません。

手順については、**8-10** ページの「**WebLogic Server** サービス パックまたはローリング パッチのグラフィカル モードでのアンインストール」または **8-10** ページの「**WebLogic Server** サービス パックまたはローリング パッチのコンソール モードでのアンインストール」を参照してください。

**注意：** サービス パックまたはローリング パッチをインストールした後で追加の **WebLogic Platform** コンポーネントをインストールすると、製品の以前のバージョンに戻すことはできなくなります。

**WebLogic Server** の以前にインストールしたバージョンに戻すには、アンインストール プログラムまたは **Smart Update** を使用できます。**Smart Update** を使用して以前のインストールに戻す手順については、**8-11** ページの「**Smart Update** によるサービス パックとローリング パッチのアンインストール」を参照してください。

## WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチのグラフィカル モードでのアンインストール

WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチをアンインストールするには、次の手順に従います。サービス パックまたはローリング パッチをアンインストールするには、**Smart Update** を使用することもできます。8-11 ページの「**Smart Update** によるサービス パックとローリング パッチのアンインストール」を参照してください。

1. 実行中のサーバをすべて停止します。**Windows** サービスとしてコンフィグレーションしたサーバがある場合は、ソフトウェアをアンインストールする前にサービスを停止してください。
2. 8-3 ページの表 8-1「グラフィカル モードでのアンインストール プログラムの起動」の説明のとおりアンインストール プログラムを起動します。

WebLogic Server アンインストーラの [ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3. [Next] をクリックして、アンインストール プログラムを起動します。  
[Select Uninstall Type] ウィンドウが表示されます。
4. システムのインストールを戻すサービス パックを選択して、[Next] をクリックします。  
ステータス ウィンドウに、アンインストールの進行状況が表示されます。アンインストールが完了すると、メッセージが表示されます。
5. ステータス ウィンドウで [Done] をクリックします。

## WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチのコンソール モードでのアンインストール

WebLogic Server サービス パックまたはローリング パッチをアンインストールするには、次の手順に従います。サービス パックまたはローリング パッチをアンインストールするには、**Smart Update** を使用することもできます。6-5 ページの「**Smart Update** を使用したサービス パックとローリング パッチのインストール」を参照してください。

1. 実行中のサーバをすべて停止します。Windows サービスとしてコンフィグレーションしたサーバがある場合は、ソフトウェアをアンインストールする前にサービスを停止する必要があります。
2. 8-5 ページの表 8-2「コンソール モードでのアンインストール プログラムの起動」の説明のとおりアンインストール プログラムを起動します。  
ウェルカム テキストが表示されます。
3. [Enter] を押すか、next と入力して、アンインストール プログラムの次のパネルに進みます。  
[Uninstall Options] ウィンドウが表示されます。
4. プロンプトで、システムのインストールを戻すサービス パックのオプション番号を選択して、[Enter] をクリックします。  
テキスト メッセージで、アンインストールの進行状況が示されます。

# Smart Update によるサービス パックとローリング パッチのアンインストール

Smart Update を使用して、以下のように、システムのインストールを以前のバージョンに戻すことができます。

- システムで、前のサービス パックのインストールに戻すことができます。たとえば、WebLogic Server 7.0 をインストールし、その後サービス パック 1 (SP1) をインストールした場合は、WebLogic Server 7.0 に戻すことができます。システムに WebLogic Server 7.0 SP1 をインストールし、その後 WebLogic Server 7.0 SP2 にアップグレードした場合は、WebLogic Server 7.0 SP1 にだけ戻すことができ、WebLogic Server 7.0 に戻すことはできません。
- ローリング パッチ アップグレードは、そのローリング パッチの基になる、前のサービス パックに戻すことができます。ローリング パッチは累積的なものです。特定のサービス パックに基づき、各ローリング パッチはそれより前のすべてのローリング パッチに置き換えられます。たとえば、WebLogic Server 7.0 SP1 をインストールし、その後ローリング パッチ 1 および 2 (RP1 および RP2) をインストールした場合は、

WebLogic Server 7.0 SP1 に戻すことができます。以前のローリング パッチに戻すことはできません。

**注意：** サービス パックまたはローリング パッチをインストールした後で追加の WebLogic Platform コンポーネントをインストールすると、製品の以前のバージョンに戻すことはできなくなります。

標準的なアンインストール プロセスを使用してサービス パックまたはローリング パッチをアンインストールすることもできます。詳細については、8-2 ページの「グラフィカル モードでの WebLogic Server のアンインストール」を参照してください。

サービス パックまたはローリング パッチをアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 6-7 ページの表 6-1 「Smart Update の起動」の説明のとおり **Smart Update** を起動します。
2. 左ペインで、元に戻す製品のリリースを選択します。  
アンインストールできる（または元に戻せる）サービス パックまたはローリング パッチが、ウィンドウの [ オプションのダウングレード ] セクションに表示されます。
3. [ オプションのダウングレード ] ペインで、アンインストールするサービス パックまたはローリング パッチを選択して、**[OK]** をクリックします。  
BEA アンインストーラ プログラムが起動します。
4. **[Next]** をクリックして続行します。  
ステータス ウィンドウに、アンインストールの進行状況が表示されます。アンインストールが完了すると、メッセージが表示されます。
5. ステータス ウィンドウで **[Done]** をクリックします。  
[Smart Update] ウィンドウが表示されます。

## WebLogic Server の再インストール

同じコンポーネントの以前の WebLogic Server インストール（同じ BEA ホーム ディレクトリまたは同じファイル ロケーション内）の上に、WebLogic Server またはそのコンポーネントの同じメジャー バージョンを再インストールすることはできません。ただし、既存の

インストールにコンポーネントを追加することはできません。たとえば、あるインストールで WebLogic Server をインストールし、別のインストール時にサーバ サンプルと WebLogic Platform コンポーネントをインストールすることはできません。

同じバージョンの製品コンポーネントの 1 つまたは WebLogic Server 配布キット全体を、同じ場所に再インストールするには、最初に以前のインストールをアンインストールする必要があります。

WebLogic Server 7.0 を、WebLogic Server 7.0 の以前のインストールがある同じ BEA ホームにインストールしようとする、インストール プログラムにより次のメッセージが表示されます。

この BEA ホームには、WebLogic Platform 7.0.1.0 が完全にインストールされています。他の BEA ホームを選択するか、製品をアンインストールしてください。

OK と入力するか、[ 了解 ] をクリックし、[ BEA ホーム ディレクトリの選択 ] プロンプトに戻ります。

以下のオプションのいずれかを選択します。

- 異なる BEA ホーム ディレクトリを使ってソフトウェアのインストールを続行するには、WebLogic Server インストールが入っていない既存の BEA ホーム ディレクトリを選択するか、または新規の BEA ホーム ディレクトリを作成します。
- インストール プログラムを終了します。WebLogic Server 7.0 を同じ BEA ホームに再インストールする場合は、以前のインストールをアンインストールする必要があります。以下の節のいずれかの説明に従って、アンインストール プログラムを起動します。

- 8-2 ページの「グラフィカル モードでの WebLogic Server のアンインストール」

- 8-4 ページの「コンソール モードでの WebLogic Server のアンインストール」

次に、以下の節のいずれかの説明に従って、ソフトウェアを再インストールします。

- 第 2 章「グラフィカルモードインストールによる WebLogic Server のインストール」

- 第 3 章「コンソールモードインストールによる WebLogic Server のインストール」

- 第 4 章「サイレントモードインストールによる WebLogic Server のインストール」



---

# 索引

## 数字

- 128 ビット暗号 5-4
- 128 ビット暗号の有効化  
考慮事項 1-12

## A

- Administration Console  
起動 7-10
- Administrator 特権 1-11

## B

- BEA ホーム ディレクトリ
  - 概要 1-15
  - コンポーネントの説明 1-17
  - サンプル構造 1-16
  - 選択 2-7
  - 複数 1-19
- [BEA ライセンス契約] ウィンドウ 2-7

## C

- config.xml 7-6

## I

- JRockit
  - changing from Sun SDK 1-8
- installer.properties  
変更 4-5

## J

- jdk ディレクトリ
  - 概要 1-17
- JRockit 1-1, 1-5, 1-7

## L

- license.bea
  - 概要 1-18, 5-1
- logs ディレクトリ 1-17

## P

- Pet Store サーバ
  - UNIX での起動 7-9
  - Windows での起動 7-8
  - 起動 7-6

## R

- registry.xml  
概要 1-18

## S

- silent.xml 4-5, 4-11
  - データ値 4-6
- Smart Update
  - サービスパックのインストール 6-1
  - 使用 6-5
- SSL
  - 128 ビット暗号 5-4

## U

- UNIX
  - WebLogic Platform のインストールの  
開始 2-4, 3-4
- UpdateLicense ツール
  - 概要 1-18
- utils ディレクトリ 1-17

## W

WebLogic Express のインストール 1-3

WebLogic Platform 1-1

WebLogic Server の再インストール 8-12

WebLogic Workshop 1-1

weblogic700 ディレクトリ 1-19, 7-4

Windows

WebLogic Platform のインストールの  
開始 2-2

[ スタート ] メニュー ショートカット  
7-1

Windows サービス

要件 1-11

WLS Domain テンプレート 2-12

WLS Pet Store テンプレート 2-12

WLS サンプル テンプレート 2-12

## あ

アップグレード 1-20

アンインストール

ショートカット 7-2

## い

移行 1-20

一時的ストレージの要件 1-10

印刷、製品のマニュアル x

インストール

UNIX システム上での GUI モードイ  
ンストールの開始 2-4

UNIX システム上でのコンソールモー  
ドインストールの開始 3-4

Windows システム上での GUI モード  
インストールの開始 2-2

コンソールモード 3-4

サイレント 4-2, 4-3

インストール ログ

冗長 1-19

インストール タイプ 1-13, 2-8

インストール プログラム

ウィンドウの説明 2-7

コンソールモードの説明 3-8

インストール方法 1-3

## う

ウィンドウの説明

[BEA ライセンス契約] 2-7

[BEA ホーム ディレクトリを選択] 2-7

[インストール タイプを選択] 2-8

[コンフィグレーション ウィザードを  
実行] 2-12

[コンポーネントを選択] 2-9

[製品ディレクトリを選択] 2-11

[ようこそ] 2-7

## か

カスタマ サポート情報 xi

カスタム インストール 1-13, 2-8

## く

クラスタ

コンフィグレーション 2-12

グラフィカル モード 1-3

## こ

更新

ライセンス 5-2

考慮事項

128 ビット暗号の有効化 1-12

コンソール モード 1-3

コンソールモード インストール 3-4

実行 3-8

コンフィグレーション ウィザード 2-12

オプション 2-13

概要 2-12

起動 7-2

サイレント モード 4-6

実行 2-12, 2-13

ショートカット 7-2

テンプレート 2-12



コンポーネント  
選択 2-9

## さ

サーバ  
    コンフィグレーション 2-12  
サーバ サンプルと例  
    インストール 1-13  
サービスパック  
    インストール プロセス 6-1  
    可用性のチェック 6-1  
サイレントインストール  
    UNIX システム上でのインストールの  
        開始 4-22  
    Windows システム上でのインストー  
        ルの開始 4-21  
    オプション 4-6  
    概要 4-1  
    テンプレート 4-11  
    テンプレート ファイルの作成 4-5  
    プロセス 4-3  
サイレント モード 1-3  
サポート  
    技術情報 xi  
サンプル サーバ  
    UNIX での起動 7-8  
    Windows での起動 7-7  
    起動 7-6

## し

システム パスワード  
    サイレントインストールでの設定 4-7  
システム要件 1-9  
実行 2-12  
冗長なインストール ログ 1-19

## す

[ スタート ] メニュー 7-1

## せ

製品のインストール ディレクトリ 1-19,  
2-11, 7-4

## そ

ソフトウェア要件 1-11

## た

ダウンロード サイト 2-2

## て

ディレクトリ構造 7-4  
テンプレート  
    サイレントインストール 4-5, 4-11

## と

ドメイン  
    コンフィグレーション 2-12  
    ディレクトリ構造 7-6

## ね

ネット インストーラ 1-4

## は

配布  
    CD-ROM 1-4  
    Web 1-4  
パッケージインストーラ 1-4

## ひ

評価ライセンス 1-12, 5-2  
標準インストール 1-13, 2-8

## ま

マニュアル、入手先 x

---

## む

無期限のライセンス 5-2

## ゆ

ユーザ プロジェクト  
ショートカット 7-2

## よ

要件  
一時的ストレージ 1-10  
system 1-9  
ソフトウェア 1-11

## ら

ライセンス  
128 ビット暗号 5-4  
概要 1-12, 5-1  
更新 5-2  
評価 5-2  
無期限 5-2

## れ

例  
インストール 2-9

## ろ

ログ  
冗長 1-19